

ユーザーズガイド – ネットワーク編 –

ネットワーク操作編

- 第1章 はじめに
- 第2章 ネットワークを設定する
- 第3章 無線LANを設定する
- 第4章 操作パネルで設定する
- 第5章 ウェブブラウザで管理する
- 第6章 インターネットファクス機能を使う
- 第7章 セキュリティー機能を使う
- 第8章 ネットワーク機能を使う
- 第9章 困ったときは（トラブル対処方法）

ネットワーク知識編

- 第10章 ネットワーク接続とプロトコルについて
- 第11章 ネットワークの設定について
- 第12章 無線LANの用語と概念
- 第13章 Windows[®]でネットワークを設定する
- 第14章 セキュリティの用語と概念

付録

- 第15章 付録

ブラザーのサポートサイトにアクセスして
最新の情報を調べる

<http://support.brother.co.jp/>

サポート ブラザー

検索



オンラインユーザー登録をお勧めします。

Brother Online



<https://online.brother.co.jp/>

ご登録いただくと、製品をより快適にご使用いただくための情報をいち早くお届けします。

目 次

目 次	2
やりたいこと目次	7
本書の見かた	8
マークについて	8
イラスト／画面について	8
編集ならびに出版における通告	8
ネットワーク操作編	9
第 1 章 はじめに	10
ネットワークの概要	10
OS 別機能対応表	10
その他のネットワーク機能	11
無線 LAN 機器使用の際のご注意	11
第 2 章 ネットワークを設定する	12
操作パネルから設定する	12
ウェブブラウザで設定する	12
BRAdmin Light で設定する	12
BRAdmin Light をインストールする	13
IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定する	14
BRAdmin Professional で設定する (Windows® のみ)	17
第 3 章 無線 LAN を設定する	18
概要	18
ネットワーク環境を確認する	19
ネットワーク上の無線 LAN アクセスポイントとパソコンが接続されている場合 (インフラストラクチャ通信)	19
ネットワーク上に無線 LAN アクセスポイントがなく、無線通信可能なパソコンが 接続されている場合 (アドホック通信)	20
無線 LAN 設定を始める前に	21
無線 LAN を設定する	22
付属の CD-ROM を使って自動設定をする (推奨)	22
無線 LAN アクセスポイントの簡単設定 (WPS/AOSS™) を使用する (インフラストラクチャ通信のみ)	22
WPS の PIN コード入力方式を使用する	23
無線接続ウィザードで無線 LAN 設定をする	25

第 4 章 操作パネルで設定する	29
有線 LAN/ 無線 LAN の設定	29
TCP/IP の設定	29
イーサネット（有線 LAN のみ）	31
有線 LAN 状態（有線 LAN のみ）	31
接続アシスタント（無線 LAN のみ）	31
無線接続ウィザード（無線 LAN のみ）	32
WPS/AOSS™（無線 LAN のみ）	32
WPS（PIN コード）（無線 LAN のみ）	32
無線状態（無線 LAN のみ）	32
MAC アドレス	32
Wi-Fi Direct® 接続	33
E メール / FAX の設定（MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ）	34
メールアドレス	34
サーバー設定	34
メール受信設定	35
メール送信設定	36
リレー設定	36
手動受信	36
Web 接続設定	37
Mopria™ で印刷する	37
有線 LAN/ 無線 LAN を切り替える	37
ネットワーク設定リセット	38
ネットワーク設定リストの出力	39
無線 LAN レポートの出力	41
ネットワークメニュー一覧	42
第 5 章 ウェブブラウザで管理する	45
概要	45
ウェブブラウザを使用して本製品を設定する	46
セキュリティ機能ロック 2.0	48
ウェブブラウザを使ってセキュリティ機能ロック 2.0 を設定する	48
パソコンのログイン名で印刷を制限する	50
その他の設定	50
ウェブブラウザを使用して、SNTP プロトコルの設定を変更する	51
印刷ログ機能（MFC-J6990CDW のみ）	53
印刷ログ機能を設定する	53
エラーメッセージについて	55
セキュリティ機能ロック 2.0 を設定して印刷ログ機能を使用する	56
ウェブブラウザを使用して、スキャン to FTP の設定を変更する	57
ウェブブラウザを使用して、スキャン to ネットワークの設定を変更する（Windows® のみ）	58
IP ファクスを設定する	59

第 6 章 インターネットファクス機能を使う	60
インターネットファクス機能とは	60
インターネットファクスについて	61
インターネットファクスを使うには	62
インターネットファクスの設定をする	62
インターネットファクスを送信する	66
インターネットファクスを受信する	68
インターネットファクスのその他の機能	71
受信した E メールやファクスを転送する	71
リレー配信する	73
本製品から送り、他の機器に中継させる場合	74
インターネットファクスで受信した文書を本製品から他のファクス機器に 送信する場合	77
パソコンからリレー配信を行う	79
確認メールについて	80
エラーメールについて	80
第 7 章 セキュリティー機能を使う	81
概要	81
安全な Eメールの送受信 (MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ)	82
Eメール通達機能について	82
ウェブブラウザを使って設定する	83
ユーザー認証を使用して Eメールを送信する	84
SSL/TLS を使用して Eメールを送受信する	85
BRAdmin Professional を使って安全に管理する (Windows® のみ)	86
証明書を使って安全に管理する	87
CA 証明書をインポート／エクスポートする	88
複数の証明書を管理する	90
第 8 章 ネットワーク機能を使う	91
ネットワークスキャン機能を使う	91
ネットワークスキャン機能とは	91
ネットワークスキャンの設定	91
ネットワーク PC-FAX 送信機能を使う	95
ネットワーク PC-FAX 送信機能とは	95
ネットワーク PC-FAX 送信機能を使う	95
ネットワークリモートセットアップ機能を使う	97
ネットワークリモートセットアップ機能とは	97

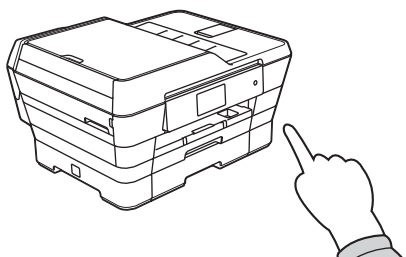
第 9 章 困ったときは（トラブル対処方法）	99
無線 LAN アクセスポイントに接続できない	99
インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない	100
印刷／スキャンできない	101
ネットワーク機器に問題がないか調べるには	102
セキュリティーソフトウェアについて	103
ネットワークの設定がうまくいかないときは	104
「ネットワーク診断修復ツール」を使用する（Windows® のみ）	105
手動で確認、変更する	106
ネットワーク知識編	108
第 10 章 ネットワーク接続とプロトコルについて	109
ネットワークの接続方法について	109
有線 LAN 接続	109
プロトコルについて	111
TCP/IP プロトコルと機能について	111
第 11 章 ネットワークの設定について	113
IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイについて	113
IP アドレスとは	113
サブネットマスクとは	114
ゲートウェイ（ルーター）とは	114
第 12 章 無線 LAN の用語と概念	115
ネットワークを指定する	115
SSID とチャンネル	115
セキュリティー用語	115
認証方式と暗号化について	115
パーソナル（無線 LAN）モードでの認証方式と暗号化について	115
第 13 章 Windows® でネットワークを設定する	117
ネットワークプリンター設定の種類	117
Web Services を使用する（Windows Vista®、Windows® 7、Windows® 8 のみ）	117
Vertical Pairing を使用する（Windows® 7、Windows® 8 のみ）	120
Wi-Fi Direct® 接続で Vertical Pairing を使用する（Windows® 8.1 のみ）	122

第 14 章 セキュリティーの用語と概念	123
セキュリティの特長	123
セキュリティ用語	123
セキュリティープロトコル	123
E メール送受信のセキュリティー方法（MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ）	124
付録.....	125
第 15 章 付録	126
用語集	126
無線 LAN に関する用語	130
ネットワークの仕様.....	132
有線 LAN	132
無線 LAN	132
サービスを使用する	133
IP アドレスの設定方法（上級者ユーザー、ネットワーク管理者向け） ...	134
DHCP を使用して IP アドレスを設定する	134
BOOTP を使用して IP アドレスを設定する	134
RARP を使用して IP アドレスを設定する	135
APIPA を使用して IP アドレスを設定する	135
ARP を使用して IP アドレスを設定する	136
索引	137

やりたいこと目次

操作パネルを使ってネットワークの設定をする
操作パネルを使用して、ネットワーク上で本製品を使用するための設定ができます。

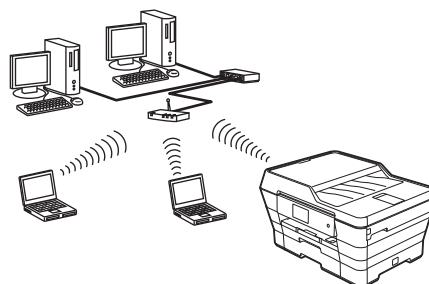
29 ページ



無線 LAN を使う

LAN ケーブルを使用しないで、無線でネットワークに接続できます。

18 ページ

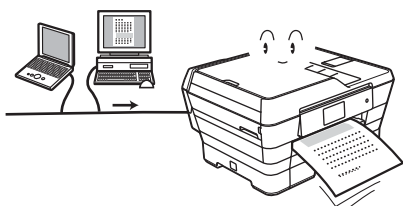


ネットワークプリンターとして使う

本製品をネットワーク環境で使用します。ネットワーク上の複数のパソコンから印刷できます。

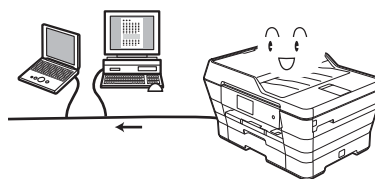
12 ページ

⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「プリンター」



ネットワークスキャナーとして使う

本製品をネットワーク上で共有できるスキャナーとして利用できます。91 ページ



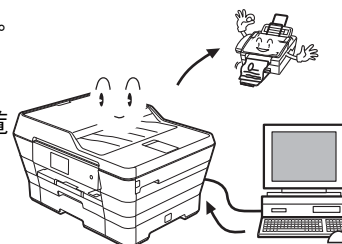
ネットワーク PC-FAX を使う

パソコン上のアプリケーションで作成したファイルを印刷せずに送信できます。

95 ページ

ネットワーク PC-FAX 受信機能 (Windows® のみ) については、下記をご覧ください。

⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「パソコンでファクスを受信する」



ネットワークリモートセットアップ

本製品にネットワーク経由でアクセスして、各種設定を変更できます。97 ページ

BRAdmin Light を使って本製品を管理する

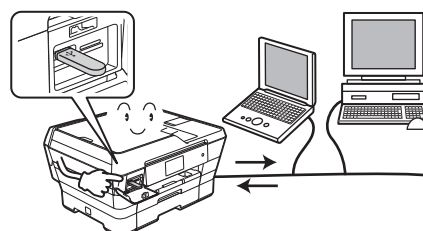
付属のソフトウェア BRAdmin Light を使ってアクセスし、管理や設定をすることができます。12 ページ

ネットワークでメディアを利用する

[ネットワークメディアカードアクセス]

ネットワークで接続された複数のパソコンから、本製品にセットしたメモリーカードや USB フラッシュメモリーなどのメディアにアクセスできます。

⇒ユーザーズガイド パソコン活用編



本書の見かた

● マークについて

本文中では、マークについて、次のように表記しています。

	本製品をお使いになるにあたって、注意していただきたいことがらを説明しています。
	本製品の操作手順に関する補足情報を説明しています。

● イラスト／画面について

外観イラストおよび表示される画面は、MFC-J6973CDW を代表で使用しています。

モデル特有の機能の場合は、該当モデルのイラストを使用しています。

お使いのモデルによっては、本書で使用している操作パネルのボタンとデザインが異なる場合があります。該当するボタンに読み替えてください。

● 編集ならびに出版における通告

本マニュアルならびに本製品の仕様は予告なく変更されることがあります。

ブラザー工業株式会社は、本書に掲載された仕様ならびに資料を予告なしに変更する権利を有します。また提示されている資料に依拠したため生じた損害（間接的損害を含む）に対しては、出版物に含まれる誤植その他の誤りを含め、一切の責任を負いません。

© 2015 Brother Industries, Ltd. All rights reserved.

ネットワーク操作編

第 1 章	はじめに.....	10
第 2 章	ネットワークを設定する	12
第 3 章	無線 LAN を設定する	18
第 4 章	操作パネルで設定する	29
第 5 章	ウェブブラウザで管理する	45
第 6 章	インターネットファクス機能を使う	60
第 7 章	セキュリティー機能を使う.....	81
第 8 章	ネットワーク機能を使う	91
第 9 章	困ったときは（トラブル対処方法）	99

第1章 はじめに

ネットワークの概要

本製品のネットワークインターフェイスを利用して LAN または WAN に接続し、ネットワーク上のパソコンから本製品で原稿のスキャンや印刷ができます。
本製品は、IEEE802.11b/g/n 無線ネットワークに対応し、無線認証およびセキュリティを使用したインフラストラクチャ通信またはアドホック通信で動作します。
付属のソフトウェア BRAAdmin Light を使用して、ネットワークインターフェイスの設定ができます。
本書は、本製品をネットワーク上で使用するために必要な設定方法について説明しています。
パソコンの OS によって、使用できるネットワーク機能が異なります。詳細は以下をご覧ください。



- 無線 LAN と有線 LAN を同時に使用することはできません。同時に接続していても、【有線 / 無線切替え】で設定されている接続が有効になります。ただし、無線 LAN 接続と Wi-Fi Direct[®] 接続、有線 LAN 接続と Wi-Fi Direct[®] 接続は同時に使用できます。
- Wi-Fi Direct[®] 接続について詳しくは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）から「Wi-Fi Direct ガイド」をダウンロードしてご覧ください。

● OS 別機能対応表

機能	Windows [®] XP/Windows Vista [®] / Windows [®] 7/Windows [®] 8/ Windows [®] 8.1	Windows Server [®] 2003/2003 R2/ 2008/2008 R2/2012/2012 R2	Mac OS X v10.8.5/10.9.x/ 10.10.x
ネットワークプリンター ⇒ 12 ページ「ネットワークを設定する」 ⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「プリンター」	○	○	○
ネットワークスキャン ⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「スキャナー」	○	—	○
ネットワーク PC-FAX 送信 ⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「PC-FAX」	○	—	○
ネットワーク PC-FAX 受信 ⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「PC-FAX」	○	—	—
ネットワークメディアカードアクセス	○	—	○
管理ユーティリティ BRAAdmin Light ^{*1} ⇒ 12 ページ「BRAAdmin Light で設定する」	○	○	○
管理ユーティリティ BRAAdmin Professional ^{*2} ⇒ 17 ページ「BRAAdmin Professional で設定する (Windows [®] のみ)」	○	○	—
管理ユーティリティウェブブラウザ ⇒ 45 ページ「ウェブブラウザで管理する」	○	○	○
ネットワークリモートセットアップ ⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「リモートセットアップ」	○	○	○
ステータスマニター Windows [®] の場合 ⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「印刷状況やインク残量を確認する (ステータスマニター)」 Macintosh の場合 ⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「印刷状況を確認する (ステータスマニター)」	○	—	○
Vertical Pairing ⇒ 120 ページ「Vertical Pairing を使用する (Windows [®] 7、Windows [®] 8 のみ)」	○ ^{*3}	—	—

*1 最新の BRAAdmin Light は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からダウンロードしてご使用ください。

*2 最新の BRAAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からダウンロードしてご使用ください。

*3 Windows[®] 7、Windows[®] 8 のみ

● その他のネットワーク機能

インターネットファクス（MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ）

インターネットファクスは、インターネット回線を使用してファクスを送受信する機能です。

⇒ 60 ページ「インターネットファクス機能を使う」

セキュリティー機能

本製品は、最新のネットワークセキュリティーと暗号化プロトコルに対応しています。

⇒ 81 ページ「セキュリティー機能を使う」

セキュリティー機能ロック 2.0

ウェブブラウザを使用して、ユーザーごとにできる機能を制限することができます。

⇒ 48 ページ「セキュリティー機能ロック 2.0」

Web 接続設定

本製品からウェブサービスにアクセスすると、画像データをアップロードしたり、ダウンロードして印刷することができます。詳しくは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）から「クラウド接続ガイド」をダウンロードしてご覧ください。

● 無線 LAN 機器使用の際のご注意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としています。本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。



無線電波の使用可能距離は、最大 70m です。本製品の設置場所や周囲の環境、また使用する機器の種類により、使用可能距離や通信速度は異なります。

第2章 ネットワークを設定する

ネットワークを設定するには、次の方法があります。

操作パネルから設定する

本製品のネットワーク設定を操作パネルからネットワークメニューを使用して設定できます。

⇒ 29 ページ「操作パネルで設定する」

ウェブブラウザで設定する

HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されている本製品の管理ができます。パソコンにインストールされている標準ウェブブラウザを使用して、ネットワーク上の本製品のステータス情報を取得し、本製品およびネットワーク設定を変更することができます。

⇒ 45 ページ「ウェブブラウザで管理する」



ウェブブラウザによる設定を行うためには、本製品の TCP/IP 設定（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイなど）が完了している必要があります。

⇒ 29 ページ「操作パネルで設定する」

BRAdmin Light で設定する

BRAdmin Light は、ネットワークに接続された本製品の初期設定をするユーティリティソフトです。ネットワーク上の本製品の検索やステータス表示、IP アドレスなどのネットワークの基本設定が行えます。



- TCP/IP ネットワークで接続された本製品を自動的に検索し、IP アドレスなどのネットワーク設定を変更できるので、ネットワーク管理が簡単に行えるようになります。
- BRAdmin Light は、Windows® XP、Windows Vista®, Windows® 7、Windows® 8、Windows Server® 2003/2003 R2/2008/2008 R2/2012/2012 R2 および Mac OS X v10.8.5 以降に対応しています。
- さらに高度なプリンター管理を必要とする場合は、BRAdmin Professional（Windows® のみ）をご利用ください。BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からダウンロードしてご使用ください。



アンチウィルスソフトのファイアウォール機能が設定されている場合、BRAdmin Light の「稼働中のデバイスの検索」機能が利用できないことがあります。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

● BRAdmin Light をインストールする

● Windows® の場合

あらかじめ、BRAdmin Light をインストールする必要があります。次の手順でインストールを行ってください。



起動しているアプリケーションがある場合は、終了させてからインストールを始めてください。



1 付属のドライバー&ソフトウェア CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

トップメニュー画面が表示されます。



自動的にトップメニュー画面が表示されないときは、下記の操作を行ってください。

(Windows® XP の場合)

[マイ コンピュータ] から CD-ROM ドライブをダブルクリックし、[start.exe] をダブルクリックしてください。

(Windows Vista® の場合)

[コンピュータ] から CD-ROM ドライブをダブルクリックし、[start.exe] をダブルクリックしてください。

(Windows® 7 の場合)

[コンピューター] から CD-ROM ドライブをダブルクリックし、[start.exe] をダブルクリックしてください。

(Windows® 8 の場合)

タスクバーにある  (エクスプローラー) をクリックし、[コンピューター (PC)] から CD-ROM ドライブをダブルクリックし、[start.exe] をダブルクリックしてください。



2 [カスタムインストール] - [ネットワークユーティリティ] をクリックします。



3 [BRAdmin Light] をクリックします。

画面の指示に従って、インストールします。

● Macintosh の場合



1 サポートサイト (ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>) へアクセスします。



2 [ソフトウェアダウンロード] をクリックします。



3 「製品名から探す」にお使いのモデル名を入力し、[検索] をクリックします。

4 お使いの OS とバージョンを選択し、[決定] をクリックします。

5 ユーティリティソフトウェアの項目の中の [BRAdmin Light] をクリックし、ダウンロード手順を確認後、[使用許諾に同意してダウンロード] をクリックします。
ダウンロードが完了したら、ダウンロードしたファイルをダブルクリックし、画面の指示に従って BRAdmin Light をインストールしてください。

● IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定する



- 最新の BRAdmin Light はサポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からダウンロードできます。
- さらに高度なプリンター管理を必要とされる場合は、BRAdmin Professional（Windows® のみ）をご利用ください。
BRAdmin Professional はサポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からダウンロードできます。
- BRAdmin Light を操作するパソコンで、ファイアウォールを有効にしている場合は、BRAdmin Light の「稼働中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォールを無効に設定してください。
- BRAdmin Light で表示される本製品のお買い上げ時ノード名は、有線 LAN の場合は [BRNxxxxxxxxxxxx]、無線 LAN の場合は [BRWxxxxxxxxxxxx] となっています。（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

1 BRAdmin Light をインストールします。
⇒ 13 ページ「BRAdmin Light をインストールする」

2 (Windows® XP、Windows Vista®, Windows® 7、Windows Server® 2003/2008 の場合)

(スタート) メニューから [すべてのプログラム] - [Brother] - [BRAdmin Light] - [BRAdmin Light] の順にクリックします。

(Windows® 8、Windows Server® 2012 の場合)

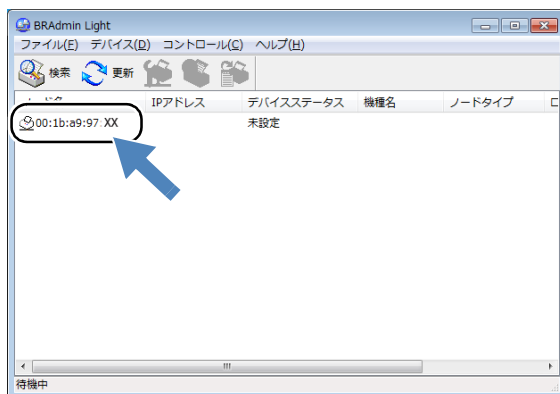
(BRAdmin Light) をクリックします。

(Macintosh の場合)

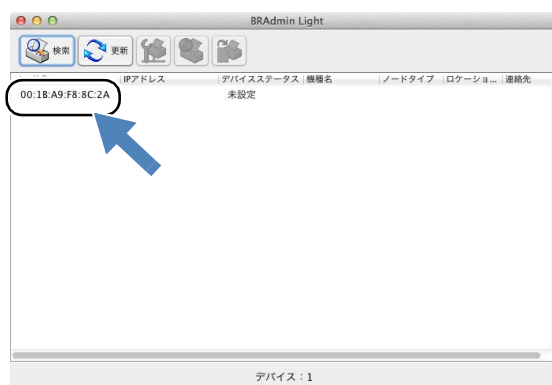
[Finder] メニューから [移動] - [アプリケーション] - [Brother] - [Utilities] - [BRAdminLight2] - (BRAdmin Light.jar) をダブルクリックします。

BRAdmin Light が新しいデバイスを自動的に検索します。

3 新しいデバイスをダブルクリックします。



Windows®



Macintosh

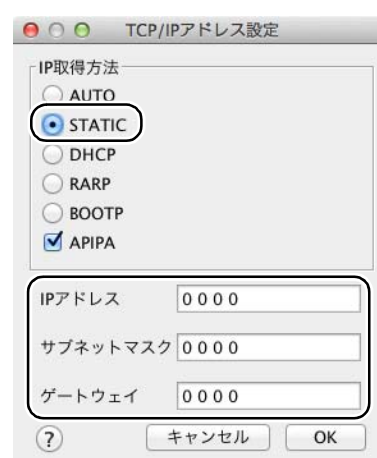


- ネットワークインターフェイスがすでに設定されている場合や IP アドレスの自動設定機能により IP アドレスが割り当て済みの場合には、デバイスステータスに「未設定」とは表示されません。その場合は、設定を変更せずに本製品を利用することをお勧めします。
- 本製品に現在設定されているノード名や MAC アドレスを調べる場合は、「ネットワーク設定リスト」を印刷してください。
⇒ 39 ページ「ネットワーク設定リストの出力」
ノード名や MAC アドレスは、操作パネルからも確認できます。
⇒ 29 ページ「操作パネルで設定する」

4 [STATIC] を選択して、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイ] を入力します。

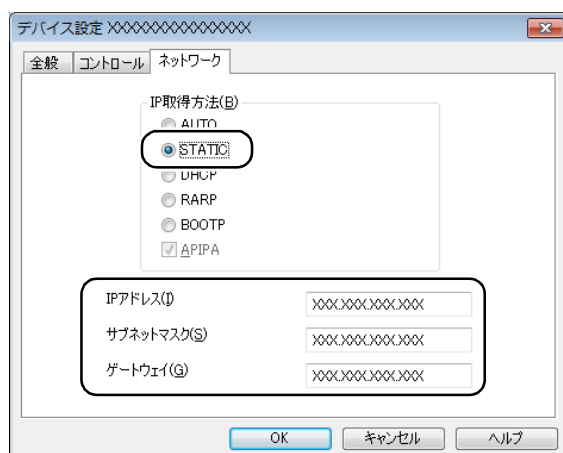


Windows®



Macintosh

(各項目がすでに設定されている場合)
[ネットワーク] タブをクリックします。



Windows®



Macintosh

5

[OK] をクリックします。

本製品に IP アドレスが正しく設定されると、ウィンドウの左側にノード名およびプリンター名が表示されます。

BRAdmin Professional で設定する (Windows® のみ)

本製品では、BRAdmin Light 以外にも、BRAdmin Professional を使用して、ネットワークの設定を変更できます。BRAdmin Professional は、ネットワークに接続されている本製品の管理をするためのユーティリティです。Windows® システムが稼働するパソコンからネットワーク上の本製品の検索、状態の閲覧、ネットワーク設定の変更ができます。詳しい情報とダウンロードについては、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）をご覧ください。



- 最新の BRAdmin Professional はサポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からダウンロードできます。
- BRAdmin Professional を操作するパソコンで、ファイアウォールを有効にしている場合は、BRAdmin Professional の「ネットワークを検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォールを無効に設定してください。
- BRAdmin Professional で表示される本製品のお買い上げ時ノード名は、有線 LAN の場合は [BRNxxxxxxxxxxx]、無線 LAN の場合は [BRWxxxxxxxxxxx] となっています。（「xxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

第 3 章 無線 LAN を設定する

概要

本製品をお使いの無線 LAN に簡単に接続する方法について、詳しくは「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

より詳しい無線 LAN 設定については、この章をご覧ください。

TCP/IP の設定については、下記をご覧ください。

⇒ 12 ページ「BRAdmin Light で設定する」

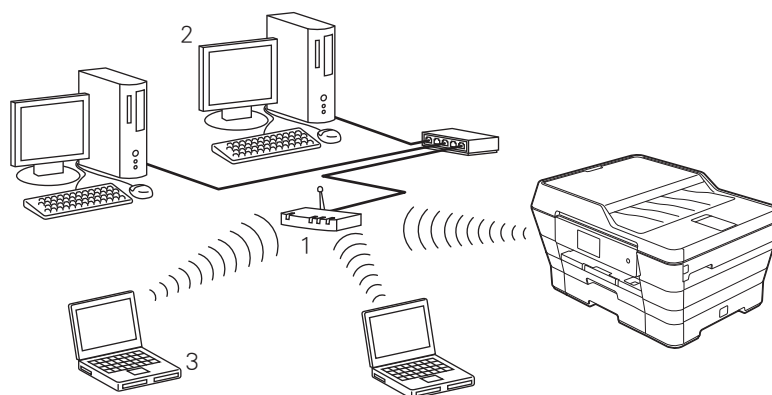


- 【有線 / 無線切替え】を【無線 LAN】に設定すると、操作パネルの Wi-Fi ランプ () が点灯します。
- 本製品を無線 LAN アクセスポイント（または無線 LAN 対応のパソコン）の近くに設置してください。
- 本製品と無線 LAN アクセスポイントの間に、金属、アルミサッシ、鉄筋コンクリート壁があると、接続しにくくなる場合があります。
- 本製品の近くに、微弱な電波を発する電気製品（特に電子レンジやデジタルコードレス電話）を置かないでください。
- 環境によっては、有線 LAN 接続や USB 接続と比べて、通信速度が劣る場合があります。写真などの大きなデータを印刷する場合は、有線 LAN または USB 接続で印刷することをお勧めします。
- 無線 LAN と有線 LAN を同時に使用することはできません。同時に接続していても、【有線 / 無線切替え】で設定されている接続が有効になります。ただし、無線 LAN 接続と Wi-Fi Direct[®] 接続、有線 LAN 接続と Wi-Fi Direct[®] 接続は同時に使用できます。
- Wi-Fi Direct[®] 接続について詳しくは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）から「Wi-Fi Direct ガイド」をダウンロードしてください。
- 無線 LAN 設定を行うには、お使いの無線 LAN アクセスポイントに設定されている SSID（ネットワーク名）とネットワークキーを調べておく必要があります。

ネットワーク環境を確認する

● ネットワーク上の無線 LAN アクセスポイントとパソコンが接続されている場合（インフラストラクチャ通信）

（推奨：本ガイドでは、インフラストラクチャ通信による設定について説明しています。）
インフラストラクチャ通信のネットワークでは、ネットワークの中心に無線 LAN アクセスポイントが設置され、有線のネットワークへ橋渡しをするほかにゲートウェイとしても機能します。本製品をインフラストラクチャモードに設定している場合は、すべての印刷ジョブを無線 LAN アクセスポイントを経由して受け取ります。



- 1 無線 LAN アクセスポイント
- 2 有線 LAN で無線 LAN アクセスポイントに接続されているパソコン
- 3 無線 LAN で無線 LAN アクセスポイントに接続されているパソコン

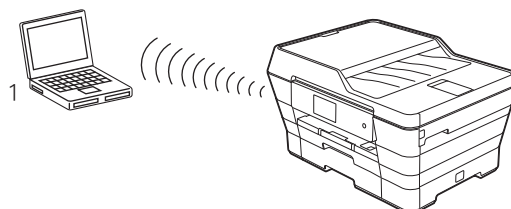
本製品の無線 LAN 設定をする場合は、次の 4 つの方法があります。

- 付属の CD-ROM を使って自動設定をする（推奨）
- 無線 LAN アクセスポイントの簡単設定（WPS/AOSS™）を使用する
- 本製品の操作パネルから手動で無線 LAN 設定をする
- WPS の PIN コード入力方式を使用する

設定手順はご使用のネットワーク環境によって異なります。

● ネットワーク上に無線 LAN アクセスポイントがなく、無線通信可能なパソコンが接続されている場合（アドホック通信）

アドホック通信のネットワークでは、無線 LAN アクセスポイントが存在しません。それぞれの無線機器は個別に直接通信します。本製品をアドホックモードに設定している場合は、印刷データを送信するパソコンからすべての印刷を直接受け取ります。



1 無線 LAN 対応のパソコン



- 無線 LAN ファクスモデルは、アドホック通信に対応していません。
- アドホック通信は、機器間のみで通信を行います。通信規格上セキュリティーレベルを高くすることができませんので、安全な無線通信を行うためにインフラストラクチャ通信をお勧めします。
- アドホック通信を行うための設定は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）の「よくあるご質問（Q&A）」をご覧ください。

無線 LAN 設定を始める前に



- 手動設定を行うには、お使いの無線 LAN アクセスポイント（ルーターなど）に設定されている情報が必要です。必ず、無線 LAN アクセスポイントの設定を確認してください。
- 無線 LAN アクセスポイントに設定されている情報は本製品からは調べるできません。お使いの無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。それでもわからない場合は、お使いの無線 LAN アクセスポイントのメーカーにお問い合わせください。
- パーソナルファイアウォール（Windows® ファイアウォールなど）を有効にしている場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてからドライバーのインストールを行ってください。無線 LAN の設定が完了したあとで、パーソナルファイアウォールを有効に戻してください。設定方法については、ソフトウェア提供元へご相談ください。
- すでに本製品で無線 LAN 設定を行ったことがあり、設定をし直す場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。
⇒ 38 ページ「ネットワーク設定リセット」

無線 LAN を設定する



- 本製品を無線 LAN に接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、無線 LAN の設定を確認してください。
- すでに本製品で無線 LAN 設定を行ったことがあり、設定をし直す場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。
⇒ 38 ページ「ネットワーク設定リセット」

● 付属の CD-ROM を使って自動設定をする（推奨）

一時的に USB ケーブルを使う場合があります。付属の USB ケーブルをご用意ください。
設定の方法について、詳しくは「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

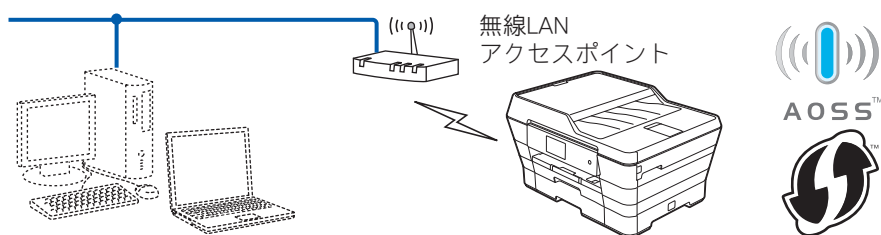


無線 LAN 接続設定ができないまま、プリンタードライバーなどのインストールを進めると、エラーメッセージが表示されることがあります。本製品を無線 LAN 接続で使用する場合は、設定を完了してからインストールを行ってください。

● 無線 LAN アクセスポイントの簡単設定(WPS/AOSS™)を使用する（インフラストラクチャ通信のみ）

本製品を接続する無線 LAN アクセスポイントが WPS/AOSS™*1（PBC*2 方式）のどちらかに対応している場合は、操作パネルから無線 LAN アクセスポイントの簡単設定を使用して、自動で本製品の無線 LAN 設定ができます。

設定の方法について、詳しくは「かんたん設置ガイド」をご覧ください。



*1 WPS は Wi-Fi Protected Setup、AOSS™ は AirStation One-Touch Secure System の略です。

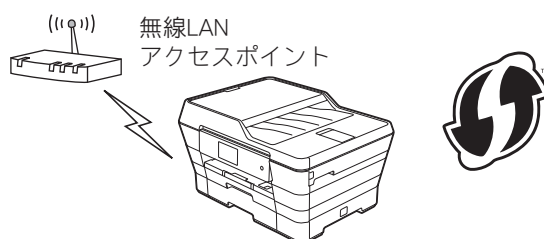
*2 Push Button Configuration

● WPS の PIN コード入力方式を使用する

本製品を接続する無線 LAN アクセスポイントが WPS に対応している場合は、WPS の PIN (Personal Identification Number : 個人認証番号) 方式を使用して本製品の無線 LAN 設定をすることもできます。

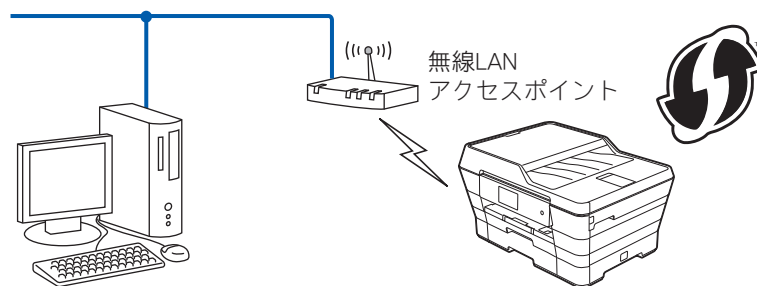
● 無線 LAN アクセスポイントをレジストラとして使用する場合の接続

無線 LAN アクセスポイントを無線 LAN のレジストラ (登録管理機器) として使用します。



● パソコンなど別の機器をレジストラとして使用する場合の接続

無線 LAN アクセスポイントに接続しているパソコンなどを無線 LAN のレジストラ (登録管理機器) として使用します。



PIN コードを使用してネットワークに本製品を接続するには、お使いのルーターや無線 LAN アクセスポイントが WPS に対応している必要があります。次のロゴがついているかご確認ください。詳しくは、お使いの無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



1 待ち受け画面の を押し、【WPS (PIN コード)】を押します。

【WPS (PIN コード)】が表示されていないときは、▼ / ▲ を押して画面を送ります。

本製品が有線 LAN に設定されていた場合は、無線 LAN に切り替える確認画面が表示されます。
【はい】を押します。



【WPS (PIN コード)】は、 【メニュー】を押し、【全てのメニュー】、【ネットワーク】、【無線 LAN】の順に押しても選択できます。

2 本製品の PIN コードをパソコンから無線 LAN アクセスポイントまたはレジストラへ登録します。

本製品の画面に、接続が正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。



- 登録の方法について詳しくは、無線 LAN アクセスポイントまたはレジストラのマニュアルをご覧ください。
- WPS (PIN コード) 設定中は最長で 5 分程度、操作ができなくなります。
- 設定を中止したい場合は、 を押します。

3 接続設定が完了すると、自動的に無線 LAN レポートが印刷されます。

無線 LAN レポートの「Connection」の項目を確認してください。正常に接続された場合は、「Connection:OK」と記載されています。



無線 LAN レポートに「Connection:Failed」と記載されていた場合は、接続に失敗しています。エラーコード (Error:TS-XX) を確認してください。エラーコードの内容については、ユーザズガイド 基本編の「無線 LAN 設定で困ったときは (無線 LAN レポート)」をご覧ください。問題を解決してから設定をやり直してください。

4 【OK】を押して、設定メニューを終了します。



- 待ち受け画面の Wi-Fi 設定ボタン () が無線 LAN 電波状態表示 () に変わり、電波状態が 4 段階 () で表示されます。
- 本製品が無線 LAN に接続されていなくても設定を無線 LAN にすると、操作パネルの Wi-Fi ランプ () が点灯します。無線 LAN との接続状態については、無線 LAN 電波状態表示をご確認ください。

● 無線接続ウィザードで無線 LAN 設定をする

本製品のネットワークメニューから、無線接続ウィザード機能を使って無線接続設定ができます。本製品を接続する無線LANアクセスポイントがWPSに対応している場合は、WPSのPIN(Personal Identification Number：個人認証番号)方式を使用して本製品の無線LAN設定をすることもできます。

⇒ 23 ページ「WPSのPINコード入力方式を使用する」

● 操作パネルから無線 LAN の手動設定を行う

本製品をSSID(ネットワーク名)とネットワークキーを使って、すでにお使いの無線LANネットワークに参加させます。設定の方法について、詳しくは「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

● SSID が隠ぺいされている場合

無線LANアクセスポイントがSSIDの隠ぺい(SSIDステルスモード)に設定されている場合は、接続先のSSIDは表示されません。その場合は、SSIDを入力して設定を行うこともできます。



アドホック通信は、本製品とパソコンとの1対1通信となるため、無線アクセスポイントとパソコンがすでに接続されている場合は、その設定が失われます。アドホック通信の設定を行う前に、必ず、現在のパソコンの無線設定を書き留めておくようにしてください。また、アドホック通信を行う場合は、あらかじめパソコンでSSIDを設定しておく必要があります。

1

使用する無線LANアクセスポイントの取扱説明書を参照して、SSID(ネットワーク名)を調べて控えておきます。これは設定手順で必要な情報です。SSIDは、メーカーによってはESSID、ESS-IDとも呼ばれています。

SSID (ネットワーク名)	
----------------	--

2

使用する無線LANアクセスポイントの取扱説明書を参照して、認証方式、暗号化方式、ネットワークキーを調べて控えておきます。これらは設定手順で必要な情報です。

(1) オープンシステム認証の場合

暗号化の有無とネットワークキー(WEPキー)を調べます。

認証方式	オープンシステム認証
暗号化方式	なし

または

認証方式	オープンシステム認証
暗号化方式	WEP
WEPキー	

(2) 共有キー認証の場合

ネットワークキー（WEP キー）を調べます。

認証方式	共有キー認証
暗号化方式	WEP
WEP キー	

(3) WPA-PSK の場合

ネットワークキー（事前共有キー）を調べます。

認証方式	WPA-PSK
暗号化方式	TKIP または AES
事前共有キー	

(4) WPA2-PSK の場合

ネットワークキー（事前共有キー）を調べます。

認証方式	WPA2-PSK
暗号化方式	AES
事前共有キー	



- ・ ネットワークキーは大文字、小文字が区別されます。正確に確認してください。
- ・ 無線 LAN アクセスポイントに複数の WEP キー（WEP キー 1、WEP キー 2、WEP キー 3、WEP キー 4 など）が設定されている場合は、WEP キー 1 に設定してください。
- ・ 本製品では 1 番目の WEP キーのみ使用できます。WEP キー 1 を控えておきます。
- ・ WEP キーは 5/10/13/26 文字のいずれかです。

3

待ち受け画面の **WIFI** を押し、【無線接続ウィザード】を押します。

本製品が有線 LAN に設定されていた場合は、無線 LAN に切り替える確認画面が表示されます。【はい】を押します。

接続できる SSID を検索して、一覧が表示されます。

- (1) アクセスポイントの SSID：SSID が表示されます（最大 32 桁）。
- (2) チャンネル：使用しているチャンネルが 1 ～ 14 で表示されます。
- (3) 電波強度：電波の強さが 0 ～ 9 の 10 段階で表示されます。



【無線接続ウィザード】は、 【メニュー】を押し、【全てのメニュー】、【ネットワーク】、【無線 LAN】の順に押しても選択できます。

4 【<New SSID>】を押し、【OK】を押します。

【<New SSID>】が表示されていないときは、▼ / ▲ を押して画面を送ります。

5 **1** で控えた無線 LAN アクセスポイントの SSID（ネットワーク名）を入力して、

【OK】を押します。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザズガイド 応用編「文字の入力方法」をご覧ください。

6 【インフラストラクチャ】を押します。



アドホック通信を使用する場合は【アドホック】を選びます。画面の指示に従って、設定を進めてください。

7 **2** で控えた認証方式を選びます。

【オープンシステム認証】を選んだ場合は、**8** へ進みます。

【共有キー認証】を選んだ場合は、**9** へ進みます。

【WPA/WPA2-PSK】を選んだ場合は、**10** へ進みます。

8 **2** で控えた暗号化方式を選びます。

【WEP】を押した場合は、**9** へ進みます。

【なし】を押した場合は、**12** へ進みます。

9 **2** で控えた WEP キーを入力して、【OK】を押し、**12** へ進みます。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザズガイド 応用編「文字の入力方法」をご覧ください。

10 **2** で控えた暗号化方式を選びます。

WPA-PSK の場合は【TKIP】または【AES】、WPA2-PSK の場合は【AES】を選びます。

11 **2** で控えた事前共有キーを入力して、【OK】を押します。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザズガイド 応用編「文字の入力方法」をご覧ください。

12 【設定を適用しますか?】と表示されたら、【はい】を押します。

13 本製品と接続先の機器（無線 LAN アクセスポイントなど）が無線で接続されます。

本製品の画面に、接続が正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。



お使いのネットワーク環境によっては、接続に数分かかることがあります。

14 接続設定が完了すると、自動的に無線 LAN レポートが印刷されます。

無線 LAN レポートの「Connection」の項目を確認してください。正常に接続された場合は、「Connection:OK」と記載されています。



「Connection:Failed」と記載されていた場合は、接続に失敗しています。画面表示の内容と合わせて無線 LAN レポートを確認してください。

- ・【ネットワークキーが違います】と表示された場合は、【OK】を押してください。入力したネットワークキーが間違っています。 の情報を確認して  から設定し直してください。
- ・【接続に失敗しました】と表示された場合は、【OK】を押してください。無線 LAN アクセスポイントの電源が入っているか確認してください。一時的に本製品と無線 LAN アクセスポイントの距離を 1m 程度に近づけて、もう一度、 から設定し直してください。
- ・無線 LAN レポートのエラーコード (Error:TS-XX) を確認してください。エラーコードの内容については、ユーザーズガイド 基本編の「無線 LAN 設定で困ったときは (無線 LAN レポート)」をご覧ください。問題が解決してから、設定をやり直してください。
- ・それでも接続できない場合は、下記をご覧ください。
⇒ 99 ページ「無線 LAN アクセスポイントに接続できない」

15 【OK】を押して、設定メニューを終了します。



- ・待ち受け画面の Wi-Fi 設定ボタン () が無線 LAN 電波状態表示 () に変わり、電波状態が 4 段階 () で表示されます。
- ・本製品が無線 LAN に接続されていなくても設定を無線 LAN にすると、操作パネルの Wi-Fi ランプ () が点灯します。無線 LAN との接続状態については、無線 LAN 電波状態表示をご確認ください。

第 4 章 操作パネルで設定する

パソコンから操作しなくても、本製品の操作パネルを使用して、本製品をネットワークで使用するための設定ができます。操作パネルには、現在の設定内容や選べる項目名が表示されます。【ネットワーク】メニューから項目を選択して設定します。

⇒ 42 ページ「ネットワークメニュー一覧」

操作パネルの操作方法について詳しくは、下記をご覧ください。

⇒ ユーザーズガイド 基本編「各部の名称とはたらき」

本製品に付属の BRAdmin Light、ウェブブラウザまたは、リモートセットアップ機能を使用してネットワークの設定を変更することもできます。

⇒ 97 ページ「ネットワークリモートセットアップ機能を使う」

有線 LAN/ 無線 LAN の設定

● TCP/IP の設定

TCP/IP を使用して印刷するには、本製品に IP アドレスを設定します。

パソコンと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。ルーターの先に本製品が接続されている場合は、ルーターのアドレス（ゲートウェイ）も設定します。

● IP 取得方法

IP アドレスの取得方法を設定します。



RARP、BOOTP、DHCP または APIPA 機能を使用している場合は、TCP/IP の各項目は自動的に設定されます。

それらの機能を使用しないで手動で IP アドレスを設定する場合は、自動的に IP アドレスを取得しないように【IP 取得方法】を【Static】に設定してください。

● IP アドレス

本製品の現在の IP アドレスを確認できます。【IP 取得方法】で【Static】以外の取得方法が選ばれている場合は、RARP、BOOTP または DHCP のプロトコルを使用して IP アドレスを自動的に取得します。

IP アドレスを変更すると、【IP 取得方法】は自動的に【Static】に変わります。

● サブネットマスク

本製品の現在のサブネットマスクを確認できます。RARP、BOOTP、DHCP または APIPA 機能を使用していない場合は、サブネットマスクを手動で入力してください。設定するサブネットマスクについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

● ゲートウェイ

本製品の現在のゲートウェイ（ルーター）のアドレスを確認できます。RARP、BOOTP、DHCP または APIPA 機能を使用していない場合はアドレスを手動で指定します。ゲートウェイ（ルーター）を使用しない場合は、お買い上げ時の設定（初期値）【000.000.000.000】にしておいてください。アドレスがわからない場合はネットワーク管理者へお問い合わせください。

● ノード名

ノード名をネットワークで使用するために登録します（WINS サーバーに登録されている NetBIOS 名になります）。お買い上げ時の設定（初期値）は、【BRNxxxxxxxxxxx】（有線 LAN）または【BRWxxxxxxxxxxx】（無線 LAN）（xxxxxxxxxxx は MAC アドレスを示す 12 桁の文字）です。ノード名を変更する場合は、15 文字以内で設定してください。

● WINS 設定

WINS（Windows® Internet Name Service）サーバーアドレスの取得方法を設定します。

- Auto

DHCP サーバーからプライマリ、セカンダリの WINS サーバーアドレスを自動的に取得します。【IP 取得方法】が【Auto】または【DHCP】に設定されている必要があります。

- Static

手動で WINS サーバーアドレスを設定します。

● WINS サーバー

WINS（Windows® Internet Name Service）サーバーのアドレスを設定します。

- プライマリ

この項目でプライマリ WINS サーバーの IP アドレスを登録します。ゼロ以外の数値が設定されている場合、WINS サーバーにノード名を登録します。

- セカンダリ

この項目でセカンダリ WINS サーバーの IP アドレスを登録します。セカンダリ WINS サーバーはプライマリ WINS サーバーの機能の一部を補完し、プライマリサーバーが見つからないときに機能します。ゼロ以外の数値が設定されている場合、WINS サーバーにノード名を登録します。
ネットワーク内にセカンダリ WINS サーバーが存在しない場合は入力しなくても構いません。

● DNS サーバー

DNS（Domain Name System）サーバーのアドレスを設定します。

- プライマリ

プライマリ DNS サーバーのアドレスを指定します。

- セカンダリ

セカンダリ DNS サーバーのアドレスを指定します。セカンダリ DNS サーバーはプライマリ DNS サーバーの機能の一部を補完し、プライマリサーバーが見つからない場合に機能します。ネットワークの負荷が大きい場合に設定してください。

● **APIPA**

IP アドレス配布サーバー（RARP、BOOTP、DHCP など）を利用していない場合でも、【APIPA】（AutoIP）を【オン】に設定しておく、本製品に IP アドレスを自動的に割り当てます。

このとき、IP アドレスは 169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲で割り当てられます。この機能を使用しないときは【オフ】に設定してください。

割り当てられた IP アドレスがお使いのネットワーク環境の IP アドレスの設定規則に適さない場合は、BRAdmin Light や操作パネルから IP アドレスを変更してください。

⇒ 29 ページ「TCP/IP の設定」

⇒ 14 ページ「IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定する」

● **IPv6**

本製品はインターネットプロトコル・バージョン 6（IPv6）に対応しています。IPv6 プロトコルを使用する場合は、【オン】に設定してください。



- IPv6 を【オン】に設定した場合は、設定を有効にするために、一度、本製品の電源を入れ直してください。
- IPv6 を【オン】に設定した場合は、有線 LAN 接続、無線 LAN 接続のどちらでも有効です。

● **イーサネット（有線 LAN のみ）**

リンクモードを設定します。

● **Auto**

100BaseTX（全二重 / 半二重）、10BaseT（全二重 / 半二重）モードを自動的に選びます。

● **100B-FD/100B-HD/10B-FD/10B-HD**

それぞれのリンクモードに固定されます。

100B-FD：100BaseTX Full Duplex（全二重）

100B-HD：100BaseTX Half Duplex（半二重）

10B-FD：10BaseT Full Duplex（全二重）

10B-HD：10BaseT Half Duplex（半二重）

● **有線 LAN 状態（有線 LAN のみ）**

有線 LAN をご使用の場合、現在の接続状態、通信速度を確認できます。



- 【未接続】が表示された場合は、接続の設定を確認してください。
- 【有線 LAN オフ】が表示された場合は、【有線 / 無線切替え】が【有線 LAN】に設定されているか確認してください。

● **接続アシスタント（無線 LAN のみ）**

付属の CD-ROM を使用して無線 LAN 設定を行います。

● 無線接続ウィザード（無線 LAN のみ）

本製品の操作パネルからウィザード形式で無線 LAN を設定することができます。設定方法について、詳しくは「かんたん設置ガイド」または、下記をご覧ください。

⇒ 25 ページ「無線接続ウィザードで無線 LAN 設定をする」

● WPS/AOSS™（無線 LAN のみ）

WPS（Wi-Fi Protected Setup）または AOSS™（AirStation One-Touch Secure System：無線 LAN 簡単設定システム）対応の無線 LAN アクセスポイントをお持ちの場合は、アクセスポイントのボタンを押すだけで、本製品の無線 LAN 設定が行えます。詳しくは「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

● WPS（PIN コード）（無線 LAN のみ）

WPS 対応の無線 LAN アクセスポイントをお持ちの場合、PIN（Personal Identification Number）コードを入力することで無線 LAN とセキュリティーの設定を行うことができます。

⇒ 23 ページ「WPS の PIN コード入力方式を使用する」

● 無線状態（無線 LAN のみ）

無線 LAN をお使いの場合、ネットワーク設定や状況を確認できます。

● 接続状態

無線 LAN の接続状態を表示します。

● 電波状態

無線 LAN の電波状態を表示します。

● SSID

無線 LAN の SSID（ネットワーク名）を表示します。

● 通信モード

無線 LAN の通信モードを表示します。

● MAC アドレス

本製品の現在の MAC アドレス（イーサネットアドレス）を確認できます。MAC アドレスは、本製品のネットワークインターフェイスに割り当てられたアドレス番号です。MAC アドレスは変更できません。

Wi-Fi Direct[®] 接続

Wi-Fi Direct[®] については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）から「Wi-Fi Direct ガイド」をダウンロードしてご覧ください。

E メール /IFAX の設定 (MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ)



MFC-J6973CDW の場合

インターネットファクス機能をお使いになる場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からインターネットファクス機能インストールツールをダウンロードしてください。

メール送受信機能やインターネットファクス機能を使用するには、次の項目を設定します。

- メールアドレス
- サーバー設定
- メール受信設定
- メール送信設定
- リレー設定
- 手動受信

これらの設定を行う際には、ウェブブラウザを使用すると、パソコンのキーボードを使用できるため、本製品の操作パネルから入力するより文字の入力が簡単にできて便利です。

⇒ 60 ページ「インターネットファクス機能を使う」

操作パネルからの文字の入力方法について詳しくは、ユーザズガイド応用編「文字の入力方法」をご覧ください。

● メールアドレス

E メールアドレスを登録します。

● サーバー設定

● SMTP サーバー

ネットワーク上の SMTP メールサーバー（送信用サーバー）の IP アドレスまたはサーバー名を設定します。この項目はインターネットファクス機能を使用する上で正しく設定されている必要があります。（例：「mailhost.brothermail.net」または「192.0.0.1」）

● SMTP ポート

SMTP メールサーバー（送信用サーバー）のポートを指定します。

● SMTP Auth.

ユーザー認証を必要とするセキュリティの高い SMTP サーバーを経由して E メールを送信するには、SMTP 認証の設定が必要です。

● SMTP over SSL/TLS

本製品と SMTP サーバー間での通信を暗号化する方法（SSL/TLS）を選ぶことができます。

● SMTP 証明書の検証

本製品と SMTP サーバー間で SSL/TLS 通信を行うとき、SMTP サーバーから受信したサーバー証明書の検証を行うかどうかの設定をします。

● **POP3 サーバー**

ネットワーク上の POP3 メールサーバー（受信用サーバー）の IP アドレスまたはサーバー名を設定します。この項目はインターネットファクス機能を使用する上で正しく入力されている必要があります。（例：「mailhost.brothermail.net」または「192.0.0.1」）

● **POP3 ポート**

POP3 メールサーバー（受信用サーバー）のポートを指定します。

● **アカウント名**

POP3 メールサーバー（受信用サーバー）にアクセスするためには、アクセス用アカウントとパスワードが必要です。この項目では、アクセス用アカウント名（ユーザー名）を設定します。アカウント名を設定したあとは、必ずパスワードも設定してください。

● **パスワード**

POP3 メールサーバー（受信用サーバー）にアクセスするためには、アクセス用アカウントとパスワードが必要です。この項目では、アクセス用アカウントと対になるパスワードを設定します。



パスワードを設定しない場合は、スペースを 1 つ入力してください。

● **POP3 over SSL/TLS**

本製品と POP3 サーバー間での通信を暗号化する方法（SSL/TLS）を選ぶことができます。

● **POP3 証明書の検証**

本製品と POP3 サーバー間で SSL/TLS 通信を行うとき、POP3 サーバーから受信したサーバー証明書の検証を行うかどうかの設定をします。

● **APOP**

アカウントやパスワードのセキュリティを保つために、APOP（Authenticated Post Office Protocol）を有効にできます。

● **メール受信設定**● **自動受信（自動メールチェック機能）**

自動受信を【オン】に設定すると、本製品は設定した時間ごとに自動的に POP3 サーバーへアクセスし、メールが届いているかチェックを行います。

● **ポーリング間隔（自動メールチェックの頻度）**

自動受信を【オン】に設定した場合、自動的に POP3 サーバーへアクセスし、メールが届いているかチェックを行う間隔を設定します。

● **ヘッダー印刷**

インターネットファクスや E メールを受信すると、本製品はメールの内容を印刷します。このときにヘッダー部分を印刷するかどうかを設定します。

- ・【全て】：ヘッダーをすべて印刷します。
- ・【ヘッダーのみ】：タイトル、宛先、差出人を印刷します。
- ・【なし】：ヘッダーを印刷しません。

● **エラーメール削除**

エラーメール削除を【オン】に設定すると、本製品がメールのチェックを行ったときに、POP3 サーバーから取得できなかったメールを削除することができます。

● **受信確認**

本製品がインターネットファクスを受信したことを送信者に通知するよう設定できます。

- ・【オン】：すべてのインターネットファクスメッセージに対して送信元に受信確認を送付します。
- ・【MDN】：MDN（受信確認リクエスト）機能を使用して送られてきたインターネットファクスメッセージの送信元に対してのみ受信確認を送付します。
- ・【オフ】：受信確認の送付を行いません。

● **メール送信設定**● **メールタイトル**

パソコンへ E メールを送信するときに、件名（Subject）として表示されるテキストです。

● **サイズ制限**

サイズ制限を【オン】に設定しておくで、1MB を超えるサイズの E メールを送信しようとするで、【メモリがいっぱいです】と表示されます。E メールを送信は、中止されてエラーレポートが出力されます。サイズ制限を【オン】にしたときは、ページを分割するなど、1 通の E メールサイズを 1MB 以下にして送信してください。

● **受信確認要求**

インターネットファクスを送信したとき、受信した相手機から受信確認メッセージを受け取るように要求します。受信側の機器で MDN（受信確認リクエスト）機能の設定が有効になっている必要があります。

● **リレー設定**● **リレー許可**

受信したインターネットファクスを通常の電話回線を使用して他のファクス機器に転送（リレー配信）を行うかどうかを設定します。

● **許可ドメイン**

本製品を経由して転送を許可するドメイン名を登録します（5 件まで）。ここに登録されていないドメインからのインターネットファクスは転送できません。

● **リレーレポート**

リレーレポートは、本製品を経由してインターネットファクスの転送が行われたときに出力されます。また、このレポートはネットワーク PC ファクス機能を使用したドキュメントの送信確認のときにも出力されます。



リレー配信について詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ 73 ページ「リレー配信する」

● **手動受信**

手動でメールチェックを行います。

Web 接続設定

Web 接続設定について詳しくは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）から「クラウド接続ガイド」をダウンロードしてご覧ください。

● Mopria™ で印刷する

Android™ 4.4 以上の Android™ 端末を使用して、プリンタドライバをインストールせずに、無線で印刷することができます。

本機能を使用するためには、Mopria™ Print Service を Google Play™ ストア アプリからダウンロードする必要があります。

有線 LAN/ 無線 LAN を切り替える

ネットワークの接続方法が決定したら、本製品でも接続方法を設定します。設定を切り替えた場合は、画面の説明に従って、本製品を再起動してください。



- 無線 LAN と有線 LAN を同時に使用することはできません。同時に接続していても、【有線 / 無線切替え】で設定されている接続が有効になります。ただし、無線 LAN 接続と Wi-Fi Direct® 接続、有線 LAN 接続と Wi-Fi Direct® 接続は同時に使用できます。
- Wi-Fi Direct® 接続について詳しくは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）から「Wi-Fi Direct ガイド」をダウンロードしてご覧ください。
- 【有線 LAN】に設定した状態でも、無線 LAN 接続設定の操作（⇒ 22 ページ「無線 LAN を設定する」）を行った場合は、【有線 / 無線切替え】は【無線 LAN】に変更されます。
- ネットワークの接続方法を【無線 LAN】に切り替ええると、操作パネルの Wi-Fi ランプ（）が点灯します。

ネットワーク設定リセット

現在のネットワーク設定をすべて初期化して、お買い上げ時の設定に戻します。



- この設定では、IP アドレスやメールアドレスなど、すでに設定しているネットワークのすべての情報を初期化します。
- プリントサーバーの設定も BRAdmin アプリケーションやウェブブラウザで初期化することができます。
⇒ 12 ページ「BRAdmin Light で設定する」
⇒ 17 ページ「BRAdmin Professional で設定する (Windows® のみ)」

1



【メニュー】を押し、【全てのメニュー】、【ネットワーク】の順に押します。

【ネットワーク】が表示されていないときは、▼ / ▲ を押して画面を送ります。

2

▼ / ▲ で画面を送り、【ネットワーク設定リセット】を押します。

リセットの確認画面が表示されます。



【メニュー】を押し、【全てのメニュー】、【初期設定】、【設定リセット】、【ネットワーク設定リセット】の順に選んでも設定できます。

3

【はい】を押します。

再起動の確認画面が表示されます。

4

【はい】を、2 秒間押します。

数秒後に本製品が再起動します。

ネットワーク設定リストの出力

本製品の現在動作しているネットワーク接続（有線 LAN または無線 LAN）に関する設定内容（MAC アドレス、ノード名、IP アドレスなど）を印刷して確認できます。

本製品のお買い上げ時ノード名は、有線 LAN の場合は [BRNxxxxxxxxxxxx]、無線 LAN の場合は [BRWxxxxxxxxxxxx] となっています。（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。

印刷例)

① MAC アドレス (MAC Address)

② ノード名 (Node name)

③ IP アドレス (IP Address)

④ サブネットマスク
(Subnet Mask)

```
<--NETWORK CONFIGURATION-->
<Interface> WirelessLAN on
<Node Type> Brother BC-XXXX, IEEE 802.11b/g/n (Active)
<MAC Address> c0-18-85-83-8f-1b
<Node name> BRWC01885838F1B

<Active services>
BRWC01885838F1B
BINARY_F1
TEXT_F1
POSTSCRIPT_F1
FAX_F1
BRWC01885838F1B_AT

<Protocols>
TCP/IP Enabled IPv6 Disabled
NetWare/IP Enabled AP/PA Enabled
LegacyAuth Enabled NetWareManagement Enabled
SMB Enabled Remote Setup Enabled
L2P Enabled Fax Port Enabled
IPP Enabled WebServices Enabled
Network scan Enabled PC fax receive Enabled
POP/SMTP Enabled CIFS Enabled
TFTP Enabled L2MB Enabled
NMS Enabled Proxy Disabled
SMTP Online Con. Disabled

<IP Address> 192.168.110.108 (via DHCP)
<Subnet Mask> 255.255.255.0

Boot Method AUTO
Boot Times 0 Disabled
IP Filter
GW Timeout (sec) 21
DNS Address Config AUTO
Primary DNS Server 192.168.110.200
Secondary DNS Server 0.0.0.0
<NetBIOS Name> BRWC01885838F1B
<WINS Address Config> AUTO
<Primary WINS Server> 0.0.0.0
<Secondary WINS Server> 0.0.0.0
<Device Mail Address> brn001ba85838f1b@example.com
<SMTP Server> 0.0.0.0
<SMTP Port> 25
<POP3 Port> 110
<POP3 Polling Prog. (sec)> 600
<NMS Service Name> Brother XXX-XXXX
<WebServices Name> Brother XXX-XXXX [001ba85838f1b]
<SMTP Settings>
NMS Disabled
Environment 0
Domain Name 0.0.0.0
Server Address
User Name
<Comm. Mode> Infrastructure
<Name (SSID)> USBer
<Authentication Mode> Open System/Shared Key
<Encryption Mode> WEP
<Wireless Link Status> Link OK, 11g(54Mbps), Receiving Signal = 3, Operating Ch = 11
<Tx Power Code> Full, 100, 0
<Network Statistics>
Packets Received 15821 RX Frames Received OK 15804
Bytes Received 318127 RX Frames Error 8
Packets Transmitted 5449 TX Frames Transmitted OK 5480
Bytes Transmitted 1051620 TX Frames Error 0
```

① **MAC アドレス (MAC Address) : c0-18-85-83-8f-1b**

② **ノード名 (Node name) : BRWC01885838F1B**

③ **IP アドレス (IP Address) : 192.168.110.108**

④ **サブネットマスク (Subnet Mask) : 255.255.255.0**



- ・ネットワーク設定リストは、モノクロでしか印刷できません。
 - ・「0.0.0.0」が印刷された場合は、本製品がまだ起動中です。約 1 分待ってからもう一度ご確認ください。
- 有線 LAN 接続の場合、LAN ケーブルが本製品に接続されていません。接続を確認してからもう一度ご確認ください。

-
- 1  【メニュー】を押し、【全てのメニュー】を押します。
 - 2 ▼ / ▲ で画面を送り、【レポート印刷】、【ネットワーク設定リスト】の順に押します。
 - 3 【OK】を押します。
-

無線 LAN レポートの出力

現在の本製品の無線接続状況を確認できます。

無線 LAN 接続が正しく設定できていない場合は、その対処法についても印刷されますので、通信がうまくできないときに出力して確認してください。レポートの内容について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編の「無線 LAN 設定で困ったときは（無線 LAN レポート）」をご覧ください。



- 下記の手順を行っても無線 LAN レポートが印刷されない場合は、しばらく待ってから、やり直してください。
- 無線 LAN 接続設定を行った場合は、設定完了後に自動的に無線 LAN レポートが出力されます。無線 LAN 接続が正しく設定できているかをご確認ください。
- 無線 LAN レポートは、モノクロでしか印刷できません。

1



【メニュー】を押し、【全てのメニュー】を押します。

2

▼ / ▲ で画面を送り、【レポート印刷】、【無線 LAN レポート】の順に押します。

3

【OK】を押します。

ネットワークメニュー一覧

機能	項目		設定（太字：初期設定値）
ネットワーク	有線 LAN	TCP/IP	IP 取得方法 Auto / Static / RARP / BOOTP / DHCP
			IP アドレス [000-255].[000-255].[000-255].[000-255]
			サブネット マスク [000-255].[000-255].[000-255].[000-255]
			ゲートウェイ [000-255].[000-255].[000-255].[000-255]
			ノード名 BRNxxxxxxxxxxx (x は MAC アドレスを示す 12 桁の文字)
			WINS 設定 Auto / Static
			WINS サーバー プライマリ / セカンダリ
			DNS サーバー プライマリ / セカンダリ
			APIPA オン / オフ
			IPv6 オン / オフ
		イーサネット Auto / 100B-FD / 100B-HD / 10B-FD / 10B-HD	
		有線 LAN 状態 アクティブ 100B-FD / アクティブ 100B-HD / アクティブ 10B-FD / アクティブ 10B-HD / 未接続 / 有線 LAN オフ	
		MAC アドレス —	
	無線 LAN	TCP/IP	IP 取得方法 Auto / Static / RARP / BOOTP / DHCP
			IP アドレス [000-255].[000-255].[000-255].[000-255]
			サブネット マスク [000-255].[000-255].[000-255].[000-255]
			ゲートウェイ [000-255].[000-255].[000-255].[000-255]
			ノード名 BRWxxxxxxxxxxx (x は MAC アドレスを示す 12 桁の文字)
			WINS 設定 Auto / Static
			WINS サーバー プライマリ / セカンダリ
			DNS サーバー プライマリ / セカンダリ
			APIPA オン / オフ
			IPv6 オン / オフ
		接続アシスタント —	
		無線接続ウィザード —	
		WPS/AOSS —	
		WPS (PIN コード) —	
		無線状態	接続状態 アクティブ (11b) / アクティブ (11g) / アクティブ (11n) / AOSS アクティブ / 接続に失敗しました
			電波状態 電波：強い / 普通 / 弱い / なし
			SSID (32 文字まで表示)
			通信モード アドホック / インフラストラクチャ / なし
		MAC アドレス —	

機能	項目		設定（太字：初期設定値）	
ネットワーク	Wi-Fi Direct ^{*1}	プッシュボタン接続	－	
		PIN コード接続	－	
		手動接続	－	
		グループオーナー	オン／ オフ	
		デバイス情報	デバイス名	－
			SSID	－
			IP アドレス	－
		接続情報	接続状態	グループオーナー（**）（** は接続数）／クライアントアクティブ／未接続／Wi-Fi Direct オフ
			電波状態	電波：強い／ 普通／ 弱い／ なし
	インターフェース有効		オン／ オフ	
	NFC ^{*2}		オン ／オフ	

^{*1} Wi-Fi Direct[®] について詳しくは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）から「Wi-Fi Direct ガイド」をダウンロードしてご覧ください。

^{*2} MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ表示されます。

ネットワーク

機能	項目		設定（太字：初期設定値）	
	Eメール / IFAX*1	メールアドレス	(初期値 XXXXX@example.com)	
		サーバー設定	SMTP サーバー	名前 / IP アドレス
			SMTP ポート	00001-65535（初期値 25）
			SMTP Auth.	認証しない / SMTP Auth. / POP before SMTP
			SMTP over SSL/TLS	認証しない / SSL / TLS
			SMTP 証明書の検証	オン / オフ
			POP3 サーバー	名前 / IP アドレス
			POP3 ポート	00001-65535（初期値 110）
			アカウント名	—
			パスワード	—
			POP3 over SSL/TLS	認証しない / SSL / TLS
			POP3 証明書の検証	オン / オフ
			APOP	オン / オフ
		メール受信設定	自動受信	自動受信： オン / オフ ポーリング間隔：1 分 / 3 分 / 5 分 / 10 分 / 30 分 / 60 分
			ヘッダー印刷	全て / ヘッダーのみ / なし
			エラーメール削除	オン / オフ
			受信確認	オン / MDN / オフ
		メール送信設定	メールタイトル	(初期値 Internet Fax Job)
			サイズ制限	オン / オフ
			受信確認要求	オン / オフ
		リレー設定	リレー許可	オン / オフ
			許可ドメイン	リレー 01 ~ 05：XXXXXXXXXXXX
			リレーレポート	オン / オフ
			手動受信	—
	Web 接続設定*2	プロキシ設定	プロキシ経由接続	オン / オフ
			アドレス	—
			ポート	8080
ユーザー名			—	
パスワード			—	
有線 / 無線切替え		有線 LAN / 無線 LAN		
ネットワーク設定リセット		はい / いいえ		

^{*1} MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ表示されます。

(MFC-J6973CDW の場合) インターネットファクス機能をお使いになる場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からインターネットファクス機能 インストールツールをダウンロードしてください。ソフトウェアを本製品にインストールすると、メニューが表示されます。

^{*2} Web 接続設定について詳しくは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）から「クラウド接続ガイド」をダウンロードしてください。

第 5 章 ウェブブラウザで管理する

概要

お使いの標準ウェブブラウザで、HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用して、ネットワークに接続されている本製品を管理することができます。ウェブブラウザを使用して、次のような情報を本製品から取得できます。

- 本製品の状態、メンテナンスに関する詳細情報の取得
- 送受信や応用機能などのファクス設定
- TCP/IP などのネットワーク設定変更
- セキュリティ機能ロック 2.0 の設定
- 印刷ログ機能の設定（MFC-J6990CDW のみ）
- スキャン to FTP の設定
- スキャン to ネットワークの設定
- ネットワークと本製品の詳細設定
- インターネットファクスの設定（MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ）



- MFC-J6973CDW の場合
インターネットファクス機能をお使いになる場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からインターネットファクス機能 インストールツールをダウンロードしてください。
- TCP/IP プロトコルによってパソコンがネットワーク接続されていることを確認してください。



- Windows® では Windows® Internet Explorer® 8 または Windows® Internet Explorer® 9、Macintosh では Safari 5.0 以降のウェブブラウザのご使用を推奨します。
また、JavaScript と Cookies が有効であることを確認してください。
- ウェブブラウザを使用するには、本製品の IP アドレスが必要です。

ウェブブラウザを使用して本製品を設定する

お使いの標準ウェブブラウザで、HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用して、プリントサーバーなどの設定を変更することができます。

1 ウェブブラウザを起動します。

2 ウェブブラウザのアドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。



- DNS を使用している場合は、IP アドレスの代わりにノード名を入力することもできます。

例) SharedPrinter の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://SharedPrinter/」と入力します。

- NetBIOS 名が使用可能な場合は、ノード名を入力することもできます。NetBIOS 名はネットワーク設定リストで確認できます。

⇒ 39 ページ「ネットワーク設定リストの出力」

例) BRNxxxxxxxxxxxx の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://brnxxxxxxxxxxxx/」と入力します。

- Macintosh をお使いの場合は、ステータスマニターの本製品のアイコンをクリックすると、ウェブブラウザを使ってより簡単に本製品にアクセスできます。詳しくは、下記をご覧ください。

⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「便利な使い方 (ControlCenter2)」－「デバイス設定」

3 必要に応じて設定を変更します。



プロトコル設定を変更した場合は、変更内容を有効にするために、[OK] をクリックします。画面の指示に従って本製品を再起動してください。

パスワードの設定

一般ユーザーから本製品への無許可アクセスを防ぐため、パスワードを設定することをお勧めします。パスワードを設定すると、一般ユーザーは「基本設定」タブ以外の設定を変更できなくなります。

1 ウェブブラウザを起動します。

2 ウェブブラウザのアドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

3 「管理者設定」タブをクリックします。

4 「新しいパスワードの入力」欄にパスワード（32 文字以内）を入力します。

5 「新しいパスワードの確認」欄にもう一度、パスワードを入力します。

6 「OK」をクリックします。

設定の操作が完了したら、 をクリックしてログアウトします。

次回から「基本設定」タブ以外の設定を変更する際には、「ログイン」欄に管理者パスワードを入力して、 をクリックします。



ログインパスワードをセットしていない場合は、ウェブページの「パスワードを設定してください」をクリックすることによってパスワードを設定することもできます。

セキュリティ機能ロック 2.0

セキュリティ機能ロック 2.0 を使用すると、ユーザー名とパスワードを設定して、ユーザーごとに利用できる機能を制限できるため、経費削減にもつながります。

BRAdmin Professional やウェブブラウザを使用すると、次の機能について、セキュリティ機能ロック 2.0 の設定や変更ができます。

- 印刷
- デジカメプリント
- コピー
- カラープリント
- 印刷の枚数制限
- ファクス送受信
- スキャン
- クラウド接続
- ページカウンタ

● ウェブブラウザを使ってセキュリティ機能ロック 2.0 を設定する

基本設定

- 1 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。
「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

- 2 [管理者設定] タブー [セキュリティ機能ロック] をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

- 3 [セキュリティ機能ロック] の [オン] を選択します。



ウェブブラウザから初めてセキュリティ機能ロックの設定をするには、管理者パスワード（4桁の数字）を入力する必要があります。

- 4 グループ名またはユーザー名を [制限 ID 番号 /ID 名]（7 文字まで）に、パスワードを [パスワード]（4桁の数字）に入力します。

- 5 制限したい機能のチェックを外します。
印刷枚数を制限する場合は、[印刷制限] の [オン] にチェックを入れて、[最大ページ数] に最大印刷可能枚数を入力してください。

- 6 [OK] をクリックします。



パソコンへログインするために使用しているユーザー名で、印刷制限をすることができます。
[管理者設定] タブー [ログイン名による PC ジョブ制限] をクリックして、設定してください。
⇒ 50 ページ「パソコンのログイン名で印刷を制限する」

一般モードの設定

一般ユーザーが利用できる機能を制限するためには、一般モードを設定します。一般ユーザーがこの機能で利用可能に設定された機能を使用する場合は、パスワードを入力する必要はありません。

-  **1** ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。
「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。
-  **2** [管理者設定] タブー [セキュリティ機能ロック] をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。
-  **3** [一般モード] で制限したい機能のチェックボックスのチェックを外します。
チェックが入っている機能は、一般ユーザーが制限なく使用することができます。
-  **4** [OK] をクリックします。

セキュリティ機能ロック 2.0 を使用してスキャンする

セキュリティ機能ロック 2.0 を使用して、管理者がスキャンできるユーザーを制限することができます。セキュリティ機能ロック 2.0 の設定画面で、[その他] または [機能制限] - [スキャン] のチェックボックスにチェックを入れたユーザーだけがスキャン機能を使用できます。

● パソコンのログイン名で印刷を制限する

この機能を使用すると、パソコンにログインするために使用しているユーザー名が登録されたパソコンからのみ、印刷することができます。

- 1 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。
「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

- 2 [管理者設定] タブー [ログイン名による PC ジョブ制限] をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

- 3 [PC ジョブ制限] の [オン] を選択します。
「基本設定」(48 ページ) の 4 で登録した [制限 ID 番号 /ID 名] を [制限 ID 番号] のプルダウンリストから選択し、パソコンへログインするために使用しているユーザー名を [ログイン名] に入力します。

- 4 [OK] をクリックします。



グループ単位で印刷を制限したい場合は、グループにしたいユーザー名に対して、同じ [制限 ID 番号 /ID 名] を [制限 ID 番号] のプルダウンリストから選択します。

● その他の設定

セキュリティ機能ロック 2.0 の機能を使用すると、次のような設定ができます。

● カウンターリセット

すべてのページカウンターを「0」にします。

● 前回ログ

ページカウンターがリセットされる以前の記録を表示します。

- ・ CSV ファイルへ出力

制限 ID 番号 /ID 名と現在のページカウンターの情報をエクスポートします。

● カウンター自動リセット

定期的にページカウンターをリセットするための設定をします。

ウェブブラウザを使用して、SNTP プロトコルの設定を変更する

SNTP とは、ネットワーク上のパソコンが SNTP サーバーと通信して正確な時刻を同期させるためのプロトコルです。（この時刻は、本製品の操作パネルに表示される時刻ではありません。）SNTP タイムサーバーを使用して、SNTP の時刻と本製品の操作パネルに表示される時刻を定期的に同期させることもできます。

1 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。
「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2 [ネットワーク] タブー [ネットワーク] – [プロトコル] をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

3 設定を有効にするために、[SNTP] のチェックボックスを選択します。

4 [詳細設定] をクリックします。

- **状態**

SNTP サーバー設定が有効か無効かを表示します。

- **同期状態**

最新の同期状態を確認できます。

- **SNTP サーバー設定の方法**

[AUTO] または [STATIC] を選択します。

- **AUTO**

ネットワーク上に DHCP サーバーがある場合、SNTP サーバーは DHCP サーバーから自動でアドレスを取得します。

- **STATIC**

使用したいアドレスを入力します。

- **プライマリ SNTP サーバーアドレス / セカンダリ SNTP サーバーアドレス**

サーバーアドレスを 64 文字以内で入力します。セカンダリ SNTP サーバーアドレスはプライマリ SNTP サーバーアドレスのバックアップとして、プライマリ SNTP サーバーが見つからないときに機能します。ネットワーク内にセカンダリサーバーが存在しない場合は、お買い上げ時の設定（初期値）にしておいてください。

- **プライマリ SNTP サーバーポート / セカンダリ SNTP サーバーポート**

ポート番号を入力します（1 から 65535）。セカンダリ SNTP サーバーポートはプライマリ SNTP サーバーポートのバックアップとして、プライマリ SNTP サーバーが見つからないときに機能します。ネットワーク内にセカンダリサーバーが存在しない場合は、お買い上げ時の設定（初期値）にしておいてください。

●同期間隔

サーバーと同期したい時間の間隔を入力します。(1 から 168 時間)



SNTP タイムサーバーを使用して、SNTP の時刻と本製品の操作パネルに表示される時刻を同期させるためには設定が必要です。

- (1) [SNTP] の [詳細設定] 画面で [時計設定] をクリックします。
- (2) [基本設定] タブの [時計設定] で [SNTP サーバーと同期する] のチェックボックスを選択します。
- (3) [タイムゾーン] をプルダウンメニューから選択します。



設定を完了したら、[OK] をクリックします。

印刷ログ機能（MFC-J6990CDW のみ）

本製品の印刷履歴を、CIFS 接続を経由して、ネットワークサーバー上に保存できます。各印刷ジョブの ID、種類、ジョブの名前、ユーザー名、日付、時間、印刷されたページ数を記録することができます。標準ウェブブラウザから、機能設定をすることができます。

以下の印刷機能が印刷ログに記録されます。

- お使いのパソコンからの印刷ジョブ
- Google クラウド プリント
- AirPrint 機能
- メディア印刷（PictBridge）
- コピー
- ファクス受信



- CIFS とは、Common Internet File System（共通インターネットファイルシステム）プロトコルの略で、TCP/IP を利用し、ネットワーク上のパソコンからイントラネットまたはインターネット経由でファイルを共有することができます。
- 印刷レポート & リストは、サーバーに記録されません。
- 印刷ログ機能設定は、NTLMv2 認証をサポートしています。
- 認証を使用するには、SNTP プロトコル（ネットワークタイムサーバー）または日付・時間、タイムゾーンを正しく設定しなければなりません。
⇒ 51 ページ「ウェブブラウザを使用して、SNTP プロトコルの設定を変更する」
- ファイルをサーバーへ保存するときに、テキスト形式（.txt）または CSV 形式（.csv）のファイルタイプを選ぶことができます。

● 印刷ログ機能を設定する



1 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。



2 [管理者設定] タブー [印刷ログ機能設定] をクリックします。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

● 印刷ログ

印刷ログ機能を使用する場合は、[オン] を選択します。

● サーバーアドレス

サーバーアドレスは、CIFS サーバーのドメイン名です。ホストアドレス（例：my pc.example.com）または IP アドレス（例：192.168.56.189）を 64 文字以内で入力します。

● 転送先フォルダー

印刷ログを保存する CIFS サーバー上の転送先フォルダーを 60 文字以内で入力します。（例：brother\abc）

● ファイル名

印刷ログとして使用するためのファイル名を 15 文字以内で入力します。

● ファイル形式

印刷ログのファイル形式 [テキスト形式] または [CSV 形式] を選択します。

● **ユーザー名**

認証のためのユーザー名を 96 文字以内で入力します。



ユーザー名がドメインの一部の場合、以下のスタイルの 1 つでユーザー名を入力してください。

user@domain または domain¥user

● **パスワード**

認証のためのパスワードを 32 文字以内で入力します。

● **接続状態**

最新のログの書き込み状態を確認できます。

⇒ 55 ページ「エラーメッセージについて」

3

設定を完了したら、[OK] をクリックします。

書き込みエラー時の設定

ネットワークエラーにより印刷ログがサーバーに記録できない場合に行う処理を選ぶことができます。

1

[書き込みエラー時設定] で [ログを書き込まずに印刷] または [印刷中止] を選択します。

● **ログを書き込まずに印刷**

本製品は印刷ログをサーバーに保存せずに文書を印刷します。

印刷ログ機能設定が修復されると、印刷ログは以下のように保存されます。

1. 印刷の終了時に印刷ログが記録できない場合、印刷ページ数を除いた印刷ログが記録されます。
2. 印刷の開始時と終了時に印刷ログが記録できない場合、ジョブの印刷ログは記録されません。機能が修復されたときに、エラーがあったことをログに記録します。

- 印刷ログ例

Id, Type, Job Name, User Name, Date, Time, Print Pages

1, Print(Network), document01.doc, user1, 20xx/05/01, 13:21:32, ?

2, <ERROR>, ?, ?, ?, ?, ?

3, Print(USB), report01.xls, user1, 20xx/05/02, 09:30:29, 4

1

2

● **印刷中止**

印刷ログがサーバーに保存できないときは印刷ジョブはキャンセルされます。



[印刷中止] を選択した場合でも、受信したファクスは印刷されます。

2

設定を完了したら、[OK] をクリックします。

● エラーメッセージについて

本製品のエラー状態を操作パネルまたはウェブブラウザの「接続状態」から確認することができます。

● 【サーバーが見つかりません 管理者に問い合わせてください。】

サーバーに接続できない場合、このメッセージが表示されます。

以下の項目を確認してください。

- ・ サーバーアドレスは正しいですか？
- ・ サーバーがネットワークに接続されていますか？
- ・ 本製品がネットワークに接続されていますか？

● 【ユーザー認証に失敗しました 管理者に問い合わせてください。】

「認証設定」が正しくない場合、このメッセージが表示されます。

以下の項目を確認してください。

- ・ 認証設定のユーザー名およびパスワードは正しいですか？
- ・ 本製品の時刻とログファイルサーバーの時刻が一致していますか？



- ・ 認証設定のユーザー名がドメインの一部の場合、以下のスタイルの1つでユーザー名を入力してください。
user@domain または domain¥user
- ・ 本製品の時刻は、ウェブブラウザまたは本製品の操作パネルを使用してタイムゾーンを正しく設定してください。

● 【ファイルへアクセスできません 管理者に問い合わせてください。】

転送先フォルダーにアクセスできない場合、このメッセージが表示されます。

以下の項目を確認してください。

- ・ ディレクトリー名は正しいですか？
- ・ ディレクトリーは書き込み可能ですか？
- ・ ファイルはロックされていませんか？

● 【時計が未設定です 管理者に問い合わせてください。】

ユーザー認証に必要な現在時刻が取得できない場合、このメッセージが表示されます。ウェブブラウザを使用して、SNTP の時刻が正しく設定されているかを確認してください。SNTP サーバーが構築されていない場合は、本製品の操作パネルを使用してタイムゾーンを正しく設定してください。



「[印刷中止]」をウェブブラウザで設定している場合、操作パネルに【ログの書き込みができません】というメッセージと、上記メッセージが約 60 秒間表示されます。

● セキュリティ機能ロック 2.0 を設定して印刷ログ機能を使用する

セキュリティ機能ロック 2.0 の設定が [オン] の場合、登録されているユーザー名／印刷／コピー／ファクスのそれぞれの機能が印刷ログとして記録されます。

例) セキュリティ機能ロック 2.0 を使用しているユーザーの印刷ログ

Id	Type	Job Name	User Name	Date	Time	Print Pages
1	Print(Network)	連絡表.doc	ブラザー太郎	20xx/05/01	13:21:32	52
2	Copy	-	-	20xx/05/01	15:50:14	10
3	Fax	-	-	20xx/05/01	16:35:22	3
4	Print(Secure)	極秘文書 01.doc	ユーザー1	20xx/05/01	17:58:40	12
5	Print(USB)	報告書 02.xls	ユーザー2	20xx/05/02	09:30:29	4

ウェブブラウザを使用して、スキャン to FTP の設定を変更する

スキャン to FTP は、スキャンした文書をインターネット上もしくは、ローカルネットワーク上の FTP サーバーへ直接送信します。スキャン to FTP について詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「本製品でスキャンする（サーバーに送る場合）」



スキャン to FTP を使用するには、FTP サーバープロファイルの設定が必要です。

- 1** ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。
「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。
- 2** [スキャン] タブー [FTP/ ネットワークファイル スキャン] をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。
- 3** スキャン to FTP を設定するために使用したいプロファイル (1 ~ 5) を選択します。
FTP サーバープロファイル名としてすでにある 7 つのファイル名に加えて、[オリジナルファイル名登録] で作成した 2 つのファイル名を保存できます (最大 15 文字を入力できます)。
- 4** [OK] をクリックします。
- 5** [スキャン] タブー [FTP/ ネットワークファイル スキャンプロファイル] をクリックして、**3** で選んだプロファイル名またはその右側の [FTP] をクリックし、詳しい設定を行います。
必要に応じて次の設定を変更できます。
 - ・プロファイル名 (最大 15 文字まで)
 - ・サーバーアドレス
 - ・ユーザー名
 - ・パスワード
 - ・転送先フォルダー
 - ・ADF 高速モード
 - ・ファイル名
 - ・画質
 - ・ファイル形式
 - ・スキャンサイズ
 - ・ADF 長尺原稿モード
 - ・ADF 傾き補正 (MFC-J6990CDW のみ)
 - ・白紙除去 (MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ)
 - ・地色除去
 - ・パッシブモード
 - ・ポート番号FTP サーバーとファイアウォールの設定によって、パッシブモードをオフまたはオンに設定することができます。また、FTP サーバーにアクセスするためのポート番号を変更することもできます (ポート番号のお買い上げ時の設定は [21] です)。
これらの設定は、ほとんど変更することなく使用することが可能です。
- 6** 設定を完了したら、[OK] をクリックします。

ウェブブラウザを使用して、スキャン to ネットワークの設定を変更する (Windows® のみ)

スキャン to ネットワークは、スキャンした文書をインターネット上もしくは、ローカルネットワーク上の CIFS サーバーの共有フォルダーへ直接送信します。

スキャン to ネットワークについて詳しくは、下記をご覧ください。

⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「本製品でスキャンする（サーバーに送る場合）」



ウェブブラウザを起動して、本製品のウェブページにアクセスし、[ネットワーク] タブー [プロトコル] をクリックします。[CIFS] のチェックボックスにチェックを入れると、CIFS プロトコルを使用できます。

1 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2 [スキャン] タブー [FTP/ ネットワークファイル スキャン] をクリックします。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

3 スキャン to ネットワークを設定するために使用したいプロファイル（1 ～ 5）を選択します。

スキャン to ネットワークプロファイル名としてすでにある 7 つのファイル名に加えて、[オリジナルファイル名登録] で作成した 2 つのファイル名を保存できます（最大 15 文字を入力できます）。

4 [OK] をクリックします。

5 [スキャン] タブー [FTP/ ネットワークファイル スキャンプロファイル] をクリックして、 で選んだプロファイル名またはその右側の [ネットワーク] をクリックし、詳しい設定を行います。

必要に応じて次の設定を変更できます。

- ・ プロファイル名（最大 15 文字まで）
- ・ サーバーアドレス
- ・ 転送先フォルダー
- ・ ADF 高速モード
- ・ ファイル名
- ・ 画質
- ・ ファイル形式
- ・ スキャンサイズ
- ・ ADF 長尺原稿モード
- ・ ADF 傾き補正（MFC-J6990CDW のみ）
- ・ 白紙除去（MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ）
- ・ 地色除去
- ・ 接続時にパスワード認証を行う
- ・ 接続パスワード
- ・ ユーザー名
- ・ パスワード

6 設定を完了したら、[OK] をクリックします。

IP ファクスを設定する

次世代ネットワーク（NGN）で IP ファクスを使用する場合、データコネクトの設定を変更する必要があります。標準のウェブブラウザで HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）または HTTPS（SSL によるデータ暗号化機能が付加された HTTP）を使用してデータコネクトの設定を変更することができます。



- 【TCP/IP】の【IP 取得方法】を【Auto】または【DHCP】に設定してください。
- データコネクト設定は、操作パネルを使用しても変更することができます。
- IP ファクスは、NTT のフレッツ 光ネクストに契約している場合のみ利用できます。
- 「データコネクト」「フレッツ 光ネクスト」は、NTT 東日本／NTT 西日本のサービスです。



1 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」または「https://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」または「https://192.168.1.3/」と入力します。



2 [ファクス] タブー [データコネクト設定] をクリックします。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

必要に応じて設定を変更してください。



- [IP ファクス] を [優先] に設定すると、相手先が IP ファクスに対応しているかを自動的に確認し、対応していない場合には通常のファクス送信を行います。
- [IP ファクス] を [専用] に設定すると、ファクス送信が IP ファクスのみとなります。ただし、手動送信およびポーリング送信の場合は、通常のファクス送信になります。
- 本製品の通信速度は標準：64kbps、高速：512kbps、最高速：1000kbps に対応しています。各利用料金については、NTT のホームページでご確認ください。



3 設定を完了したら、[OK] をクリックします。

第 6 章 インターネットファクス機能を使う



インターネットファクス機能は、MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ対応しています。



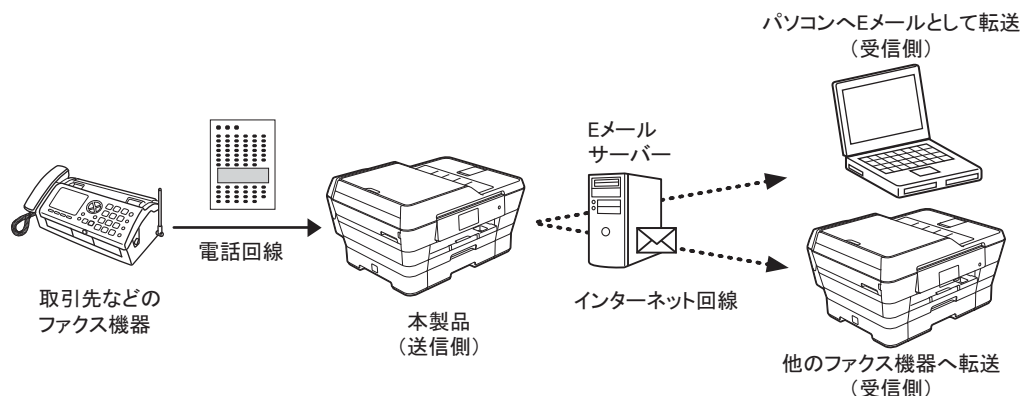
MFC-J6973CDW の場合

インターネットファクス機能をお使いになる場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からインターネットファクス機能インストールツールをダウンロードしてください。

インターネットファクス機能とは

インターネットファクスは、インターネットを使ってファクスメッセージを送受信する機能です。本製品からインターネットファクスでメッセージを送信するときは、TIFF-F 形式の添付ファイルとして E メール（MIME 形式）で送信されます。

パソコンを使って受信する場合、TIFF-F 形式が閲覧可能なビューワーをご使用ください。

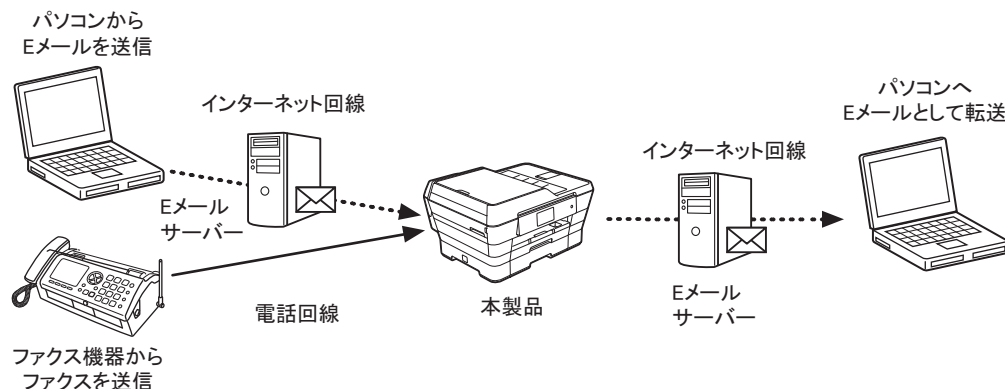


- Windows® XP、Windows Vista®、Windows® 7、Windows® 8 で「Windows ファイアウォール」を有効にしている、インターネットファクスが使用できないときは、ポート 54926 と 137 を開けて通信可能にする必要があります。
- TIFF-F 形式について
ファクス間でやり取りされる標準的な画像形式（TIFF）です。画像処理ソフトなどで使用されている TIFF ファイルと比較すると、圧縮形式やページ情報を持っている（複数の画像が 1 つのファイルになっている）などの点で異なります。従って、複数枚のファクスを受信しても 1 個のファイルに変換できます。
- インターネットファクス機能で送受信できるものは A4 サイズ、モノクロ、TIFF-F 形式のファイルのみです。A4 サイズ以上の用紙をセットした場合は、自動的に A4 サイズに縮小して送信します。

●受信した E メールやファクスを転送する

受信した E メールやファクスを他の E メールアドレスへ転送できます。この機能について詳しくは、下記をご覧ください。

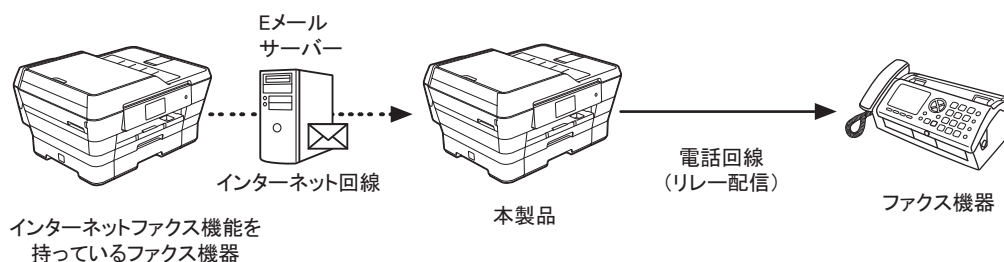
⇒ 71 ページ「受信した E メールやファクスを転送する」



●リレー配信する

インターネットファクスで受信した文書を、通常の電話回線を使用して他のファクス機器へ再送信することができます。長距離間の通信をインターネット回線で行い、近距離間を電話回線で行うことにより、通信費を節約することができます。この機能について詳しくは、下記をご覧ください。

⇒ 73 ページ「リレー配信する」



●インターネットファクスについて

インターネットファクス送受信は一般的な電話を使用したファクス通信とは下記の点で異なります。

- ・ 受信者の場所、LAN の構造やネットワークの混み具合によりエラーメールが返されるときに通常より時間がかかることがあります（通常は 20 ～ 30 秒）。
- ・ 重要機密などの情報の送信についてはインターネットを通じたファクス文書のやり取りよりも一般電話回線を使用したファクス通信をお勧めします。
- ・ 受信側のメールシステムが MIME 形式に対応していない場合はインターネットファクス文書を受信できません。その場合、サーバーメッセージの返信もないことがあります。
- ・ 送信原稿のサイズが大きすぎる場合、通信が正常に終了しないことがあります。
- ・ 受信した E メールフォントやフォントサイズを変更することはできません。

インターネットファクスを使うには

インターネットファクスをご使用いただくには、下記を設定する必要があります。

● MFC-J6973CDW の場合

サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からインターネットファクスのインターネットファクス機能 インストールツールをダウンロードしてインストールしてください。

● ネットワークの設定

本製品のネットワークを設定する必要があります。

設定していない場合は、「かんたん設置ガイド」をご覧ください。（ネットワークプリンターとして使用されていれば設定済みです。）

● E メールアドレスの取得

本製品用で送信、受信を行うため、E メールアドレスを本製品に設定する必要があります。

そのため、本製品用の E メールアドレスを取得してください。



パソコンで使用中の E メールアドレスは、本製品には使用しないでください。使用すると、本製品でメールを受信してしまうため、パソコンでメールを受信できなくなる場合があります。

● インターネットファクスの設定

本製品の【E メール / FAX】メニューから、E メールアドレスやメールサーバの設定を行ってください。

ウェブブラウザ、操作パネル、リモートセットアップ、または BRAdmin Professional から設定できます。

⇒ 62 ページ「インターネットファクスの設定をする」

● ファクス転送の設定（ファクス転送をする場合）

本製品の【ファクス】メニューから、転送先のファクス番号や E メールアドレスを設定してください。

⇒ 71 ページ「受信した E メールやファクスを転送する」

設定がわからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

● インターネットファクスの設定をする

ここでは、ウェブブラウザを使用して設定する方法を説明します。

1

本製品とネットワークで接続されたパソコンで、ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2

【ネットワーク】タブー【ネットワーク】－【プロトコル】をクリックします。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

3

設定を有効にするために、【POP3/SMTP】のチェックボックスを選択します。

4

「詳細設定」をクリックします。

POP3/SMTP	
状態	有効
送信メールサーバー (SMTP)	0.0.0.0
SMTPポート	25
送信メールサーバー (SMTP) 認証方式	☒ なし ☐ SMTP-AUTH ☐ POP before SMTP
SMTP-AUTHアカウント名	
SMTP-AUTHアカウントパスワード	
パスワード設定	
パスワード確認	
SMTP over SSL/TLS	☒ なし ☐ SSL ☐ TLS ☐ サーバー証明書を検証
デバイスのEメールアドレス	bm001ba9f88c36@example.com
受信メールサーバー (POP3)	0.0.0.0
POP3ポート	110
アカウント名 (ユーザー名)	
パスワード	
パスワード設定	
パスワード確認	
POP3 over SSL/TLS	☐ APOPを使用 ☒ なし ☐ SSL ☐ TLS ☐ サーバー証明書を検証
分割メッセージタイムアウト	120 分

●送信メールサーバー (SMTP)

ネットワーク上の SMTP メールサーバー (送信用サーバー) の IP アドレスまたはサーバー名を設定します。

インターネットファクス機能を使用する上で正しく入力されている必要があります。

(例: 「mailhost.brothermail.net」または「192.0.0.1」)

●SMTP ポート

SMTP メールサーバー (送信用サーバー) のポートを指定します。

メールサーバー管理者またはお使いのインターネットサービスプロバイダーから変更の指示があったときなど、必要に応じて設定してください。

●送信メールサーバー (SMTP) 認証方式

ユーザー認証を必要とするセキュリティの高い SMTP サーバーを経由して E メールを送信するには、SMTP 認証の設定が必要です。お買い上げ時の設定は「なし」です。

●SMTP-AUTH アカウント名 /SMTP-AUTH アカウントパスワード

認証が必要な送信メールサーバー (SMTP) を使用する場合は、送信メールサーバー (SMTP) のアカウント名とパスワードを設定してください。パスワードを設定しない場合は、スペースをひとつ入力してください。

● SMTP over SSL/TLS

Eメールを送信する際に SSL を使用した通信を行う場合に設定してください。お買い上げ時の設定は「なし」です。

- ・サーバー証明書を検証

SMTP over SSL/TLS に対して SSL、もしくは TLS を選択し、デバイスにインストールされている CA 証明書を使用してサーバーを検証する場合はチェックを入れてください。

● デバイスの E メールアドレス

本製品の E メールアドレスを入力します。

● 受信メールサーバー (POP3)

ネットワーク上の POP3 メールサーバー (受信用サーバー) の IP アドレスまたはサーバー名を設定します。

インターネットファクス機能を使用する上で正しく入力されている必要があります。

(例:「mailhost.brothermail.net」または「192.0.0.1」)

● POP3 ポート

POP3 メールサーバー (受信用サーバー) のポートを指定します。

● アカウント名 (ユーザー名)

POP3 メールサーバー (受信用サーバー) にアクセスするためには、アクセス用アカウントとパスワードが必要になります。ここでは、アクセス用アカウント名 (ユーザー名) の設定をします。アカウント名を設定したあとは、必ずパスワードも設定してください。

● パスワード

POP3 メールサーバー (受信用サーバー) にアクセスするためには、アクセス用アカウントとパスワードが必要になります。ここでは、アクセス用アカウントと対になるパスワードの設定をします。

- ・APOP を使用

アカウントやパスワードのセキュリティを保つために、APOP (Authenticated Post Office Protocol) を有効にできます。

● POP3 over SSL/TLS

Eメールを受信する際に SSL を使用した通信を行う場合に設定してください。お買い上げ時の設定は「なし」です。

- ・サーバー証明書を検証

POP3 over SSL/TLS に対して SSL、もしくは TLS を選択し、デバイスにインストールされている CA 証明書を使用してサーバーを検証する場合はチェックを入れてください。

● 分割メッセージタイムアウト

デバイスの分割メッセージ印刷機能を使って分割された電子メールによる印刷ジョブを受信した場合、分割されたジョブが揃うまで待ち合わせる最大時間を設定してください。



- ・ウェブブラウザで SMTP ポート番号も変更できます。これは、ご使用の ISP (インターネットサービスプロバイダー) が「Outbound Port 25 Blocking (OP25B)」サービスを実施している場合に便利です。

SMTP ポート番号を ISP が SMTP サーバーで使用している特有の番号 (例: ポート 587) に変更することで、SMTP サーバー経由で E メールを送信できるようになります。

- ・SMTP サーバー認証を有効にする場合は、[送信メールサーバー (SMTP) 認証方式] の [SMTP-AUTH] を選択する必要があります。
- ・「POP before SMTP」と「SMTP-AUTH」の両方を使える場合は、[送信メールサーバー (SMTP) 認証方式] の [SMTP-AUTH] を選択することをお勧めします。
- ・[送信メールサーバー (SMTP) 認証方式] を [POP before SMTP] に設定すると、[受信メールサーバー (POP3)] の設定が必要となります。また、[APOP を使用] をチェックして、APOP 方式を使用することもできます。
- ・詳細については、POP3/SMTP 設定のヘルプを参照してください。



設定を完了したら、[OK] をクリックします。
[E メール送信／受信設定のテスト] 画面が表示されます。



設定のテストを行う場合は、送信先アドレスを入力し [OK] をクリックします。
E メール設定のテスト結果画面が表示されます。

● インターネットファクスを送信する

インターネットファクスを送信する前に

インターネットファクスを送信する前に、必要に応じて、次の項目を設定します。

- ・ タイトル
- ・ サイズ制限
- ・ 受信確認要求

ここでは、ウェブブラウザを使用して設定する方法を説明します。

1

本製品とネットワークで接続されたパソコンで、ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2

[ファクス] タブー [I-Fax] - [インターネットファクス送信設定] をクリックします。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

インターネットファクス送信設定	
メールタイトル	
サイズ制限	☒ オフ ☐ オン
受信確認要求を行う	☒ オフ ☐ オン

● メールタイトル

パソコンなどへの送信時に、件名として表示されるテキストです。お買い上げ時の設定は「Internet Fax Job」です。

● サイズ制限

[サイズ制限] を [オン] にすると、1MB を超えるサイズのメールを送信しようとする、[メモリがいっぱいです] と表示され、メールの送信は中止されてエラーレポートが出力されます。この場合は、ページを分割するなど、1 通のメールサイズを 1MB 以下にして送信してください。お買い上げ時の設定は [オフ] です。

● 受信確認要求を行う

[受信確認要求を行う] を [オン] にすると、インターネットファクスを送信したとき、受信した相手機から受信確認メッセージを受け取るように要求します。受信側の機器で MDN (受信確認機能) の設定が有効になっている必要があります。お買い上げ時の設定は [オフ] です。

3

設定を完了したら、[OK] をクリックします。

インターネットファクスを送信する

インターネットファクスの送信方法は、通常のファクス送信の操作と同じです。

ファクス送信について詳しくは、下記をご覧ください。

⇒ユーザズガイド 基本編「ファクスを送る」

- インターネットファクスを送信するには、E メールアドレスを本製品から手動で入力するか、本製品の電話帳から送信先の E メールアドレスを選んでから、文書を読み取り、送信します。電話帳の作成について詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ユーザズガイド 基本編「電話帳に登録する」
⇒ユーザズガイド 応用編「電話帳」
- 解像度を変更したい場合は、ファクス送信画面で【設定変更】、【ファクス画質】の順に選び、設定を変更してから送信します。（【スーパーファイン】はインターネットファクスに対応していません。）



- 宛先の E メールアドレスを手動で入力する場合は、【ファクス】、【ファクス送信】（【みるだけ受信】が【する】のとき）、の順に押して、E メールアドレス入力画面に切り替えます。文字の入力方法について詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ユーザズガイド 応用編「文字の入力方法」
- 本製品の電話帳は、ウェブブラウザやリモートセットアップからも登録できます。

文書をスキャンすると、本製品は自動的に SMTP サーバーへ接続して指定された宛先に送信します。送信を中止したい場合は、を押します。



お使いの環境によっては、送信原稿のサイズが大きすぎると通信が正常に終了しないことがあります。このようなことを避けるため、本製品の【サイズ制限】を【オン】に設定しておくと便利です。1MB を超えるサイズの E メールを送信しようとする、【メモリがいっぱいです】と表示され、Eメールの送信が中止されてエラーレポートが出力されます。この場合は、ページを分割するなど、1 通の E メールサイズを 1MB 以下にして送信してください。

● インターネットファクスを受信する

インターネットファクスを受信する前に

インターネットファクスを受信する前に、必要に応じて、次の項目を設定します。

- ・ 自動受信（ポーリング間隔）
- ・ ヘッダー印刷
- ・ エラーメール削除
- ・ 受信確認

ここでは、ウェブブラウザを使用して設定する方法を説明します。



1 本製品とネットワークで接続されたパソコンで、ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。



2 [ファクス] タブー [I-Fax] - [インターネットファクス受信設定] をクリックします。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

インターネットファクス受信設定	
自動受信	☐ オフ ☒ オン
ポーリング間隔	10 分
ヘッダー印刷	なし ▼
エラーメール削除	☐ オフ ☒ オン
受信確認通知を行う	オフ ▼

● 自動受信

[自動受信] を [オン] に設定すると、本製品は [ポーリング間隔] で設定した時間ごとに自動的に POP3 サーバーへアクセスし、メールチェックします。メールがない場合は [受信中] と表示後、待機状態に戻ります。

● ポーリング間隔

[自動受信] を [オン] に設定した場合、POP3 サーバーに対し、何分ごとにメールチェックするかを指定します。お買い上げ時の設定は [10 分] です。

● ヘッダー印刷

メール内容のうち、ヘッダー部分を印刷するかどうかを設定します。お買い上げ時の設定は [なし] です。

- ・ [全て]：ヘッダーすべてを印刷
- ・ [ヘッダーのみ]：タイトル、宛先、差出人を印刷
- ・ [なし]：なし

● エラーメール削除

[エラーメール削除] を [オン] に設定すると、本製品がメールのチェックを行ったときに、POP3 サーバーから取得できなかったメールを削除することができます。

●受信確認通知を行う

「受信確認通知を行う」を「オン」にすると、本製品がインターネットファクスを受信したことを送信者（相手側）に通知するよう設定できます。

- [オン]：すべてのインターネットファクスメッセージに対して送信元に受信確認を送付します。
- [MDN]：MDN（受信確認リクエスト）機能を使用して送られてきたインターネットファクスメッセージの送信元に対してのみ受信確認を送付します。
- [オフ]：受信確認の送付を一切行いません。



設定を完了したら、「OK」をクリックします。

インターネットファクスを受信する

E メールを受信するには 2 通りの方法があります。

- 自動で定期的に受信する
- 手動で確認する

本製品は自動的に POP3 サーバーへアクセスし、メールが届いているかチェックを行います。そのチェック間隔を設定することもできます（ポーリング間隔設定）。また、【手動受信】を押して、手動でメールチェックを行うこともできます。

インターネットファクスを受信した場合は、画面に受信したメールの数が表示されます。受信するデータがない場合は、【メールはありません】と表示されます。



- インターネットファクスを受信したときに用紙がセットされていない場合は、本製品のメモリーに記憶され、用紙をセットすると自動的に印刷されます。
- インターネットファクスが正常に受信できなかった場合は、エラーレポートに次のよう出力され、【エラーメール削除】が【オン】に設定されている場合は、サーバーからデータが削除されます。
 - ーテキスト形式でない、TIFF-F 形式でない場合
「テンプファイルノ フォーマットハ ショウデキマセン」
 - ーサイズが大きすぎる場合
「ファイルサイズガ オオキスギマス」

インターネットファクスをパソコンで受信する

パソコンでインターネットファクスを受信した場合は、インターネットファクスで受信したことを示すタイトル表示のメールに添付されます。



Windows® 以外の OS から文書を送付してもらう場合は、受信側で TIFF-F 形式を閲覧することができるソフトウェアをインストールする必要があります。

インターネットファクスのその他の機能

●受信した E メールやファクスを転送する

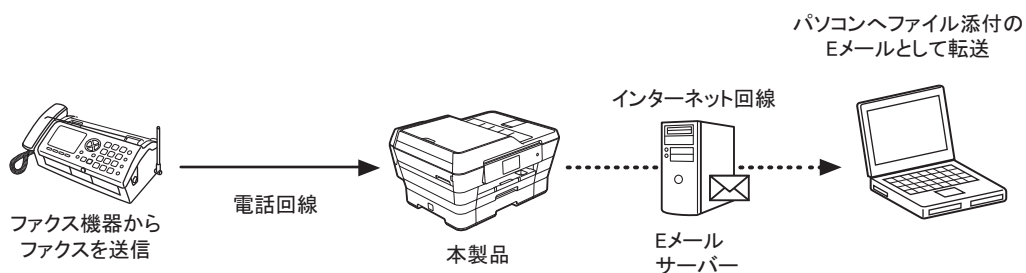
受信した E メールやファクスを他の E メールアドレスへ転送できます。

受信したメッセージをパソコンやインターネットファクスへ E メールとして転送できます。

本製品の操作パネルやウェブブラウザで転送の設定ができます。

ファクスを E メールアドレスに転送する

受信したファクスを画像データにして E メールアドレスにファイル添付して転送することができます。



- ・ 設定前に受信したファクスは転送できません。
- ・ 【みるだけ受信】と【ファクス転送】を同時に設定している場合は、本製品にファクスの受信データは残らず、転送先に送信されます。【ファクス転送】で【本体でも印刷する】を設定していても印刷されません。
- ・ カラーファクスは転送されずに自動的に印刷されます。
- ・ 【電話呼び出し】、【メモリ保持のみ】、【PC ファクス受信】と同時に設定できません。

ここでは、ウェブブラウザを使用して設定する方法を説明します。



本製品とネットワークで接続されたパソコンで、ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2

「ファクス」タブー「ファクス」－「応用機能」をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

応用機能	
PCファクス受信を設定する場合は、事前にパソコン側の「PC-FAX受信」プログラムを起動しておく必要があります。	
転送/メモリ受信	オフ
PC接続	--
ファクス転送先番号	☒ ファクス ☐ Eメール アドレス
電話呼び出し先番号	
転送ファクスの自動印字	☐ オフ ☒ オン
暗証番号	*

3

「転送 / メモリ受信」の「ファクス転送」を選びます。

4

「ファクス転送先番号」で「E メールアドレス」を選び、転送先の E メールアドレスを入力します。



転送したファクスを本製品で印刷したい場合は、「転送ファクスの自動印字」の「オン」にチェックを入れてください。

5

設定を完了したら、「OK」をクリックします。

● リレー配信する

インターネットファクス（インターネット回線）で受信した文書を、通常の電話回線を使用して他のファクス機器に再送信することをリレー配信機能と呼びます。

リレー配信をする前に

リレー配信をする前に、必要に応じて、次の項目を設定します。

- ・ リレー許可
- ・ 許可ドメイン
- ・ リレーレポート

ここでは、ウェブブラウザを使用して設定する方法を説明します。

1 本製品とネットワークで接続されたパソコンで、ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2 [ファクス] タブー [I-Fax] - [リレー配信機能] をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

● リレー許可

[リレー許可] を [オン] に設定すると、受信したインターネットファクスを通常の電話回線を使用して他のファクス機器に転送することができます。

● 許可ドメイン

本製品を経由して転送を許可するドメイン名を最大 5 件まで登録できます。ここに登録されていないドメインからのインターネットファクスは転送できません。登録されているドメインからのインターネットファクスのみ指定したファクス機器に転送することができます。

● リレー配信レポート

リレー配信レポートは、本製品を経由してインターネットファクスの転送が行われたときに出力されます。

3 設定を完了したら、[OK] をクリックします。

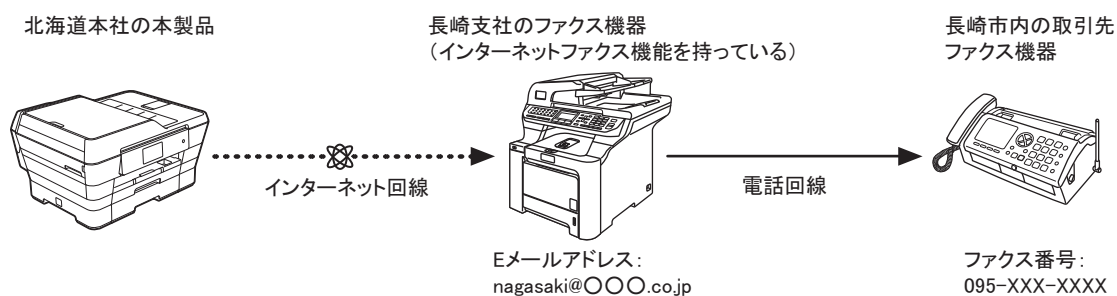
リレー配信の方法

本製品のリレー配信には下記の2種類があります。

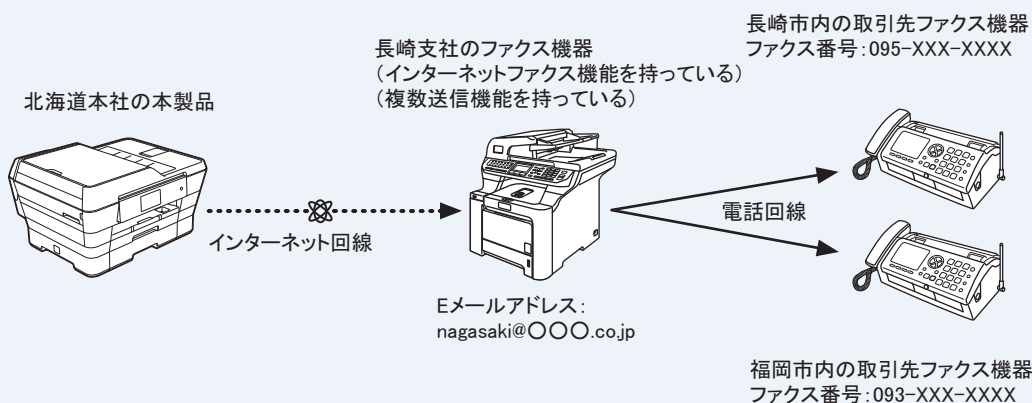
- 本製品から文書をインターネットファクス（インターネット回線）で他の機器に送り、そこから電話回線で他のファクス機器に送信させる場合
⇒ 74 ページ「本製品から送り、他の機器に中継させる場合」
- 本製品がインターネットファクス（インターネット回線）で受信した文書を他のファクス機器に電話回線で送信する場合
⇒ 77 ページ「インターネットファクスで受信した文書を本製品から他のファクス機器に送信する場合」

● 本製品から送り、他の機器に中継させる場合

例えば、北海道本社の本製品から、長崎支社にあるインターネットファクス機能を持つファクス機器を経由し、長崎市内にある取引先の通常のファクス機器にファクス送信する場合のリレー配信方法を説明します。



複数の送信先にファクス送信させることができます。その場合は、長崎支社のインターネットファクス機能を持つファクス機器が、本製品から発信した指示に従い、複数の宛先に送信できる機能を持っている必要があります。最大複数送信数は、ファクス機器の取扱説明書でご確認ください。



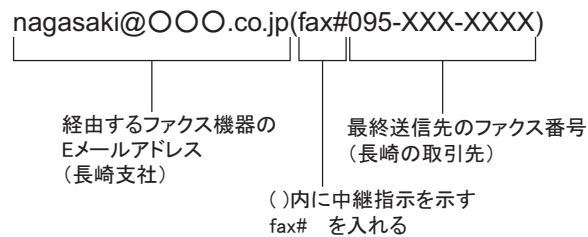
経由する長崎支社のファクス機器がインターネットファクス機能を持っている必要があります。複数個所に送信させる場合は、さらに複数同時送信機能を持っている必要があります。

宛先入力形式を確認する

あらかじめ、経由する長崎支社のインターネットファクス機能を持つファクス機器が、どのような使用環境にあるのかを確認してください。POP 受信サーバーが構築されている場合と構築されていない場合で、本製品の送信宛先入力形式が異なります。

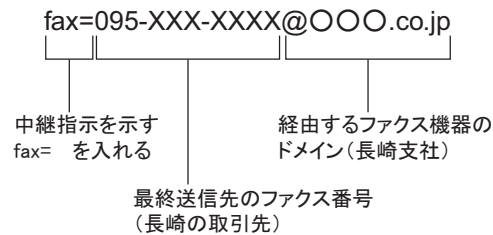
● POP 受信サーバーが構築されているとき

比較的、大規模なオフィスなどで、POP 受信サーバーが構築されている環境の機器に中継させる場合は、本製品の E メールアドレス入力画面で下記のように入力し、送信します。



● POP 受信サーバーが構築されていないとき

比較的、小規模なオフィスなどで、POP 受信サーバーが構築されていない環境の機器に中継させる場合は、本製品の E メールアドレス入力画面で下記のように入力し、送信します。



本製品から送信する

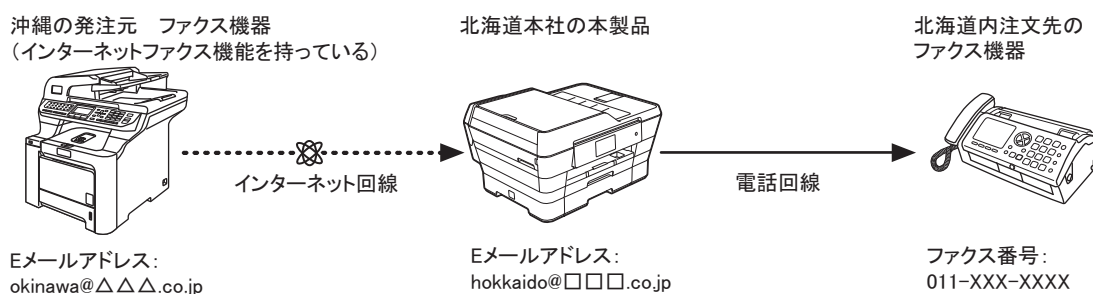
- 1 原稿をセットします。
- 2 【ファクス】を押します。
みるだけ受信をしている場合は、手順 2 のあとで、【ファクス送信】を押してください。
- 3 【設定変更】を押します。
- 4 ▼/▲を押して画面を送り、【同報送信】を押します。
- 5 【番号追加】を押します。
- 6 【番号追加】、の順に押して、E メールアドレス入力画面に切り替えます。
- 7 画面に表示されているテンキーでE メールアドレスを入力し、【OK】を押します。
例) POP 受信サーバーが構築されているとき
nagasaki@〇〇〇.co.jp(fax#095-XXX-XXXX)
1 台のみに送信する場合は、9 へ進みます。
- 8 複数のリレー配信先を入力するには、5 ~ 7 を繰り返して、E メールアドレスを入力します。
例) POP 受信サーバーが構築されているとき
nagasaki@〇〇〇.co.jp(fax#093-XXX-XXXX)
- 9 すべての送信先を入力したら、【OK】を押します。
- 10 【スタート】を押して送信します。



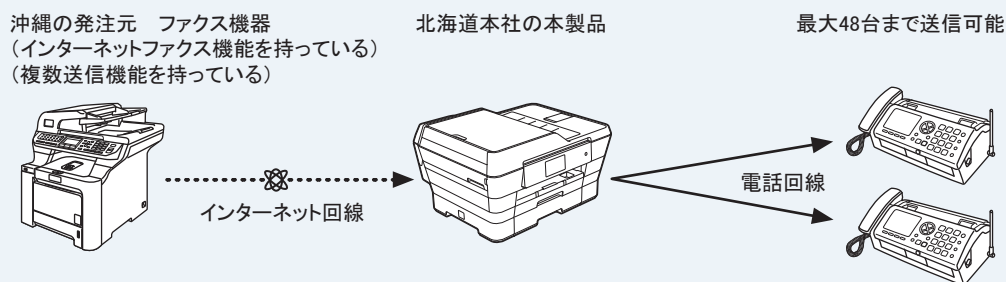
- 入力するE メールアドレスの形式は、中継するインターネットファクス機能を持つファクス機器が使用されている環境により異なります。
⇒ 75 ページ「宛先入力の形式を確認する」
- 頻繁にリレー配信機能を使用する場合には、決まったE メールアドレスの形式で電話帳に登録しておくこともできます。登録してある場合は、6 で【電話帳から選択】を押し、電話帳から送信先を選んで、【OK】を押します。

● インターネットファクスで受信した文書を本製品から他のファクス機器に送信する場合

例えば、沖縄の発注元から送信されたインターネットファクス文書を北海道本社の本製品で受信し、北海道内にある注文先の通常のファクス機器にファクス送信する場合のリレー配信方法を説明します。



- 本製品から最大 48 台の送信先にファクス送信することができます。その場合は、発信元のファクス機器に複数の宛先を指定して送信できる機能（同報送信機能）がある必要があります。
複数宛先入力の方法について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。



- パソコンから送信する場合については、下記をご覧ください。
⇒ 79 ページ「パソコンからリレー配信を行う」



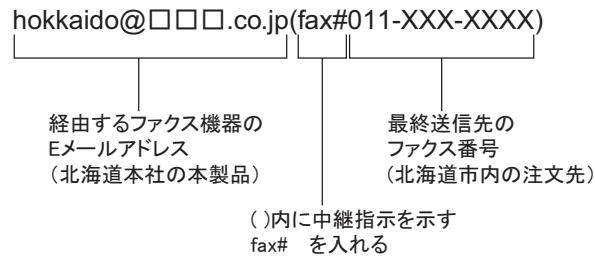
- 本製品を中継点としてリレー配信を行う場合には、あらかじめ、下記の設定を行ってください。
- リレー配信を行う発信元として、沖縄の発注元製品のドメイン名を本製品の【許可ドメイン】に登録してください。この場合のドメイン名とは「△△△.co.jp」です。ドメイン名が登録されていないメールを受信しても本製品はリレー配信を行いません。（ドメイン名は5つまで登録できます。）
- 本製品の【リレー許可】を【オン】に設定してください。【オフ】になっていると本製品はリレー配信を行いません。

宛先入力形式を確認する

本製品を中継点としてリレー配信を行う場合には、あらかじめ、本製品の使用環境を沖縄の発注元に知らせておく必要があります。本製品の使用環境が POP 受信サーバーが構築されている場合と構築されていない場合で、宛先入力形式が異なります。

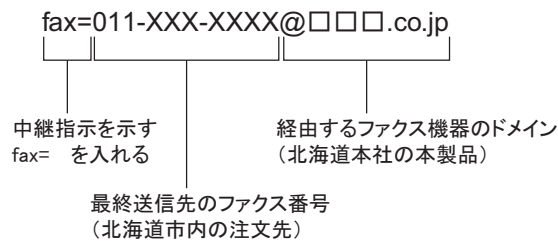
● POP 受信サーバーが構築されているとき

沖縄の発注元は、本製品に対して下記のような E メールアドレス形式で送信します。



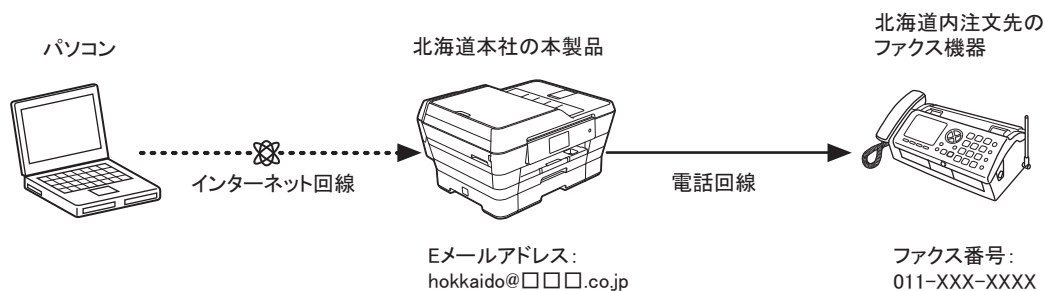
● POP 受信サーバーが構築されていないとき

沖縄の発注元は、本製品に対して下記のような E メールアドレス形式で送信します。



● パソコンからリレー配信を行う

例えば、パソコンから北海道本社にある本製品にインターネットでEメールを送信し、本製品から北海道内にある注文先の通常のファクス機器にファクス送信することもできます。パソコンからEメールを送信する場合のリレー配信先のファクス番号入力方法は、お使いのメールソフトにより異なります。



また、ソフトウェアやそのバージョンによっては、配信先のファクス番号を含んだEメールアドレスの送信/同報に対応していない場合があります。

その場合は、送信先アドレスの欄やアドレス帳のメンバー作成時のアドレス欄に下記のように入力してください。

例) POP 受信サーバーが構築されているとき

hokkaido@□□□.co.jp(fax#011-XXX-XXXX)

メールソフトによっては上記のとおり入力して [Enter] キーを押すと [fax#011-XXX-XXXX] と表示されることがありますが、正しく送信できます。

リレー配信機能はネットワーク PC-FAX からも使用できます。(Windows® のみ)



- メールソフトに入力するEメールアドレスの形式は、中継する本製品の使用環境により異なります。
⇒ 78 ページ「宛先入力の形式を確認する」
- 添付文書をリレー配信する場合、ITU-T 勧告によるI-FAX フォーマット「T.37」規格に準拠したファイルを添付してください。

● 確認メールについて

本製品からインターネットファクスを送信したとき、相手機がそのファクスを受信したことを確認メッセージとして受け取れるように設定できます。また、本製品がインターネットファクスを受信したとき、そのことを送信者に通知するように設定することもできます。これらの設定は、【メール送信設定】と【メール受信設定】で行います。

メール送信設定

【メール送信設定】の【受信確認要求】を【オン】または【オフ】にします。【オン】に設定した場合は、送信する文書に情報を追加して送信します。その情報を MDN（受信確認リクエスト）と呼び、受信した相手機から受信確認メッセージを受け取ることができます。受信側の機器が MDN 対応機能で、その設定が有効になっている必要があります。

メール受信設定

本製品がインターネットファクスを受信したことを送信者に通知するよう設定できます。【メール受信設定】の【受信確認】を設定します。この設定には 3 通りあります。

- ・【オン】：受信したすべてのインターネットファクスに対して送信元に受信確認を送付します。
- ・【MDN】：MDN（受信確認リクエスト）機能を使用して送られてきたインターネットファクスの送信元に対してのみ受信確認を送付します。
- ・【オフ】：受信確認の送付を行いません。



確認メールを確実に機能させるために、必ず次の設定を行ってください。

- ・送信の場合
 - 【メール送信設定】の【受信確認要求】を【オン】に設定する。
 - 【メール受信設定】の【ヘッダー印刷】を【全て】または【ヘッダーのみ】に設定する。
- ・受信の場合
 - 【メール受信設定】の【受信確認】を【オン】にする。

● エラーメールについて

インターネットファクス送信時にエラーが発生した場合は、メールサーバーからエラーメッセージが送信され、本製品でエラーメッセージが出力されます。また、インターネットファクス受信時にエラーが発生した場合も、同様に出力されます（例：「送信されたメッセージは TIFF-F 形式ではありませんでした」）。

エラーメールを確実に受け取るために、必ず、【メール受信設定】の【ヘッダー印刷】を【全て】または【ヘッダーのみ】に設定してください。

第7章 セキュリティー機能を使う

概要

パソコンをネットワークに接続していると、悪意のある第三者によって不正にネットワークにアクセスされてデータや機密情報が読み取られてしまうなどの危険性があります。

本製品は、最新のネットワークセキュリティーおよび暗号化プロトコルを使用して、機器への不正アクセスを防止する機能を搭載しています。

この章では、本製品がサポートしているセキュリティープロトコルやその設定方法について説明します。

以下のセキュリティー管理をすることができます。

- **安全に E メールを送受信する (MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ)**

⇒ 82 ページ「安全な Eメールの送受信 (MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ)」

- **BRAdmin Professional を使って、本製品を安全に管理する**

⇒ 86 ページ「BRAdmin Professional を使って安全に管理する (Windows® のみ)」

- **本製品を安全に管理するために、証明書を使う**

⇒ 87 ページ「証明書を使って安全に管理する」

- **複数の証明書を管理する**

⇒ 90 ページ「複数の証明書を管理する」



- FTP、TFTP プロトコルを無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすることは、セキュリティー上安全ではありません。
⇒ 46 ページ「ウェブブラウザを使用して本製品を設定する」
- FTP プロトコルが使用できない場合は、スキャン to FTP 機能は使用できません。

安全な E メールを送受信 (MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ)

ユーザー認証を必要とする SMTP サーバーを経由して、E メールを送信するには、「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法を使用する必要があります。「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法は、無許可のユーザーがメールサーバーに不正にアクセスすることを防ぎます。

また E メールを安全な経路で送信、受信するには、SSL/TLS 通信方式を使用する必要があります。SSL/TLS 通信方式は、E メールデータが第三者に不正に読み取られることを防ぎます。

これらの設定はウェブブラウザで設定することができます。詳細については、ウェブブラウザの POP3/SMTP 設定のヘルプを参照してください。

設定後にテストメールを送信し、E メール設定が正しいことを確認してください。

● E メール通達機能について

E メール通達機能では、あらかじめ登録しておいたネットワーク管理者に、本製品の状態やトラブルが起きたときにその内容を E メールでお知らせすることができます。

例えば、トナー切れや紙づまりが起きたときなどに、登録しておいたメールアドレスにお知らせメールが届きます。

E メール通達機能を利用するには、メールアドレスと SMTP サーバーの設定が必要です。使用している環境に応じて設定してください。



- POP3/SMTP 認証の設定を E メールサーバーのいずれかに合わせる必要があります。使用前の設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。E メール通達機能は、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、[ネットワーク] タブ - [ネットワーク] - [エラー通達] から設定してください。
- SSL/TLS 通信を使って E メールを送受信するためには、SSL/TLS 通信に対応している E メールサーバーが必要です。SMTP over SSL/TLS または POP3 over SSL/TLS を正しく設定する必要があります。

● ウェブブラウザを使って設定する

- 1 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。
「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。



- DNS を使用している場合は、IP アドレスの代わりにノード名を入力することもできます。
例) SharedPrinter の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://SharedPrinter/」と入力します。
- NetBIOS 名が使用可能な場合は、ノード名を入力することもできます。NetBIOS 名はネットワーク設定リストで確認できます。
⇒ 39 ページ「ネットワーク設定リストの出力」
例) BRNxxxxxxxxxxxx の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://brnxxxxxxxxxxxx/」と入力します。
- Macintosh をお使いの場合は、ステータスマニターの本製品のアイコンをクリックすると、ウェブブラウザを使ってより簡単に本製品にアクセスできます。詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「便利な使い方 (ControlCenter2)」－「デバイス設定」

- 2 [ネットワーク] タブー [ネットワーク] － [プロトコル] をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

- 3 設定を有効にするために、必ず [POP3/SMTP] のチェックボックスを選択して、[詳細設定] をクリックします。

- 4 必要に応じて、POP3/SMTP の設定を変更します。



- 詳細については、POP3/SMTP 設定のヘルプを参照してください。
- 設定後にテストメールを送信し、E メール設定が正しいことを確認してください。
- POP3/SMTP の設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

- 5 設定を完了したら、[OK] をクリックします。
[E メール送信 / 受信設定のテスト] 画面が表示されます。

- 6 設定のテストを行う場合は、画面の指示に従ってください。

● ユーザー認証を使用して E メールを送信する

本製品は、ユーザー認証を必要とする SMTP サーバーを経由して、E メールを送信するための「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」認証方法をサポートしています。「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法は、無許可のユーザーがメールサーバーに不正にアクセスすることを防ぎます。

「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」認証方法は、E メール通達、スキャン to E メール送信機能、インターネットファクス送信機能を使用する場合に行われます。

これらの設定は、ウェブブラウザで設定することができます。

[POP3/SMTP] 画面で、以下の設定をします。

⇒ 83 ページ「ウェブブラウザを使って設定する」

メールサーバーを設定する

送信メールサーバー (SMTP) 認証方式を、ご利用の E メールサーバーで要求される認証方式に設定する必要があります。ご利用の E メールサーバーで要求される認証方式については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。



送信メールサーバー (SMTP) 認証方式を有効にするために、[送信メールサーバー (SMTP) 認証方式] の [POP before SMTP] または [SMTP-AUTH] を選択してください。

● SSL/TLS を使用して E メールを送受信する

本製品は、SSL/TLS 通信を必要とする SMTP サーバーを経由して E メールを送受信するための SSL/TLS 通信方式をサポートしています。SSL/TLS 方法は、正しく設定する必要があります。

[POP3/SMTP] 画面で、以下の設定をします。

⇒ 83 ページ「ウェブブラウザを使って設定する」

サーバー証明書の検証について

[SMTP over SSL/TLS] または [POP3 over SSL/TLS] の [SSL] または [TLS] を選択した場合は、[サーバー証明書を検証] に自動的にチェックが入ります。



- サーバー証明書を検証する前に、証明機関 (CA) 発行の CA 証明書をインポートする必要があります。CA 証明書については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。
⇒ 88 ページ「CA 証明書をインポート／エクスポートする」
- サーバー証明書検証の必要のない場合は、[サーバー証明書を検証] のチェックを外してください。

ポート番号について

[SSL] または [TLS] を選択した場合、プロトコルに合わせた [SMTP ポート] または [POP3 ポート] の番号が変わります。手動でポート番号を変えたい場合は、[SMTP over SSL/TLS] または [POP3 over SSL/TLS] でいずれかを選択してからポート番号を入力してください。

E メールサーバーに合わせた POP3/SMTP 通信方法に設定してください。E メールサーバーの設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

安全な Web メールサービスには次の設定が必要です。

SMTP	SMTP ポート	587
	送信メールサーバー (SMTP) 認証方式	SMTP-AUTH
	SMTP over SSL/TLS	TLS
POP3	POP3 ポート	995
	POP3 over SSL/TLS	SSL

BRAdmin Professional を使って安全に管理する (Windows® のみ)

BRAdmin Professional を使って本製品を安全に管理するには、次の点に従ってください。

- BRAdmin Professional は、最新バージョンをご使用されることをお勧めします。
BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター <http://support.brother.co.jp/>）からダウンロードできます。旧バージョン^{*1}の BRAdmin Professional を使ってブラザー機器を管理すると、ユーザー認証においてセキュリティー上安全ではありません。
- 従来のプリントサーバー^{*2}と本製品のプリントサーバーが混在したグループを BRAdmin Professional で管理している場合は、グループごとに異なるパスワードを使うことをお勧めします。これによって本製品が安全に管理されます。

*1 Ver.2.80 以前の BRAdmin Professional、Ver. 1.10 以前の Macintosh 用 BRAdmin Light

*2 NC-2000 シリーズ、NC-2100p、NC-3100h、NC-3100s、NC-4100h、NC-5100h、NC-5200h、NC-6100h、NC-6200h、NC-6300h、NC-6400h、NC-8000、NC-100h、NC-110h、NC-120w、NC-130h、NC-140w、NC-8100h、NC-9100h、NC-7100w、NC-7200w、NC-2200w

証明書を使って安全に管理する

本製品では、以下の安全に管理するための複数のセキュリティー証明書、認証方式、セキュリティー通信方式に対応しています。

- SSL/TLS 通信
- SMTP/POP3 のための SSL 通信

本製品は、以下の証明書に対応しています。

● プレインストール証明書

本製品には、あらかじめインストールされている証明書があります。証明書を作成とインストールをすることなく、この証明書を使用して簡単に SSL/TLS 通信を行うことができます。

● CA 証明書

特定した証明機関（CA）の秘密鍵を所有する CA 証明書を使用する場合は、証明機関（CA）から CA 証明書をインポートし、事前に設定する必要があります。



SSL/TLS 通信を行う場合は、あらかじめネットワーク管理者にお問い合わせいただくことをお勧めします。

● CA 証明書をインポート／エクスポートする

CA 証明書をインポートする

- 1 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。
「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。



- DNS を使用している場合は、IP アドレスの代わりにノード名を入力することもできます。
例) SharedPrinter の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://SharedPrinter/」と入力します。
- NetBIOS 名が使用可能な場合は、ノード名を入力することもできます。NetBIOS 名はネットワーク設定リストで確認できます。
⇒ 39 ページ「ネットワーク設定リストの出力」
例) BRNxxxxxxxxxxxx の場合
ウェブブラウザのアドレス欄に「http://brnxxxxxxxxxxxx/」と入力します。
- Macintosh をお使いの場合は、ステータスマニターの本製品のアイコンをクリックすると、ウェブブラウザを使ってより簡単に本製品にアクセスできます。詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「便利な使い方 (ControlCenter2)」－「デバイス設定」

- 2 [ネットワーク] タブー [セキュリティ] － [CA 証明書] をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。

- 3 [CA 証明書のインポート] をクリックします。

- 4 インポートしたい CA 証明書を選択し、[OK] をクリックします。
CA 証明書が本製品にインポートされます。

CA 証明書をエクスポートする



ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。
「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。



- DNS を使用している場合は、IP アドレスの代わりにノード名を入力することもできます。

例) SharedPrinter の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://SharedPrinter/」と入力します。

- NetBIOS 名が使用可能な場合は、ノード名を入力することもできます。NetBIOS 名はネットワーク設定リストで確認できます。

⇒ 39 ページ「ネットワーク設定リストの出力」

例) BRNxxxxxxxxxxxx の場合

ウェブブラウザのアドレス欄に「http://brnxxxxxxxxxxxx/」と入力します。

- Macintosh をお使いの場合は、ステータスマニターの本製品のアイコンをクリックすると、ウェブブラウザを使ってより簡単に本製品にアクセスできます。詳しくは、下記をご覧ください。

⇒ ユーザーズガイド パソコン活用編「便利な使い方 (ControlCenter2)」－「デバイス設定」



「ネットワーク」タブー「セキュリティ」－「CA 証明書」をクリックします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログインしてください。



エクスポートしたい CA 証明書を選択し、「エクスポート」をクリックします。



「OK」をクリックします。
CA 証明書がパソコンにエクスポートされます。

複数の証明書を管理する

インストールされた複数の証明書は、ウェブブラウザで管理できます。証明書をインストールしたあとに、証明書設定画面から証明書を確認できます。また、証明書の内容を確認、削除、エクスポートすることもできます。

また、3つのCA証明書を格納することができます。SSL for SMTP/POP3を使用するときに格納された証明書を使用することができます。

例えば証明書の有効期限切れのように、証明書を入れ替える必要が出た場合に備え、自己署名証明書と証明機関（CA）発行の証明書の格納領域にそれぞれ予備を設けておくことをお勧めします。証明書を入れ替える場合は、新しい証明書を設けておいた予備領域へ格納して設定を行い、動作に問題のないことを確認してから不要となった証明書を削除してください。これによって、誤って必要な証明書を削除してしまうことを防ぐことができます。



SSL for SMTPを使用する場合は、証明書を選択できません。証明書は自動的に選択されます。

第 8 章 ネットワーク機能を使う

ネットワークスキャン機能を使う

● ネットワークスキャン機能とは

本製品でスキャンしたデータを、ネットワーク上のパソコンへ送ったり保存したりできる機能です。



あらかじめ本製品の TCP/IP の設定が必要です。

● ネットワークスキャンの設定



ネットワークスキャンを使用するときは、ネットワーク上の 1 台の本製品と最大 25 台のパソコンを接続することができます。例えば、30 台のパソコンが同時に本製品に接続しようとした場合は、5 台のパソコンは本製品の画面に表示されません。

● Windows® の場合

本製品のスキャンボタンを押してネットワークスキャン機能を使う場合は、スキャンしたデータを保存するパソコンの名称（コンピューター名）をあらかじめ登録する必要があります。初期設定では、スキャンしたデータは「かんたん設置ガイド」に記載されているインストール作業を行ったパソコンに保存されます。このまま使用の場合は設定する必要はありません。

IP アドレスを変更または登録したパソコンの名前を変える場合には、次の手順で設定してください。

ネットワークスキャン機能の詳細な説明については、下記をご覧ください。

⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Windows® 編」－「スキャナーとして使う前に」

1

下記の画面を表示します。

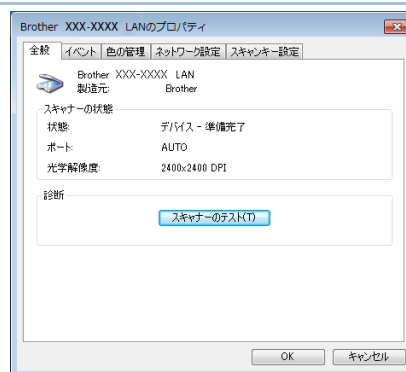


メニューから [すべてのプログラム] － [Brother] －  [Brother Utilities] を起動して、[スキャンする] － [スキャナーとカメラ] をクリックします。

2

[プロパティ] ダイアログボックスを表示します。

- Windows® XP の場合
接続している本製品のモデル名を右クリックして表示されるメニューから [プロパティ] を選びます。
- Windows Vista®, Windows® 7、Windows® 8 の場合
[プロパティ] をクリックします。



Windows Vista®, Windows® 7、Windows® 8 の場合

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたときは、下記のいずれかで対応してください。

- 管理者権限でログインしていた場合は、[続行] または [はい] をクリックします。
- 管理者権限でログインしていなかった場合は、パスワードを入力して [OK] または [はい] をクリックします。

3

「ネットワーク設定」タブをクリックし、項目を設定します。

- IP アドレスを変更する場合は、新しい IP アドレスを入力します。
- 本製品の名称を変更する場合は、[ノード名] に新しい名称を入力します。
- 使用できる機器の一覧を検索してから設定する場合は、[検索] をクリックして該当する製品名を探すこともできます。

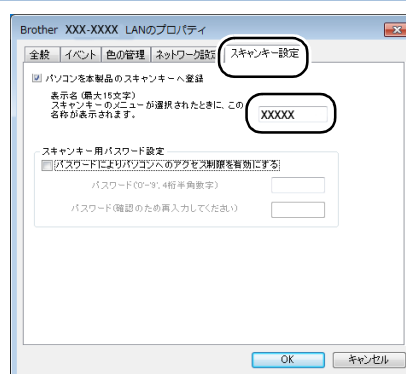


4

「スキャンキー設定」タブをクリックし、データを保存するパソコンの名称を入力します。

初期設定はお使いのパソコンの名称が表示されています。

操作パネルのスキャンボタンを操作するときに、本製品の画面に表示されるこのパソコンの名称です。パソコンの名称は、プロパティ画面で確認できます。



5

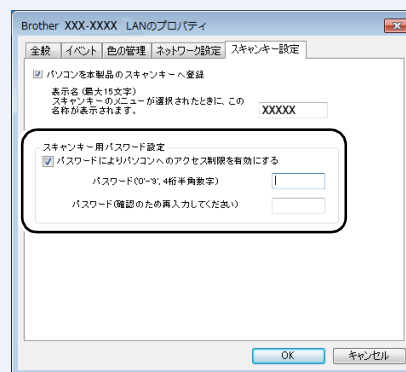
「OK」をクリックします。
設定が完了しました。

メモ

スキャンした画像データの保存に制限をつけたいときは

スキャンした画像データをパソコンに保存するとき、パスワードを入力しないと保存できないように設定できます。

「スキャンキー用パスワード設定」で4桁の数字をパスワードとして登録します。



● Macintosh の場合

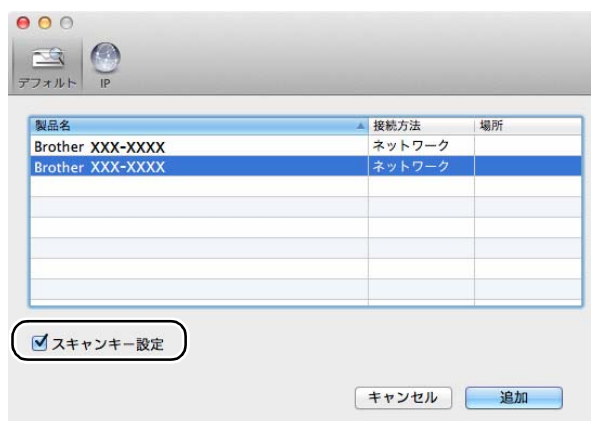
本製品のスキャンボタンを押してネットワークスキャン機能を使う場合は、あらかじめ受信する Macintosh で「スキャンキーへの登録」設定が必要です。次の手順で設定してください。
ネットワークスキャン機能の詳細な説明については、下記をご覧ください。
⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Macintosh 編」－「スキャナーとして使う前に」

- 1 ControlCenter2 を起動し、モデルの [その他] を選びます。
[デバイスセクター] 画面が表示されます。

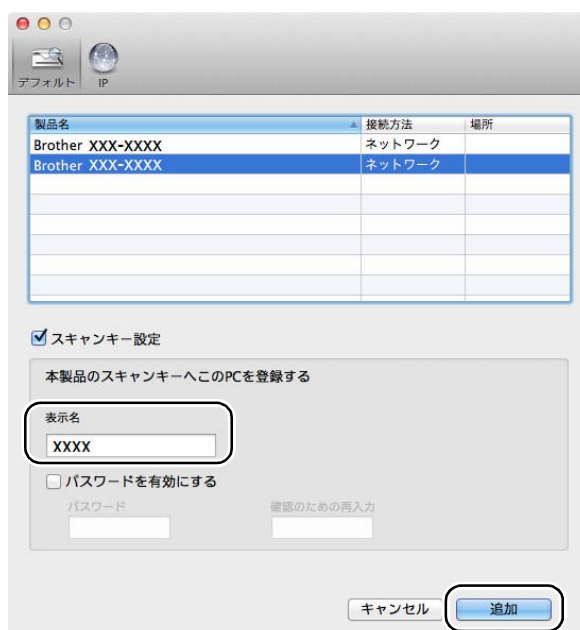


- 2  ボタンをクリックします。

- 3 利用可能な製品のリストから本製品を選択し、[スキャンキー設定] をチェックします。



- 4 接続方法が [ネットワーク] であることを確認し、[表示名] に Macintosh の名前を入力して [追加] をクリックします。



5

[OK] をクリックします。
設定が変更されます。



スキャンした画像データの保存に制限をつけたいときは
スキャンした画像データを
Macintosh に保存するとき、パスワードを入力しないと保存できないように設定できます。
[パスワードを有効にする] を
チェックして、4桁の数字をパスワードとして登録します。

製品名	接続方法	場所
Brother XXX-XXXX	ネットワーク	
Brother XXX-XXXX	ネットワーク	

☒ スキャンキー設定

本製品のスキャンキーへこのPCを登録する

表示名

☒ パスワードを有効にする

パスワード

確認のための再入力

キャンセル 追加

ネットワーク PC-FAX 送信機能を使う

● ネットワーク PC-FAX 送信機能とは

PC-FAX 機能を利用すると、パソコン上のアプリケーションで作成したデータを、ネットワーク上の本製品からファクスとして送信できます。Windows® の場合は、送付書を添付して送ることもできます。

PC-FAX を使うときは、あらかじめ PC-FAX アドレス帳に相手先を登録しておく、ファクス送信先を簡単に設定できます。Windows® の場合は、個人情報登録しておく、ファクスや送付書に自分の名前や電話番号を自動的に入れることができます。

● ネットワーク PC-FAX 送信機能を使う

Windows® の場合は、作成したデータのアプリケーションメニューから [印刷] を選び、プリンターを [Brother PC-FAX] に設定すると、PC-FAX ウィンドウが表示されます。

Macintosh の場合は、作成したデータのアプリケーションメニューから [プリント] を選び、プリントダイアログで [ファクス送信] を選ぶと PC-FAX 送信設定ウィンドウが表示されます。

このウィンドウで送信先などを設定します。



ファクスの送信手順やアドレス帳の使い方などについては、下記をご覧ください。

Windows® の場合⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「PC-FAX を使う前に」

Macintosh の場合⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Macintosh からファクスを送る」

ネットワーク PC-FAX 送信を行うポートを変更する (Windows® のみ)

「かんたん設置ガイド」に記載されているインストール作業を行ったパソコンで送信する場合は、本製品のポートが選択されています。このまま使用する場合は設定する必要はありません。使用するポートを変更したい場合は、次の手順で設定してください。



1 プリンターフォルダーを表示します。

- Windows® XP の場合
[スタート] メニューから [コントロール パネル] - [プリンタとその他のハードウェア] - [プリンタと FAX] をクリックします。
- Windows Vista® の場合
 メニューから [コントロール パネル] - [プリンタ] の順にクリックします。
- Windows® 7 の場合
 メニューから [デバイスとプリンター] - [プリンターと FAX] の順にクリックします。
- Windows® 8 の場合
画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] - [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] - [デバイスとプリンター] の順にクリックします。

2

【プロパティ】ダイアログボックスを表示します。

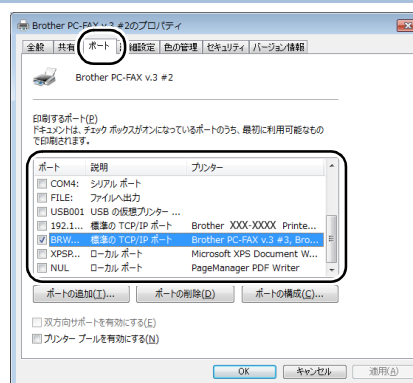
- Windows® XP、Windows Vista® の場合
[Brother PC-FAX] を選択し、右クリックして表示されるメニューから [プロパティ] を選びます。
- Windows® 7、Windows® 8 の場合
[Brother PC-FAX] を選択し、右クリックして表示されるメニューから [プリンターのプロパティ] を選びます。

「Brother PC-FAX」は、ドライバーインストール時に同時にインストールされます。
ドライバーのインストール方法については、「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

3

【ポート】タブをクリックし、使用するポートを選びます。

複数台の本製品をご使用の場合は、ネットワーク PC-FAX に使用するポートをここで指定してください。わからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。



4

【OK】をクリックします。
設定が完了しました。

ネットワークリモートセットアップ機能を使う

● ネットワークリモートセットアップ機能とは

本製品の設定をネットワークに接続しているパソコンから変更したり、本製品の電話帳を編集したりできます。



セキュリティ機能ロック 2.0 が「オン」に設定されている場合は、リモートセットアップ機能は使用できません。

リモートセットアップを起動する



(Windows® の場合)

(スタート) メニューから [すべてのプログラム] - [Brother] - [Brother Utilities] を起動して、[ツール] - [リモートセットアップ] をクリックします。

(Macintosh の場合)

[Finder] メニューから [移動] - [アプリケーション] - [Brother] から [ControlCenter] アイコンをダブルクリックします。

ControlCenter 画面が表示されたら、[デバイス設定] - [リモートセットアップ] ボタンをクリックします。

接続している本製品から設定内容をダウンロードします。ダウンロードが終わると、リモートセットアップのダイアログボックスが表示されます。

詳細な説明については、下記をご覧ください。

Windows® の場合⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Windows® 編」 - 「リモートセットアップを利用する」

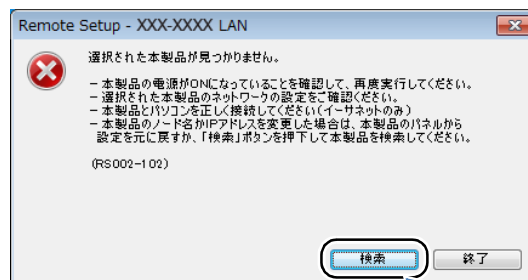
Macintosh の場合⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Macintosh 編」 - 「リモートセットアップを利用する」

本製品との接続に失敗した場合

● Windows® の場合



エラーメッセージの [検索] をクリックします。

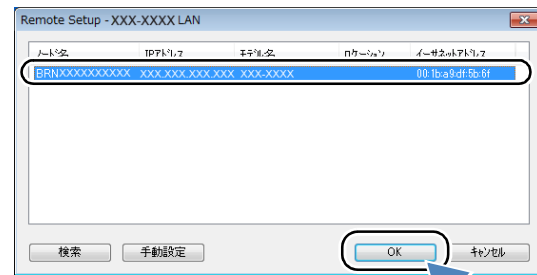


2

表示される機器の一覧から、設定を変更する機器を選び、[OK] をクリックします。

選択した機器への接続を開始します。

再度機器を検索する場合は、[検索] をクリックしてください。



表示される一覧に、接続先の機器が表示されない場合

[手動設定] をクリックして表示されるダイアログボックスで、接続先の IP アドレスまたはノード名を入力して設定してください。

● Macintosh の場合

1

ControlCenter2 を起動し、モデルの [その他] を選びます。

[デバイスセクター] 画面が表示されます。



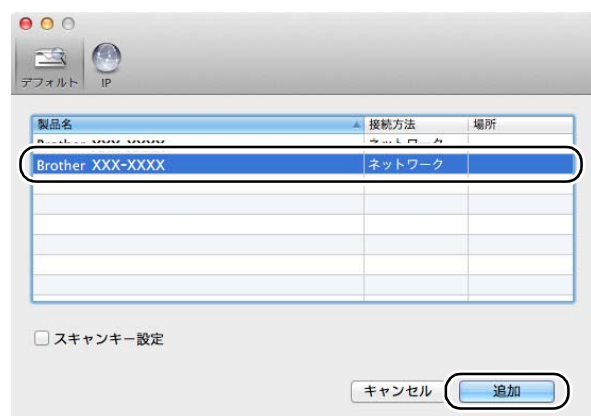
2



ボタンをクリックします。

3

利用可能な製品のリストから本製品を選択し、[追加] をチェックします。



4

[OK] をクリックします。

選択した機器への接続を開始します。

第9章 困ったときは（トラブル対処方法）

この章では、ネットワークに関してトラブルが発生したときの対応方法について説明しています。該当する問題のページをご覧ください。

- 無線 LAN アクセスポイントに接続できない（99 ページ）
- インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない（100 ページ）
- 印刷／スキャンできない（101 ページ）
- ネットワーク機器に問題がないか調べるには（102 ページ）
- セキュリティソフトウェアについて（103 ページ）
- ネットワークの設定がうまくいかないときは（104 ページ）

無線 LAN アクセスポイントに接続できない

1) 次の項目を確認してください。

● **無線 LAN アクセスポイントと、本製品が離れすぎていませんか？間に障害物がありますか？**

本製品を見通しの良い場所へ移動させたり、できるだけ無線 LAN アクセスポイントに近づけたりしてください。また、無線 LAN 設定時は 1m 程度に近づけてお試しください。

● **近くに無線 LAN に影響を及ぼすものはありますか？**

本製品の近くに、ほかの無線 LAN アクセスポイントやパソコン、短距離無線通信対応機器、電子レンジ、デジタルコードレス電話がある場合は離してください。

2) 次の場合は、お使いのブロードバンドルーターなどのメーカーにお問い合わせください。

● **無線 LAN アクセスポイントが正常に動作していますか？**

無線 LAN を内蔵したパソコンでインターネットに接続できるかお試しください。

● **アクセス制限を設定していませんか？**

無線 LAN アクセスポイントの MAC アドレスフィルタリング機能を使用している場合は、本製品の MAC アドレスを無線 LAN アクセスポイントに登録して、通信を許可してください。



本製品の MAC アドレス（イーサネットアドレス）は、下記でご確認ください。

⇒ 32 ページ「MAC アドレス」

有線 LAN と無線 LAN では、MAC アドレスが異なりますので注意してください。

● **SSID（ネットワーク名）を表示させない設定にしていますか？**

無線 LAN アクセスポイントが SSID の隠ぺい（SSID ステルスモード）に設定されているときは、本製品から自動的に見つけることはできません。SSID を操作パネルまたはパソコンの画面から本製品に入力してください。

⇒ 25 ページ「SSID が隠ぺいされている場合」

● **ネットワークキーの設定は正しいですか？**

大文字、小文字は区別されます。認証されないときは、ネットワークキーが間違っていないか確認してください。

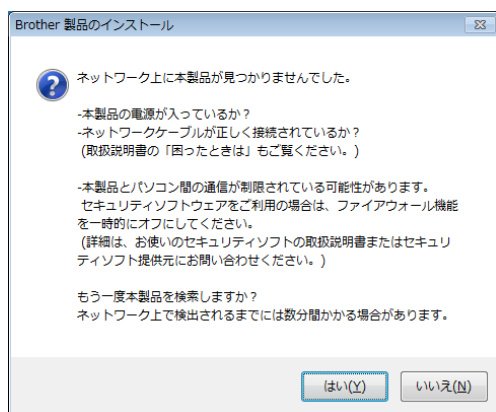
● **近くで別の無線機器を使用していませんか？**

近隣などですでに別の無線機器が導入されているときは、電波干渉を避けるために無線 LAN アクセスポイントのチャンネル番号をできるだけ離して（推奨：チャンネル番号 5 以上）設定してください。

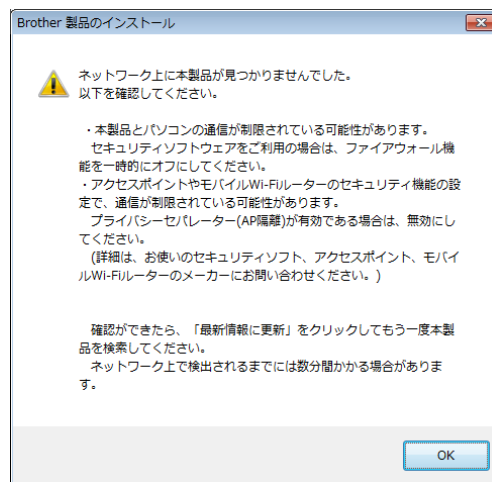
上記 1) 2) を行っても接続できない場合は、「ネットワーク診断修復ツール（Windows® のみ）」（105 ページ）を使って確認してください。

インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない

有線 LAN 接続の場合



無線 LAN 接続の場合



次の項目を確認してください。

- 1 お使いのパソコンから本製品までの接続機器が正常に稼働しているか確認してください。

⇒ 102 ページ「ネットワーク機器に問題がないか調べるには」

- 2 セキュリティソフトによってブロックされていないか確認してください。

⇒ 103 ページ「セキュリティソフトウェアについて」

- 3 設定しているネットワーク情報（IP アドレス）に誤りがないか確認してください。

⇒ 104 ページ「ネットワークの設定がうまくいかないときは」

印刷／スキャンできない

次の手順を確認してください。

1 お使いのパソコンから本製品までの接続ケーブルや接続機器が正常に動作しているか確認してください。
⇒ 102 ページ「ネットワーク機器に問題がないか調べるには」

2 セキュリティソフトによってブロックされていないか確認してください。
⇒ 103 ページ「セキュリティソフトウェアについて」

3 設定しているネットワーク情報（IP アドレス）に誤りがないか確認してください。
⇒ 104 ページ「ネットワークの設定がうまくいかないときは」

4 古い印刷ジョブを削除してください。
印刷に失敗した古いデータが残っていると印刷できない場合があります。

Windows® の場合は、以下のフォルダー内のプリンターアイコンを開き、すべての印刷ジョブを削除してください。

- Windows® XP の場合

[スタート] メニューから [コントロール パネル] - [プリンタとその他のハードウェア] - [プリンタと FAX] の順にクリックします。

- Windows Server® 2003 の場合

[スタート] メニューから [コントロール パネル] - [プリンタと FAX] の順にクリックします。

- Windows Vista® の場合

 メニューから [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] - [プリンタ] の順にクリックします。

- Windows® 7 の場合

 メニューから [デバイスとプリンター] - [プリンターと FAX] の順にクリックします。

- Windows® 8 の場合

画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] - [コントロール パネル] - [ハードウェアとサウンド] - [デバイスとプリンター] の順にクリックします。本製品を右クリックして、[印刷ジョブの表示] を選択します。

- Windows Server® 2008 の場合

[スタート] メニューから [コントロール パネル] - [プリンタ] の順にクリックします。

- Windows Server® 2012 の場合

画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] - [コントロール パネル] - [ハードウェア] - [デバイスとプリンター] の順にクリックします。本製品を右クリックして、[印刷ジョブの表示] を選択します。

5 再度、印刷／スキャンを試してください。
それでも印刷／スキャンなどができない場合は、ドライバーをアンインストールして、「かんたん設置ガイド」に従って、再度インストールすることをお勧めします。

ネットワーク機器に問題がないか調べるには

お使いのパソコンから本製品までの接続機器が正常に稼働しているか次の項目を確認してください。

●本製品の電源は入っていますか？

電源を入れて、印刷できる状態であることを確認します。エラーメッセージが表示されている場合は、下記をご覧ください。エラーを解除してください。

⇒ユーザーズガイド 基本編「画面にメッセージが表示されたときは」

●パソコンと無線 LAN アクセスポイントが、ネットワーク接続できていますか？

お使いのパソコンで、インターネット閲覧や E メールなどの機能が正常に動作しているか確認してください。

●接続方法を変更していませんか？

接続方法を変更するときは、使用する接続方法に切り替えてください。

⇒ 37 ページ「有線 LAN/ 無線 LAN を切り替える」

●有線 LAN の場合

接続したルーターやハブのランプは点灯 / 点滅していますか？

一般的に、ルーター / ハブには接続状態を示すリンクランプがあり、点灯 / 点滅で接続状態を確認できます。本製品を接続している LAN ポートのリンクランプを確認します。

- ランプが点灯 / 点滅している場合：接続には問題ありません。

- ランプが点灯 / 点滅していない場合：接続に問題があるようです。

次の項目を確認してください。

- ルーターまたはハブなどの LAN ポートにパソコンと本製品が正しく接続されていますか？

接続されていない場合は正しく接続し直してください。

接続にはストレートケーブルを使用してください。ほかのケーブルを使用している場合は、ストレートケーブルで接続し直してください。

- ほかの LAN ポートに接続し直したり、ほかの LAN ケーブルに差し換えたりしてお試しください。

それでも点灯 / 点滅しない場合は、ルーターまたは、ハブのメーカーにご相談ください。

●無線 LAN の場合

「無線 LAN アクセスポイントに接続できない」の項目で当てはまるものはありますか？

⇒ 99 ページ「無線 LAN アクセスポイントに接続できない」

セキュリティソフトウェアについて

●インストール

市販のセキュリティソフトでパーソナルファイアウォール機能が有効に設定されていると、インストール中にセキュリティの許可を促す画面が表示されることがあります。この場合は許可をしてください。



セキュリティ許可を促す画面で、拒否をするとインストールの完了ができないことがあります。この場合は、セキュリティソフトを再度インストールするか、セキュリティソフト提供元にお問い合わせください。

●印刷やその他の機能をご利用になるとき

インストール完了後、印刷やその他の機能をご使用になるときに、セキュリティ許可を促す画面が表示されることがあります。この場合も許可をしてください。拒否をした場合の対処や印刷に使用するポートの通信許可の方法については、セキュリティソフト提供元にお問い合わせください。

●本製品のネットワーク機能をご利用になるとき（Windows®）

次の機能をご利用いただく場合は、セキュリティ設定を行う必要があります。

- ・ ネットワークスキャン
- ・ ネットワーク PC-FAX 受信
- ・ リモートセットアップ

それぞれのセキュリティソフトの設定で、次のポート番号を追加してください。

ポート番号の追加方法は、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書またはセキュリティソフト提供元にお問い合わせください。

機能	名称 *	ポート番号	プロトコル (TCP/UDP)
ネットワークスキャン	例) Brother NetScan	54925	UDP
ネットワーク PC-FAX 受信	例) Brother PC-FAX RX	54926	UDP
リモートセットアップ	例) Brother RemoteSetup	137、161	UDP

*名称は任意です。

ネットワークの設定がうまくいかないときは

設定しているネットワーク情報（IP アドレスおよびサブネットマスク）に誤りがないかどうかを確認します。

● Windows® の場合

ネットワーク接続で印刷ができない場合は、ネットワーク設定の確認画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

問題が解決したら「完了」をクリックします。

問題が解決しない場合は、「次へ」をクリックし、画面の指示に従ってください。「ネットワーク診断修復ツール」を使って自動で修復できるかどうかをお試しください。

⇒ 105 ページ「ネットワーク診断修復ツール」を使用する（Windows® のみ）」

操作が完了したら、「ネットワーク診断修復ツール」の「テストページの印刷」をクリックします。テストページで製品のネットワーク接続状況を確認します。

● Macintosh の場合

お使いのパソコンと本製品の IP アドレスおよびサブネットマスクを手動で確認、再設定を行ってください。

⇒ 106 ページ「手動で確認、変更する」

●「ネットワーク診断修復ツール」を使用する (Windows® のみ)

「ネットワーク診断修復ツール」でネットワークプリンターを診断し、その結果を表示、場合によっては問題を自動で修復します。



- Windows® XP、Windows Vista®, Windows® 7、Windows® 8をお使いの場合、管理者権限でネットワークにログインしてください。
- 本製品の電源を入れ、パソコンとネットワーク接続した状態で、次の手順を実行してください。

1

(Windows® XP の場合)

[スタート] メニューから [すべてのプログラム] – [アクセサリ] – [エクスプローラ] の順にクリックし、[マイ コンピュータ] をクリックします。

(Windows Vista® の場合)

メニューから [コンピュータ] をクリックします。

(Windows® 7 の場合)

メニューから [コンピューター] をクリックします。

(Windows® 8 の場合)

タスクバーにある (エクスプローラー) をクリックし、ナビゲーションバー左の [コンピューター] をクリックします。

2

[ローカルディスク (C:)] – [Program Files (Program Files (x86))] – [Browny02] – [Brother] の順に選び、[BrotherNetTool.exe] をダブルクリックします。



Windows Vista®, Windows® 7、Windows® 8をお使いの場合、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] または [はい] をクリックします。

3

画面の指示に従い、診断修復を行います。

「ネットワーク診断修復ツール」を使っても改善しない場合は、ネットワーク管理者へご相談ください。

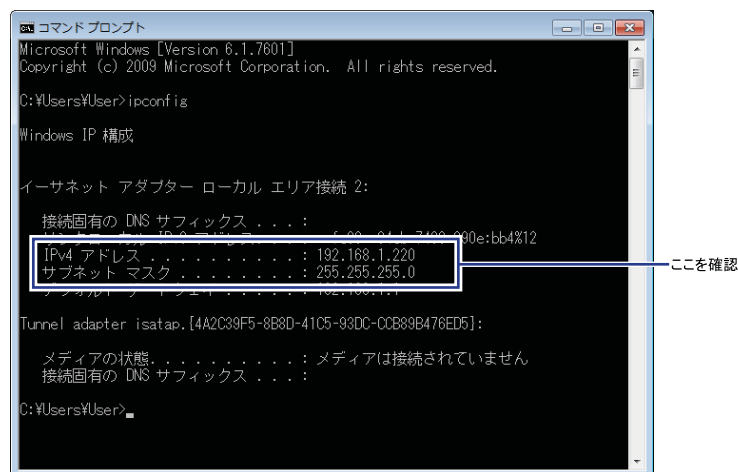
● 手動で確認、変更する

お使いのパソコンの IP アドレスおよびサブネットマスクは以下の手順で確認できます。本製品の情報も確認し、必要に応じて設定を変更してください。

パソコンのネットワーク情報を調べる

● Windows® の場合

- 1 (Windows® XP、Windows Vista®, Windows® 7 の場合)
 (スタート) メニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] を選び、[コマンドプロンプト] をクリックします。
 (Windows® 8 の場合)
 画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [検索] - [コマンドプロンプト] をクリックします。
- 2 「ipconfig」と入力し、Enter キーを押します。
- 3 「IPv4 アドレス (IPv4 Address)」と「サブネット マスク (Subnet Mask)」の行を探して、設定値を確認してください。
 例)



- 4 「exit」と入力し、Enter キーを押して終了します。

● Macintosh の場合

- 1 画面左上の [アップルマーク] をクリックします。
- 2 [システム環境設定] - [ネットワーク] をクリックします。
- 3 [詳細] - [TCP/IP] をクリックします。

4

「IPv4 アドレス」と「サブネットマスク」の設定値を確認してください。

本製品の IP アドレスの確認方法

ネットワークの設定内容リストを印刷して、「IP Address (IP アドレス)」と「Subnet Mask (サブネットマスク)」の行を探して、設定値を確認してください。

⇒ 39 ページ「ネットワーク設定リストの出力」

例)

<IP Settings>		
IP Address	192.168.11.250	(set manually)
Subnet Mask	255.255.255.0	
IP Gateway	192.168.100.200	
Boot Method	STATIC	
Boot Tries	3	
IP Filter	Disabled	

お使いのパソコンと本製品の 2 つの IP アドレスを確認してください。下図にあるように、ネットワークアドレス部が同じかどうかを確認します。例えば、**Subnet Mask** (サブネットマスク) が、「**255.255.255.0**」の場合、右端の各機種のアドレスだけが違う状態が正常な状態です。

Subnet Mask (サブネットマスク) は、**IP Address** (IP アドレス) に被せるマスクと考えてください。下図の例では、**Subnet Mask** (サブネットマスク) の「**255**」にかかる部分がネットワークアドレス部、「**0**」にかかる部分がホストアドレス部と呼ばれ、各機器のアドレスになります。

例) IP アドレスが「**192.168.100.250**」の場合

	ネットワークアドレス部		ホストアドレス部
IPアドレス	192	168	100.250
サブネットマスク	255	255	255.0

IP アドレス	あるパソコンは 192.168.100.202、ほかのパソコンには 192.168.100.203、本製品には 192.168.100.250 のように、サブネットマスクの「0」にかかる部分の数値を 1 ～ 254 の間で設定してください。
サブネットマスク	通常は、255.255.255.0 であれば問題ありません。プリンターを使用するすべてのパソコンで同じ値にしてください。

● 正常な状態なら・・・

IP アドレスに関しては問題ありません。次の確認へ進んでください。

● 正常な状態でないなら・・・

IP アドレスが重複しないように設定し直してください。

例) パソコン側の IP アドレス : **192.168.100.202**

本製品側の IP アドレス : **192.168.100.250**

⇒ 29 ページ「IP アドレス」

● ルーターやスイッチングハブの電源を入れ直す

頻繁に接続し直したり、接続している製品の IP アドレスの変更を繰り返し行ったりした直後には、IP アドレス設定に誤りがなくても正常に動作しない場合があります。ルーターやハブの再起動（電源の入れ直し）をしてください。

ネットワーク知識編

第 10 章	ネットワーク接続とプロトコルについて....	109
第 11 章	ネットワークの設定について	113
第 12 章	無線 LAN の用語と概念.....	115
第 13 章	Windows [®] でネットワークを設定する	117
第 14 章	セキュリティの用語と概念.....	123

第 10 章 ネットワーク接続とプロトコルについて

ネットワークの接続方法について

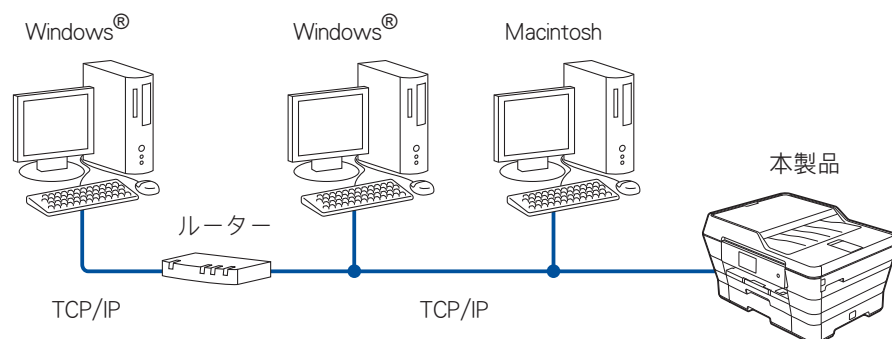
接続方法は、各パソコンから直接本製品と通信して印刷する方法（ピアツーピア）と、本製品に接続されているパソコンを経由して印刷する方法（ネットワーク共有）があります。

● 有線 LAN 接続

ピアツーピア接続

ピアツーピア接続では、各パソコンが本製品と直接データを送受信します。ファイルの送受信を操作するサーバーやプリントサーバーなどは必要ありません。

各パソコンにプリンターポートの設定をします。



- パソコン 2、3 台程度の小規模なネットワーク環境では、ネットワーク共有印刷よりも簡単に設定できるピアツーピア印刷をお勧めします。ネットワーク共有印刷については、下記をご覧ください。

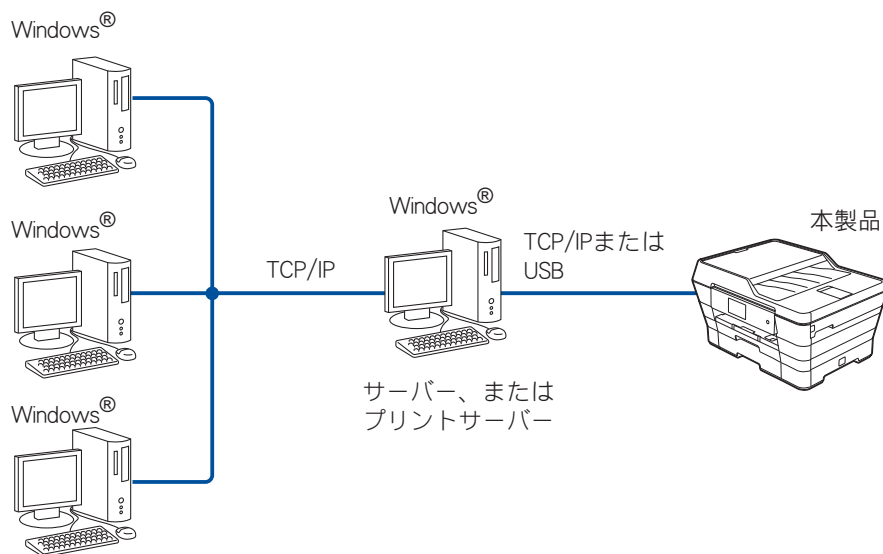
⇒ 110 ページ「ネットワーク共有」

- 各パソコンに TCP/IP プロトコルの設定を行います。
- 本製品にも IP アドレスを設定する必要があります。
- ルーターがある場合、ルーターの先からも利用可能です。（ゲートウェイの設定が必要）

ネットワーク共有

ネットワーク共有では、各パソコンが本製品とデータを送受信するには、サーバーまたはプリントサーバーを経由する必要があります。このサーバーまたはプリントサーバーで、すべての印刷作業を制御します。

本製品に直接接続されているパソコンにのみプリンターポートを設定し、そのパソコンを経由して他のパソコンも本製品を共有できます。ただし、本製品に接続されているパソコンの電源が入っていないと、他のパソコンは本製品を使用できません。



- 大規模なネットワーク環境では、ネットワーク共有印刷環境をお勧めします。
- サーバーまたはプリントサーバーは、TCP/IP 印刷プロトコルを使用してください。
- サーバーまたはプリントサーバーには、本製品に適した IP アドレスを設定する必要があります。
- サーバーまたはプリントサーバーを USB を経由して接続することもできます。
- サーバーまたはプリントサーバーは、プリンタードライバーがインストール済みであることが必要です。
- Windows® のみ設定可能です。



メモ ネットワーク共有の設定方法については、Windows® オペレーティングシステムの共有プリンターに関する説明やヘルプを参照してください。

プロトコルについて

● TCP/IP プロトコルと機能について

プロトコルとは、ネットワーク上でパソコン間のデータ通信をするための標準ルールです。プロトコルによりネットワーク接続された各機器にアクセスすることができます。

本製品のプリントサーバーは、TCP/IP（Transmission Control Protocol/Internet Protocol）をサポートしています。

TCP/IP プロトコルは、インターネットやメールなどの通信に使用される世界的な標準プロトコルです。

TCP/IP プロトコルは、Windows[®]、Windows Server[®]、Mac OS X や Linux[®] など、ほぼすべてのオペレーティングシステムで 사용할 ことができます。

本製品は、次の TCP/IP プロトコルに対応しています。



- HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用して、プロトコルの設定を行うことができます。
⇒ 46 ページ「ウェブブラウザを使用して本製品を設定する」
- 本製品がサポートしているプロトコルについて詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ 132 ページ「ネットワークの仕様」

● DHCP/BOOTP/RARP

DHCP、BOOTP または RARP プロトコルを使用して、IP アドレスを自動的に取得することができます。



DHCP、BOOTP または RARP プロトコルを使用する場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

● APIPA

本製品の IP アドレスを手動（操作パネルまたは BRAdmin Light を使用して）、または自動（DHCP、BOOTP または RARP サーバーを使用して）で割り当てていない場合は、APIPA（Auto IP）により自動的に IP アドレスを割り当てることができます。このとき、IP アドレスは 169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲で割り当てられます。

● ARP

TCP/IP プロトコルにおいて、IP アドレスの情報から MAC アドレスを調べて通知するプロトコルです。

● DNS クライアント

本製品は、DNS（ドメインネームシステム）クライアント機能をサポートしています。この機能により本製品は、サーバー自体の DNS 名で他の機器と通信することができます。

● NetBIOS name resolution

ネットワークの基本的な入出力システムの名前解決です。ネットワーク接続間の通信に NetBIOS 名を使用し、他の機器の IP アドレスを取得することができます。

● WINS

Windows[®] 環境で、ネームサーバーを呼び出すためのサービスです。サービスを実行するにはサーバーが必要です。

● LPR/LPD

TCP/IP ネットワーク上で通常用いられている印刷プロトコルです。

● SMTP クライアント

簡易メール転送プロトコル（SMTP）クライアントは、インターネットまたはイントラネットを経由して E メールを送信するために用いられます。

● Custom Raw Port / Port9100

LPR/LPD と同様に TCP/IP ネットワーク上で通常用いられる印刷プロトコルです。

● IPP

インターネット印刷プロトコル（IPP）を使用すると、インターネットを経由してアクセスできるプリンターへ文書を直接送信して印刷することができます。

● mDNS

DNS サーバーが存在しないような小規模なローカルエリアネットワーク環境においても、クライアントコンピューターがネットワーク上に存在する機器を名前を検索して利用できるようにする機能です。Apple Mac OS X の簡易ネットワーク設定機能などで使われています。

● SNMP

簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）は、TCP/IP ネットワーク内のパソコン、プリンター、端末を含めたネットワーク機器の管理に用いられます。

本製品のプリントサーバーは、SNMPv1、SNMPv2c をサポートしています。

ウェブブラウザを使用して SNMP の設定を行うこともできます。

● LLNMR

リンクローカルマルチキャスト名前解決（LLMNR）プロトコルは、ネットワークに DNS（ドメインネームシステム）がないときに近隣のパソコンの名前を解決します。LLMNR レスポンダー機能は、Windows Vista[®]、Windows[®] 7 などの LLMNR センダ機能を有するパソコンを使用する場合に IPv4、IPv6 両方の環境で有効です。

● Web Services

Windows Vista[®]、Windows[®] 7、Windows[®] 8 の場合は、Web Services プロトコルを使用してプリンタードライバーとスキャナードライバーをインストールできます。また、Web Services では、ご使用のパソコンから本製品の現在のステータスを確認することもできます。

⇒ 117 ページ「Web Services を使用する（Windows Vista[®]、Windows[®] 7、Windows[®] 8 のみ）」

● FTP（スキャン to FTP）

FTP（File Transfer Protocol）は任意のホスト間のファイル転送を行う通信プロトコルです。

ネットワークやインターネット上に置かれた FTP サーバーに、本製品からスキャンしたファイルを直接転送します。

● CIFS

CIFS（Common Internet File System：共通インターネットファイルシステム）は Windows[®] 上で、ファイルやプリンターを共有するために使用される標準的なプロトコルです。

● IPv6

IPv6 は、次世代のインターネットプロトコルです。IPv6 の詳しい情報は、次の URL にアクセスし、ご使用の製品のページを参照してください。

サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（<http://support.brother.co.jp/>）

第 11 章 ネットワークの設定について

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイについて

使用するパソコンと同じ TCP/IP 環境のネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。パソコンと本製品の間にルーターが接続されている場合は、「ゲートウェイ」のアドレスも設定する必要があります。

● IP アドレスとは

IP アドレスとは、ネットワークに接続している各機器の住所にあたるものです。

IP アドレスは、0 ～ 255 までの数字を「. (ピリオド)」で区切って「192.168.1.3」のように表現します。

例) ローカルネットワークでは、通常は最後の数字（ホストアドレス部）を変更します。

└─ ホストアドレス部

192 . 168 . 1 . 1
192 . 168 . 1 . 2
192 . 168 . 1 . 3

プリントサーバーに IP アドレスを割り当てる

ネットワーク上で DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバーを利用している場合は、IP アドレス配布サーバーから自動的に IP アドレスが割り当てられます。



ローカルネットワークの場合、ルーターに DHCP サーバーが設置されていることがあります。

DHCP、BOOTP、RARP で IP アドレスを設定する方法については以下を参照してください。

⇒ 134 ページ「DHCP を使用して IP アドレスを設定する」

⇒ 134 ページ「BOOTP を使用して IP アドレスを設定する」

⇒ 135 ページ「RARP を使用して IP アドレスを設定する」

ネットワーク上で DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバーを利用していない場合は、APIPA 機能により、169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲の IP アドレスが自動的に割り当てられます。

⇒ 135 ページ「APIPA を使用して IP アドレスを設定する」

● サブネットマスクとは

サブネットマスクは、ネットワークを複数の物理ネットワークに分割するのに使用します。

サブネットマスクはクラスごとに固定されています。

クラス A 255. 0. 0. 0

クラス B 255. 255. 0. 0

クラス C 255. 255. 255. 0

ルーターの取扱説明書によっては、192.168.1.1 / 255.255.255.0 のことを、192.168.1.1/24 と表記している場合があります。255.255.255.0 を 2 進数に換算すると、先頭から 1 が 24 個並びます。"/24" とは、このことを指します。24bit 以外のマスク値を設定することも可能ですが、IP 管理が複雑になりますので、マスク値は 24bit でご利用することをお勧めします。なお、ローカルネットワークで利用する IP アドレスのことをプライベート IP アドレスと呼び、こちらもクラスが分かれています。

クラス A 10. 0. 0. 0 ~ 10. 255. 255. 255

クラス B 172. 16. 0. 0 ~ 172. 31. 255. 255

クラス C 192. 168. 0. 0 ~ 192. 168. 255. 255

● ゲートウェイ（ルーター）とは

ルーターはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルーターが持つ IP アドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。ルーターの IP アドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルーターの取扱説明書をご覧ください。

第 12 章 無線 LAN の用語と概念

ネットワークを指定する

● SSID とチャンネル

無線 LAN の接続先を指定するには SSID とチャンネルを設定する必要があります。

● SSID

それぞれの無線 LAN では、独自のネットワーク名を持っています。そのネットワーク名は SSID または ESSID と呼ばれます。SSID は最大 32 文字までの英数字を使用し、アクセスポイントに割り当てられます。SSID は無線 LAN アクセスポイントのネットワーク機器に割り当てられていますので、接続する予定のネットワークの無線 LAN アクセスポイントのネットワーク機器と同じ SSID を設定してください。通常は、SSID の情報を含むパケット（ビーコンとも呼ばれます）が無線 LAN アクセスポイントから発信されます。

お使いの無線 LAN アクセスポイントのネットワーク機器のパケット（ビーコン）を受信すると、近くにある電波強度が強い無線 LAN を識別することができます。

● チャンネル

無線 LAN では通信のためにチャンネルが使われます。それぞれのチャンネルはすでに決められた異なる周波数帯域を持っており、14 種類のチャンネルを使用することができます。

セキュリティ用語

● 認証方式と暗号化について

ほとんどの無線 LAN は、いくつかのセキュリティ設定を使用します。セキュリティ設定に関する設定には、認証方式（ネットワークにアクセスしようとしている機器にアクセス権があるかどうかを判断する方法）と暗号化方式（データを暗号化することにより第 3 者によりデータの傍受を防ぐ方法）の設定があります。本製品を無線 LAN に確実に接続するためには、これらの設定を正しく行う必要があります。

本製品がサポートする認証方式および暗号化方式について詳しくは、下記をご覧ください。

⇒ 132 ページ「ネットワークの仕様」

● パーソナル（無線 LAN）モードでの認証方式と暗号化について

認証方式

● オープンシステム

認証を行わず、すべてのアクセスを許可します。

● 共有キー

あらかじめ秘密のネットワークキーを設定しておいて、同じキーを使用している機器にのみアクセスを許可します。

本製品では共有キーとして WEP キーを使用しています。

● WPA-PSK/WPA2-PSK

WPA-PSK/WPA2-PSK は、Wi-Fi Alliance[®] が提唱する事前共有キーを使用した認証方式です。

WPA-PSK の TKIP、または WPA-PSK、WPA2-PSK の AES の暗号キーを使用して、本製品をアクセスポイントに接続します。

WPA-PSK/WPA2-PSK による認証を使用する場合には、接続する相手の機器も WPA-PSK/WPA2-PSK に対応している必要があります。

WPA2-PSK 方式は、WPA-PSK 方式よりセキュリティの高い認証方式になっています。

暗号化方式

● なし

暗号化を行いません

● WEP

共通の暗号キーを設定してデータを暗号化し、送受信を行います。

● TKIP

一定時間ごと、または一定パケット量ごとに暗号キーが更新されるため、WEP キーによる暗号化よりも高いセキュリティになっています。

● AES

米国商務省標準技術局（NIST）によって制定された、TKIP より強力な暗号化方式です。

暗号化キー（ネットワークキー）

● WEP 暗号化方式（オープンシステム / 共有キー）

WEP 暗号化キーは次の規定に従い、64bit または 128bit キーに対応する値を ASCII 文字か 16 進数フォーマットで入力します。

- 64 (40) bit ASCII 文字：半角 5 文字で入力します。
例) "Hello" (大文字と小文字は区別されます)
- 64 (40) bit 16 進数：10 桁の 16 進数で半角入力します。
例) "71f2234aba"
- 128 (104) bit ASCII 文字：半角 13 文字で入力します。
例) "Wirelesscomms" (大文字と小文字は区別されます)
- 128 (104) bit 16 進数：26 桁の 16 進数で半角入力します。
例) "71f2234ab56cd709e5412aa3ba"

● TKIP/AES 暗号化方式（WPA-PSK/WPA2-PSK）

PSK（事前共有キー）を ASCII 文字 / 半角 8 ～ 63 文字以内で入力します。

第 13 章 Windows® でネットワークを設定する

ネットワークプリンター設定の種類

次の機能を使って、ネットワークプリンターやスキャナーの設定（プリンタードライバーやスキャナードライバーのインストール）をすることができます。

- Web Services（Windows Vista®、Windows® 7、Windows® 8 のみ）
- Vertical Pairing（Windows® 7、Windows® 8 のみ）



“ホストコンピューターと本製品が同じサブネット上にあるか” または “ルーターが 2 つのデバイス間で正しくデータのやり取りができるように設定されているか” のどちらかを確認してください。

Web Services を使用する（Windows Vista®、Windows® 7、Windows® 8 のみ）

Web Services を使用すると、ネットワーク上の本製品の情報を閲覧することができます。プリンタードライバーやスキャナードライバーは、下記の手順で簡単にインストールすることができます。パソコンのウェブサービス・ポート（WSD ポート）も自動的に作成されます。Web Services スキャンの使用方法について詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Web Services を使ってスキャンする」



- Web Services を使用する前に、本製品の IP アドレスの設定をしてください。
- Windows Server® 2008/2012 では、Print Service をインストールしてください。

●プリンター（スキャナー）ドライバーのインストール



1 本製品に付属のドライバー & ソフトウェア CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。



2 CD-ROM ドライブ内の [/install/driver/gdi/32_64] を選択します。



3 [dpinstx86.exe] または [dpinstx64.exe] をダブルクリックします。



「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] または、[はい] をクリックします。

4

(Windows Vista® の場合)

 メニューから [ネットワーク] をクリックします。

(Windows® 7 の場合)

 メニューから [コントロール パネル] – [ネットワークとインターネット] – [ネットワークのコンピューターとデバイスの表示] の順にクリックします。

(Windows® 8 の場合)

画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] – [PC 設定の変更] – [デバイス] – [デバイスの追加] の順にクリックします。

(Windows® 8.1 の場合)

画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] – [PC 設定の変更] – [PC とデバイス] – [デバイス] – [デバイスの追加] の順にクリックします。

5

(Windows Vista®, Windows® 7 の場合)

本製品の Web Services 名のプリンターアイコンが表示されたら、アイコンを右クリックします。



本製品の Web Services 名は、本製品のモデル名と MAC アドレス (イーサネットアドレス) です。

例) Brother XXX-XXXX [xxxxxxxxxxxx]

(「XXX-XXXX」はモデル名、[xxxxxxxxxxxx] は MAC アドレス (イーサネットアドレス) の 12 桁です。)

(Windows® 8 の場合)

本製品の Web Services 名が表示されます。



マウスを本製品名の上にあてると、本製品の情報が表示されます。

6

(Windows Vista®, Windows® 7 の場合)

プルダウンメニューから [インストール] を選択します。



プルダウンメニューから [プロパティ] を選択すると、「ネットワークデバイス」画面で本製品の情報を閲覧することができます。

(Windows® 8 の場合)

本製品名をクリックします。

● プリンター (スキャナー) ドライバーのアンインストール



(Windows Vista® の場合)

メニューから [ネットワーク] をクリックします。

(Windows® 7 の場合)

メニューから [コントロール パネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークのコンピューターとデバイスの表示] の順にクリックします。

(Windows® 8 の場合)

画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] - [PC 設定の変更] - [デバイス] の順にクリックします。

(Windows® 8.1 の場合)

画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] - [PC 設定の変更] - [PC とデバイス] - [デバイス] の順にクリックします。



(Windows Vista®, Windows® 7 の場合)

本製品の Web Services 名のプリンターアイコンが表示されたら、アイコンを右クリックします。



本製品の Web Services 名は、本製品のモデル名と MAC アドレス (イーサネットアドレス) です。

例) Brother XXX-XXXX [xxxxxxxxxxxxx]

(「XXX-XXXX」はモデル名、[xxxxxxxxxxxxx] は MAC アドレス (イーサネットアドレス) の 12 桁です。)

(Windows® 8 の場合)

本製品の Web Services 名が表示されます。アンインストールしたいデバイス名横の をクリックします。

(Windows® 8.1 の場合)

本製品の Web Services 名が表示されます。アンインストールしたいデバイス名横の [デバイスの削除] をクリックします。



(Windows Vista®, Windows® 7 の場合)

プルダウンメニューから [アンインストール] を選択します。

(Windows® 8 の場合)

確認画面が表示されたら [削除] をクリックします。

(Windows® 8.1 の場合)

確認画面が表示されたら [はい] をクリックします。

Vertical Pairing を使用する (Windows[®] 7、Windows[®] 8 のみ)

Windows[®] Vertical Pairing は、Vertical Pairing をサポートしている無線機器を WPS の PIN 方式と Web Services の特徴を使って、インフラストラクチャネットワークに接続するための機能です。

この機能を利用することで本製品の無線 LAN 設定からプリンタードライバーとスキャナードライバーのインストールまで一連の手順で行うことができます。

次の手順に従ってください。



- Web Services を利用するには、ウェブブラウザから本製品の [ネットワーク] - [プロトコル] で Web Services のチェックボックスにチェックが入っているかを確認してください。入っていない場合は、チェックボックスにチェックを入れてください。本製品の Web Services の初期設定は、チェックが入っています。
- Web Services の設定は、ウェブブラウザまたは BRAdmin Professional で変更することができます。
- お使いのアクセスポイントまたはルーターに Windows[®] 7 または Windows[®] 8 の互換性ロゴが組み込まれているかを確認してください。
- お使いのパソコンに Windows[®] 7 または Windows[®] 8 の互換性ロゴが組み込まれているかを確認してください。詳しくは、パソコンの製造元にお問い合わせください。
- 外付けの拡張カード（ネットワークカード）を使用して無線 LAN 設定をしている場合は、拡張カード（ネットワークカード）に Windows[®] 7 または Windows[®] 8 の互換性ロゴが組み込まれているかを確認してください。詳しくは、拡張カード（ネットワークカード）の製造元にお問い合わせください。
- Windows[®] 7 または Windows[®] 8 のパソコンをレジストラとして使用するには、前もってパソコンに無線ネットワークプロファイルを登録してください。詳しくは、無線 LAN アクセスポイントまたはルーターの取扱説明書を参照してください。



1 本製品の電源コードが差し込まれていることを確認し、電源を入れます。



2 待ち受け画面の  を押し、【WPS (PIN コード)】を押します。

【WPS (PIN コード)】が表示されていないときは、▼ / ▲ を押して画面を送ります。

本製品が有線 LAN に設定されていた場合は、無線 LAN に切り替える確認画面が表示されます。
【はい】を押します。

画面に 8 桁の PIN コードが表示されます。



【WPS (PIN コード)】は、 【メニュー】を押し、【全てのメニュー】、【ネットワーク】、【無線 LAN】の順に押しても選択できます。

3

(Windows® 7 の場合)

パソコンの  メニューから [デバイスとプリンター] – [デバイスの追加] の順にクリックします。

(Windows® 8 の場合)

パソコンの画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] – [コントロール パネル] – [ハードウェアとサウンド] – [デバイスとプリンター] – [デバイスの追加] の順にクリックします。

4

本製品を選択し、[次へ] をクリックします。

5

本製品の操作パネルに表示された PIN コードを入力し [次へ] をクリックします。

6

接続するインフラストラクチャのネットワークを選択し、[次へ] をクリックします。無線 LAN 接続とプリンタードライバーのインストールに成功すると、「デバイスとプリンター」のウィンドウに本製品が表示されます。

Wi-Fi Direct[®] 接続で Vertical Pairing を使用する (Windows[®] 8.1 のみ)

Windows[®] 8.1 では、Vertical Pairing に対応した無線機器を、WPS のワンプッシュ方式や PIN 方式と Web Services の特徴を使って、Wi-Fi Direct[®] ネットワークに接続することができます。この機能を利用することで本製品の無線 LAN 設定からプリンタードライバーとスキャナードライバーのインストールまで一連の手順で行うことができます。次の手順に従ってください。



- Web Services の設定は、BRAdmin Professional で変更することができます。
- お使いのパソコンに Windows[®] 8.1 の互換性ロゴが組み込まれているかを確認してください。詳しくは、パソコンの製造元にお問い合わせください。
- 外付けの拡張カード（ネットワークカード）を使用して無線 LAN 設定をしている場合は、拡張カード（ネットワークカード）に Windows[®] 8.1 の互換性ロゴが組み込まれているかを確認してください。詳しくは、拡張カード（ネットワークカード）の製造元にお問い合わせください。



1 本製品の電源コードが差し込まれていることを確認し、電源を入れます。



2 本製品の 【メニュー】を押し、【全てのメニュー】、【ネットワーク】、【Wi-Fi Direct】、【プッシュボタン接続】を押します。
【Wi-Fi Direct を有効にしますか？】と表示されたら、【オン】を押します。



3 パソコンの画面の右下にマウスを動かして、メニューバーが表示されたら [設定] – [コントロール パネル] – [ハードウェアとサウンド] – [デバイスとプリンター] – [デバイスの追加] の順にクリックします。



4 本製品を選択し、【次へ】を押します。



お使いのパソコンに WPS PIN の入力を要求するダイアログボックスが表示された場合は、本製品の画面に表示される PIN を入力し、[次へ] をクリックします。



5 本製品に【相手側デバイスの Wi-Fi Direct 設定を有効にして【OK】ボタンを押してください】と表示されたら、【OK】を押します。



6 無線 LAN 接続とプリンタードライバーのインストールに成功すると、「デバイスとプリンター」のウィンドウに本製品が表示されます。

第 14 章 セキュリティーの用語と概念

セキュリティの特長

● セキュリティー用語

● 証明機関 (CA)

電子的な身分証明書 (X.509 証明書) を発行し、証明書内の公開鍵などのデータと、その所有者の結びつきを保証する機関です。

● 証明書

公開鍵と本人を結びつける情報です。証明書を用いて、個人に所属する公開鍵を確認することができます。形式は、X.509 規格で定義されています。

● CA 証明書

CA 証明書は、証明機関 (CA) 自体を証明して、その秘密鍵を所有する証明書です。

● デジタル署名

データの受信者がデータの正当性を確認するための情報です。暗号アルゴリズムで計算される値で、データオブジェクトに付加されます。

● 公開鍵暗号システム

秘密鍵と公開鍵で一対の鍵になります。暗号化するための公開鍵と復号化するための秘密鍵に、それぞれ異なるキーを用いる暗号方法です。

● 共有鍵暗号システム

暗号化するための公開鍵と復号化するための秘密鍵に、同じキーを用いる暗号方法です。

● セキュリティープロトコル



ウェブブラウザ設定を使用してセキュリティプロトコルの設定をすることができます。

● SSL (Secure Socket Layer) / TLS (Transport Layer Security)

これらのセキュリティ通信プロトコルは、データを暗号化して、セキュリティを強化します。

● E メール送受信のセキュリティ方法 (MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ)



ウェブブラウザを使用してセキュリティ方法の設定をすることができます。
⇒ 82 ページ「安全な E メール送受信 (MFC-J6973CDW/J6990CDW のみ)」

● POP before SMTP (PbS)

クライアントから E メールを送信する際のユーザー認証方法です。クライアントは、E メールを送信する前に POP3 サーバーにアクセスすることによって、SMTP サーバーを使用する許可を得ます。

● SMTP-AUTH (SMTP 認証)

クライアントから E メールを送信する際のユーザー認証方法です。SMTP-AUTH は、SMTP (インターネット E メール送信プロトコル) を拡張し、送信者の身元を確認する認証方法を取り入れたものです。

● APOP

APOP は、POP3 (インターネット E メール受信プロトコル) を拡張し、クライアントが E メールを受信するときに用いるパスワードを暗号化する認証方法を取り入れたものです。

● SMTP over SSL

SMTP over SSL は、SSL を使用して暗号化した E メールを送信することができます。

● POP over SSL

POP over SSL は、SSL を使用して暗号化した E メールを受信することができます。

付録

第 15 章 付録	126
-----------------	-----

第 15 章 付録

用語集

● ADSL

Asymmetric Digital Subscriber Line の略。銅線の一般加入者電話（アナログ）回線を利用して、数 M ～数十 Mbps の高速データ通信を可能にする通信方式です。

● APIPA

Automatic Private IP Addressing の略。IP アドレスの自動的な割り当て管理機能です。本製品では最初に自身のシステムに割り当てる IP アドレスを「169.254.1.0 ～ 169.254.254.255」の範囲からランダムに 1 つ選びます。そして、ARP 要求をネットワークにブロードキャストすることによって、その IP アドレスがほかのシステムで利用されていないかどうかを確認します。もしほかのシステムから ARP の応答が返ってくれば、その IP アドレスは使用中であるとみなし、別の IP アドレスで再試行します。このようにして未使用の IP アドレスを見つけ、自身のシステムに割り当てることによって、IP アドレスが重複しないことを保障します。

● ARP

Address Resolution Protocol の略。IP アドレスから MAC アドレス（イーサネットアドレス）を求めるためのプロトコルです。

● BOOTP

BOOTstrap Protocol の略。ハードディスクを搭載しないディスクレスクライアントシステムが、ネットワークアクセスを行うための IP アドレスやサーバーアドレス、起動用プログラムのロード先などを見つけだし、システムを起動できるようにすることを目的として開発された UDP/IP 上のプロトコルです。BOOTP を利用すれば、ネットワーククライアントの IP アドレスやノード名、ドメイン名、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレス、DNS サーバーアドレスなどの情報を、クライアントの起動時に動的に割り当てられるようになります。TCP/IP ネットワークでは、各クライアントにこれらのネットワーク情報を設定する必要がありますが、BOOTP を利用すれば、クライアントの管理をサーバー側で集中的に行えるようになります。そのあと、一部を改良された DHCP が開発され、広く利用されるようになっています。

● DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol の略。DHCP は、IP アドレスやサーバーアドレスなどの設定ファイルを起動時に読み込めるように開発された BOOTP（BOOTstrap Protocol）をベースとする上位互換規格です。

BOOTP は、クライアントの IP アドレスやノード名などをあらかじめ決定しておく必要がありましたが、DHCP では、クライアントがネットワークに参加するためのすべてのパラメーター（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、ドメイン名など）を自動的に割り当てることができます。サービスを実行するにはサーバーもしくは、その機能を有するルーターが必要です。

● DNS

Domain Name System の略。Domain Name System という体系で命名されたホスト名（ドメイン名）から IP アドレスを調べるためのサービスです。ネットワーク上の資源を管理・検索するためのシステムです。インターネットの IP アドレスの名前の解決に広く利用されています。

● FTTH

Fiber To The Home の略。電話局から各家庭までの加入者線を結ぶアクセス網を光ファイバー化し、高速な通信環境を構築する計画のことを指します。
光ファイバーを使用すると、高速なインターネット接続や格安なひかり電話サービスを利用することができます。

● ISDN

Integrated Services Digital Network の略。「総合デジタル通信網」と呼ばれるサービス体系の総称です。

● LAN

Local Area Network の略。同一フロア、同一のビル内などにあるパソコン同士を、Ethernet などの方法で接続したネットワークのことを指し、閉鎖されたネットワークという位置付けがあります。

● MAC アドレス（イーサネットアドレス）

Media Access Control の略。OSI 参照モデルのデータリンク層で定義されるインターフェイスカードのアドレス。機器内部に記憶されているので、ユーザーが変更することはできません。

● MDN（受信確認通知）

SMTP（Simple Mail Transfer Protocol）送信機能を使用してインターネットファクスまたは E メールメッセージが相手機に受信されると、MDN は相手機に対して受信確認を要求します。相手機のユーザーは、受信した E メールメッセージのデータを使用して、インターネットファクスまたは Eメールの内容を読んだり、出力したりすることができます。相手機のユーザーが、受信したインターネットファクスまたは Eメールの内容を読んだり、出力したりするために Eメールメッセージを開くと、相手機は送信元に受信確認を送付します。

● mDNS（multicast DNS）

DNS サーバーが存在しないような小規模なローカルエリアネットワーク環境においても、クライアントコンピューターがネットワーク上に存在する機器を名前を検索して利用できるようにする機能です。Apple Mac OS X の簡易ネットワーク設定機能などで使われています。

● ping

Packet INternet Groper の略。相手先ホストへの到達可能性を調べるコマンドです。

● RARP

Reverse Address Resolution Protocol の略。TCP/IP ネットワークにおいて、MAC アドレス（イーサネットアドレス）から IP アドレスを求めるのに使われるプロトコルです。

● SOHO

Small Office / Home Office の略。小人数のオフィスや、家庭で仕事をする個人事業者を指します。大企業と対照的に使用されることが多いようです。

● TCP/IP

Transmission Control Protocol / Internet Protocol の略。インターネットで使用されているプロトコル、通信ソフト（アプリケーション）を特定して通信路を確立するプロトコル（TCP）と、通信経路（IP）から構成されています。OSI 参照モデルでは TCP はレイヤー 4、IP はレイヤー 3 に対応しています。

● WINS

Windows[®] Internet Name Service の略。Windows[®] 環境で、ネームサーバーを呼び出すためのサービスです。サービスを実行するにはサーバーが必要です。

● WWW

World Wide Web の略。インターネットでの情報検索システム、サービスシステムの 1 つです。

● カテゴリー

LAN ケーブルの品質を指します。カテゴリー 5 は 100BASE-TX で利用されています。将来ギガビット・イーサネット（1000BASE-T）によるネットワークを想定する場合は、カテゴリー 6 を選択することが推奨されています。カテゴリー 5 で保証される周波数帯域は 100MHz までですが、カテゴリー 6 では 250MHz まで保証されています。また、LAN ケーブルは UTP ケーブルと呼ばれる場合もあり、UTP は Unshielded Twisted Pair の略で、「より線」のことを指しています。シールドつきのものは、STP ケーブルと呼ばれます。

● ゲートウェイアドレス

ネットワークとネットワークを接続する際の、外部のネットワークとの接点となるホストの IP アドレスを指します。

ゲートウェイは、別名「デフォルトルーター」や、単に「ルーター」と呼ばれる場合もあります。ルーターは、同一ネットワーク内に存在するホストである面と、ほかのネットワークにも同時に所属している両面を持っています。

● サブネットマスク

ネットワークを複数の物理ネットワークに分割するのに使用します。サブネットマスクはクラスごとに固定されています。

クラス A	255.0.0.0
クラス B	255.255.0.0
クラス C	255.255.255.0

ルーターの取扱説明書によっては、192.168.1.1 / 255.255.255.0 のことを、192.168.1.1/24 と表記している場合があります。255.255.255.0 を 2 進数に換算すると、先頭から 1 が 24 個並びます。"/24" とは、このことを指します。24bit 以外のマスク値を設定することも可能ですが、IP 管理が複雑になりますので、マスク値は 24bit でご利用することをお勧めします。なお、ローカルネットワークで利用する IP アドレスのことをプライベート IP アドレスと呼び、こちらもクラスが分かれています。

クラス A	10.0.0.0 ~ 10.255.255.255
クラス B	172.16.0.0 ~ 172.31.255.255
クラス C	192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

● スイッチング・ハブ

スイッチング機能を持つハブ（集線装置）。パケットをその宛先に応じて振り分け、ネットワークトラフィックを局所化して、ネットワークの全体的な通信バンド幅を増やすことができるのが特徴です。10BASE-T や 100BASE-TX などのネットワークでは、各ネットワーク機器同士をハブで相互に接続していますが、Ethernet の通信方式の関係上、ノード数が増えると有効な帯域幅が急速に飽和するという特性を持っています。そこで、実際に通信をするポート同士だけを直結して通信を行い、それ以外のポートへは流れないようにするスイッチング技術が開発されました。これを実装したハブをスイッチング・ハブといいます。

● ドメイン名

一般的に「taro@brother.co.jp」という E メールアドレスの場合、@より後ろの「brother.co.jp」の部分指しています。

● ノード

node。ネットワークに接続されているパソコンなどの機器を指します。「ノード名」と「ホスト名」は同じ意味です。

● ルーター

ネットワーク間（LAN と LAN、LAN と WAN）の接続を行うネットワーク機器の 1 つです。ルーターはインターネット接続されたアドレスを変換し、LAN 内からアクセスできるようにしたり、LAN 内のサーバーを指定したポートを通じて外部に公開したりする NAT（アドレス変換）の機能があります。

● 無線 LAN に関する用語

● IEEE802.11b/IEEE802.11g/IEEE802.11n

IEEE（米国電気電子学会）で定めた無線 LAN 規格で、IEEE802.11n は IEEE802.11g および IEEE802.11b の上位互換です。通信速度は IEEE802.11b が最大 11M ビット / 秒、IEEE802.11g が最大 54M ビット / 秒、IEEE802.11n では 100M ビット / 秒以上の通信が可能です。本製品の無線 LAN 機能は IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11n の規格に対応しています。

● AES

米国商務省標準技術局（NIST）によって制定された、TKIP より強力な暗号化方式です。

● AOSS™

AirStation One-Touch Secure System の略。バッファロー社の無線 LAN アクセスポイント、エアーステーションシリーズに搭載されている機能で、接続設定とセキュリティ設定が簡単に行えます。

● ASCII

American Standard Code for Information Interchange の略。アメリカ規格協会が定めた情報交換用の文字や記号を数値表現したものです。例えば ASCII コードの「41」はアルファベットの「A」を表します。

● HEX

HEXADECIMAL の略。数字の 0 ～ 9 およびアルファベットの A ～ F を使用する 16 進数表示です。

● MAC アドレスフィルタリング

無線 LAN アクセスポイントに MAC アドレスを登録することにより、許可された無線 LAN 端末以外は接続できなくなります。

● SSID

Service Set Identifier の略。ネットワーク名とも呼ばれる SSID は、無線 LAN をほかの無線 LAN と区別するネットワークの識別子のことで、無線 LAN をグループ化するために用いられます。通常は無線 LAN アクセスポイントから発信されるビーコン等のパケットに含まれますが、ネットワークによっては、セキュリティ強化のために SSID を表示しないようにする場合もあります。（SSID の隠ぺい）

● TKIP

Temporal Key Integrity Protocol の略。WEP の後継にあたる暗号化の規格で、暗号化方式は WEP と同じ RC4 を利用しています。

TKIP は一定時間ごと、または一定パケット量ごとにネットワークキーが更新されるため WEP キーによる暗号化よりも高いセキュリティになります。

● WEP

Wired Equivalent Privacy の略。IEEE802.11 で標準化されている暗号化方式です。無線 LAN アクセスポイントやクライアントで共通のネットワークキー（WEP キー）を設定して通信の暗号化を行います。設定したネットワークキーが一致しない限り暗号化されたデータを解読することができません。

● WPA-PSK

無線 LAN の業界団体 Wi-Fi Alliance® が提唱する WPA™（Wi-Fi Protected Access®）の Personal モードです。WPA-PSK は、無線 LAN で使用される暗号化技術を用いた認証方式の 1 つであり、TKIP または AES 暗号化を使用した PSK（事前共有キー）による認証を行います。

● WPA2-PSK

次世代標準暗号化方式の「AES」を使用した強力な暗号技術を用いた承認方式の 1 つであり、AES ネットワークキーを使用した PSK（事前共有キー）による認証を行います。

WPA2-PSK 対応の無線 LAN 端末であれば WPA-PSK 互換モードにより、従来使用されている WPA 対応機器との通信もできます。

● WPS

Wi-Fi Protected Setup™ の略。Wi-Fi Alliance® が考案した、簡単に無線接続設定ができる規格です。無線 LAN アクセスポイントと無線接続を行いたい機器が WPS に対応していれば、セットアップボタンを押すだけで設定が完了して接続できるようになります。プッシュボタン方式以外にも、PIN（Personal Identification Number）と呼ばれる機器固有の番号を入力・登録する PIN コード方式があります。PIN コード方式は主にパソコン向けであり、プッシュボタン方式はゲーム機やプリンターなどのように入力インターフェイスを持たない機器向けの仕様です。

● アドホック（Ad-hoc）通信

無線 LAN アクセスポイントを経由しないで、直接それぞれの無線 LAN 端末間で通信するネットワークです。このタイプのネットワークは、アドホックモードまたはピア・ツー・ピア・ネットワークとも呼ばれています。

● インフラストラクチャ（Infrastructure）通信

無線 LAN アクセスポイントを経由して、それぞれの無線 LAN 端末が通信するネットワークです。インフラストラクチャモードとも呼ばれています。

● セキュリティー（Security）

無線 LAN では電波の届く範囲内であれば自由にそのネットワークへ接続することが可能になります。従って、悪意を持った第三者による通信内容の盗聴や、無断でネットワークに侵入されて個人情報やデータの改ざん、システムの破壊などの行為を許さないために暗号化などの安全保護を行うことを推奨します。この安全保護のことをセキュリティーといいます。

● チャンネル（Channel）

無線 LAN では通信のためにチャンネルが使われます。それぞれのチャンネルはあらかじめ決められたそれぞれ異なる周波数帯域を持っています。1 つの無線 LAN 内のすべての無線 LAN 端末は、同じチャンネルを使う必要があります。

● ネットワーク認証

無線 LAN で使われる認証方式の総称です。本製品がサポートしている認証方式としては、オープンシステム認証、共有キー認証、WPA/WPA2-PSK などがあります。

● 信号強度

無線 LAN 端末が無線 LAN アクセスポイントまたは、ほかの無線 LAN 端末から受信する電波の強さのことです。

● 無線 LAN アクセスポイント（アクセスポイント）

個々の無線 LAN 端末は、ネットワークの中心にある無線 LAN アクセスポイントを介して通信します。また、無線 LAN アクセスポイントはセキュリティー管理も行っています。

ネットワークの仕様

● 有線 LAN

項目	内容	
ネットワーク	10/100 BASE-TX	
プロトコル	IPv4	ARP, RARP, BOOTP, DHCP, APIPA(Auto IP), WINS/Net-BIOS name resolution, DNS Resolver, mDNS, LLMNR responder, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, IPP, FTP Client and Server, SNMPv1/v2c, TFTP server, SMTP Client, APOP, POP before SMTP, SMTP-AUTH, ICMP, Web Services (Print/Scan), CIFS Client, SNTTP Client
	IPv6	(お買い上げ時は【オフ】に設定されています) NDP, RA, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, IPP, mDNS, FTP Server, SNMPv1, TFTP, Scanner Port, Web Services (Print/Scan), SMTP Client, POP before SMTP, SMTP-AUTH, POP3, APOP, FTP Client, CIFS Client, SNTTP Client

● 無線 LAN

項目	内容	
ネットワーク	IEEE 802.11b/g/n (インフラストラクチャ通信、アドホック通信)	
	IEEE 802.11g/n (Wi-Fi Direct® 接続)	
ネットワークのセキュリティ	SSID (32 characters), WEP 64/128bit, WPA-PSK(TKIP/AES), WPA2-PSK(AES)	
プロトコル	IPv4	ARP, RARP, BOOTP, DHCP, APIPA(Auto IP), WINS/Net-BIOS name resolution, DNS Resolver, mDNS, LLMNR responder, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, IPP, FTP Client and Server, SNMPv1/v2c, TFTP server, SMTP Client, APOP, POP before SMTP, SMTP-AUTH, ICMP, Web Services (Print/Scan), CIFS Client, SNTTP Client
	IPv6	(お買い上げ時は【オフ】に設定されています) NDP, RA, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, IPP, mDNS, FTP Server, SNMPv1, TFTP, Scanner Port, Web Services (Print/Scan), SMTP Client, POP before SMTP, SMTP-AUTH, POP3, APOP, FTP Client, CIFS Client, SNTTP Client

サービスを使用する

本製品のプリントサーバーへ印刷を行うために、パソコンからアクセスすることのできるリソースをサービスと呼びます。本製品のプリントサーバーには、次の定義済みサービスが用意されています。

●本製品に内蔵されているサービス名

サービス名（例）	説明
BINARY_P1	TCP/IP バイナリおよび LAT サービス
TEXT_P1	TCP/IP テキストサービス (LF のあとに CR を追加)
BRNxxxxxxxxxxxx ^{*1}	NetWare サービスと NetBIOS サービス (下位互換のため TCP/IP と LAT が使用可能)

^{*1} [xxxxxxxxxxxx] は MAC アドレス（イーサネットアドレス）です。

IP アドレスの設定方法（上級者ユーザー、ネットワーク管理者向け）

● DHCP を使用して IP アドレスを設定する

DHCP は、IP アドレス自動割り当て機能の 1 つです。ネットワーク上に DHCP サーバーがある場合は、その DHCP サーバーから本製品に自動的に IP アドレスなどが割り当てられます。



DHCP、BOOTP、RARP または APIPA 機能を使用しない場合は、自動的に IP アドレスを取得しないように、本製品のネットワークメニュー、BRAdmin Light、リモートセットアップまたはウェブブラウザを使用して、IP の設定方法を手動（Static（固定））に設定してください。

● BOOTP を使用して IP アドレスを設定する

BOOTP は、RARP とは別の方法で IP アドレスを取得する方法です。IP アドレスのほか、サブネットマスクやゲートウェイアドレスも取得します。

BOOTP を使用して IP アドレスを設定するには、ホストコンピュータに BOOTP がインストールされ、実行されている必要があります。ホスト上の /etc/services ファイルに BOOTP がリアルサービスとして記述されていなければなりません。man bootpd と入力するか、システムのマニュアルを参照してください。

通常、BOOTP は /etc/inetd.conf ファイルを使用して起動されますので、このファイルの bootp エントリーの行頭にある # を削除して、この行を有効にしておく必要があります。

一般的な /etc/inetd.conf ファイル内の bootp エントリーを以下に示します。

```
#bootp dgram udp wait /usr/etc/bootpd bootpd -i
```



- BOOTP サーバーの設置については BOOTP の説明書を参照してください。
- システムによって、このエントリーには「bootp」ではなく「bootps」が使用されている場合があります。

BOOTP を有効にするには、エディターを使用して行頭の # を削除します。# がない場合は、BOOTP はすでに有効になっています。

次に、設定ファイル（通常は /etc/bootptab）を編集し、ネットワークインターフェイスの名前、ネットワークの種類（Ethernet の場合は 1）、MAC アドレス（イーサネットアドレス）、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力します。ただし、この記述フォーマットは標準化されていないため、システムのマニュアルを参照してください。

一般的な /etc/bootptab エントリーの例を、以下に示します。（無線 LAN の場合は、「BRN」の部分を「BRW」にします。）

```
BRN008077310107 1 00:80:77:31:01:07 192.189.207.3
```

および

```
BRN008077310107:ht=ethernet:ha=008077310107:¥ip=192.189.207.3:
```

BOOTP ホストソフトウェアの中には、ダウンロードするファイル名が設定ファイル内に含まれていないと、BOOTP リクエストに 응답しないものがあります。そのような場合は、ホスト上に null ファイルを作成し、このファイルの名前とパスを設定ファイル内で指定します。

RARP での設定の場合と同じように、本製品の電源を入れると、BOOTP サーバーから IP アドレスが割り当てられます。

● RARP を使用して IP アドレスを設定する

ホストコンピュータで Reverse ARP（RARP）機能を使用し、本製品の IP アドレスを設定することができます。

以下のエントリー例と同じような行を追加入力して、/etc/ethers ファイルを編集してください（ファイルが存在しない場合は、新しいファイルを作成します）。

例）00:80:77:31:01:07 BRN008077310107

00:80:77:31:01:07 は本製品の MAC アドレス（イーサネットアドレス）、BRN008077310107 は本製品のノード名です。

お使いの製品の設定に合わせて入力してください。（ノード名は、/etc/hosts ファイル内の名前と同じでなければなりません。）

rarp デーモンが実行されていない場合は、実行します。

使用環境により、コマンドは rarpd、rarpd -a、in.rarpd -a になります。詳細情報については、man rarpd と入力するか、システムのマニュアルを参照してください。Berkeley UNIX ベース環境で rarp デーモンを確認するには、以下のコマンドを入力してください。

```
ps -ax | grep -v grep | grep rarpd
```

AT&T UNIX ベース環境では、以下のコマンドを入力してください。

```
ps -ef | grep -v grep | grep rarpd
```

本製品の電源を入れると、rarp デーモンから IP アドレスが割り当てられます。

● APIPA を使用して IP アドレスを設定する

DHCP サーバーが利用できない場合は、本製品の IP アドレス自動設定機能（APIPA）によって IP アドレスとサブネットマスクを自動的に割り当てます。本製品の IP アドレスを 169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲、サブネットマスクは 255.255.0.0、ゲートウェイアドレスは 0.0.0.0 に、自動的に設定します。

初期設定では、【APIPA】は【オン】に設定されています。APIPA を使用しない場合は、本製品のネットワークメニュー、BRAdmin Light またはウェブブラウザを使用して、【APIPA】を【オフ】に設定してください。

● ARP を使用して IP アドレスを設定する

BRAdmin Light およびネットワーク上で DHCP サーバーが利用できない場合は、ARP コマンドを使用して、IP アドレスを設定することができます。ARP コマンドは UNIX システムと同様に、TCP/IP プロトコルがインストールされている Windows® システムでも使用することができます。ARP を使用するためには、コマンドプロンプトで以下のコマンドを入力してください。

```
arp -s ipaddress ethernetaddress
ping ipaddress
```

ethernetaddress にはプリントサーバーの MAC アドレス（イーサネットアドレス）を、ipaddress には IP アドレスを入力します。

● Windows® システムの入力例

Windows® システムでは、MAC アドレスの文字間に -（ハイフン）が必要です。

```
arp -s 192.168.1.2 00-80-77-31-01-07
ping 192.168.1.2
```

● UNIX®/Linux システムの入力例

一般的に UNIX と Linux システムでは、MAC アドレスの文字間に :（コロン）が必要です。

```
arp -s 192.168.1.2 00 : 80 : 77 : 31 : 01 : 07
ping 192.168.1.2
```



- arp-s コマンドを使用するには、プリントサーバーと同じイーサネットセグメント上にあるオペレーションシステム（ルーターがプリントサーバーとオペレーションシステムの間に存在しない状態）で使用してください。
- ルーターがある場合は、BOOTP またはその他の方法を使用して IP アドレスを設定してください。
- ネットワーク管理者が、BOOTP、DHCP または RARP を使用して IP アドレスを割り当てるためにシステムを設定している場合、本製品のプリントサーバーは、これらの IP アドレス配布サーバーのいずれかより IP アドレスを受け取ることができます。このような場合は、ARP コマンドを使用する必要はありません。
- ARP コマンドは一度しか使用できません。
一度 ARP コマンドを使用して本製品のプリントサーバーに IP アドレスを割り当てるとセキュリティの理由により、ARP コマンドを使用しての IP アドレスの変更ができなくなります。IP アドレスを変更する場合は、ウェブブラウザによる設定、またはプリントサーバーをお買い上げ時の設定に戻してください。（お買い上げ時の設定に戻すと、再度 ARP コマンドを使用することができます。）

索引

A

AES	116
AOSS™	22
APIPA	31, 111, 135
APOP	124
ARP	111, 136

B

BINARY_P1	133
BOOTP	111, 134
BRAdmin Light	12
BRAdmin Professional	17, 81, 86
BRNxxxxxxxxxxxx	133

C

CA 証明書	123
CIFS	112
Custom Raw Port	112

D

DHCP	111, 134
DNS クライアント	111
DNS サーバー	30

E

E メール通達	82
---------------	----

F

FTP	112
-----------	-----

I

IPP	112
IPv6	31, 112
IP アドレス	14, 29, 113
IP 取得方法	29

L

LLMNR	112
LPR/LPD	111

M

MAC アドレス	32
mDNS	112

N

NetBIOS name resolution	111
-------------------------------	-----

P

POP before SMTP	82, 124
POP over SSL	124
Port9100	112

R

RARP	111, 135
------------	----------

S

SMTP over SSL	124
SMTP-AUTH	82, 124
SMTP クライアント	112
SNMP	112
SSID	115
SSL/TLS	85, 123

T

TCP/IP	29, 111
TEXT_P1	133
TKIP	116
TKIP/AES 暗号化方式	116

V

Vertical Pairing	120
------------------------	-----

W

Web Services	112, 117
Web 接続設定	37
WEP	116
WEP 暗号化方式	116
Wi-Fi Direct® 接続	33
WINS	111
WINS サーバー	30
WINS 設定	30
WPA-PSK/WPA2-PSK	116
WPS	22
WPS/AOSS™	32
WPS (PIN コード)	23

あ
暗号化 115

い
イーサネット 31
印刷ログ機能 53
インターネットファクス 60, 62
インターネットファクスを受信する 68
インターネットファクスを送信する 66

う
ウェブブラウザ 45

お
オープンシステム 115

き
共有鍵暗号システム 123
共有キー 115

け
ゲートウェイ 14, 29, 114

こ
公開鍵暗号システム 123

さ
サーバー設定 34
サービス 133
サブネットマスク 14, 29, 114

し
手動受信 36
証明機関 (CA) 123
証明書 87, 123

せ
セキュリティー機能 81
セキュリティー機能ロック 2.0 48
接続アシスタント 31

そ
操作パネルで設定する 29

ち
チャンネル 115

て
デジタル署名 123

と
トラブル対処方法 99

に
認証方式 115

ね
ネットワーク PC-FAX 95
ネットワーク共有 110
ネットワーク診断修復ツール 105
ネットワークスキャン 91
ネットワーク設定リセット 38
ネットワークの仕様 132
ネットワークプリンター 117
ネットワークリモートセットアップ 97
ネットワーク設定リスト 39
ネットワークメニュー一覧 42

の
ノード名 30

は
パーソナルモード 115

ひ
ピアツーピア接続 109

ふ
プロトコル 111

む
無線 LAN 18, 115
無線 LAN レポート出力 41
無線状態 32
無線接続ウィザード 25

め
メールアドレス 34
メール受信設定 35
メール送信設定 36

ゆ

有線 / 無線切り替え	37
有線 LAN 状態	31

り

リレー設定	36
-------------	----

る

ルーター	114
------------	-----

brother